

は四五九頁の政を見よ。

【譏人】ザンジン わるくちを告げる人。

【譏口】ザンコウ 人をそしめる口、その言葉。

【譏舌】ザンゼツ 前に同じ。

【譏巧】ザンコウ 巧みに人をそしめる。「げぐち

【譏訴】ザンソ ①譏言して人を訴へる。②か

【譏言】ザンゲン ある事ない事を上につけて

人を陥れること、又その言葉。

【譏奏】ザンソウ 天子に譏言を申し上げる。

【譏陷】ザンケン 人を譏言して罪に陥す。

【譏問】ザンモン 譏言して人に仲たがひをさ

【譏毀】ザンキ 譏言し傷ける。「せる。

【譏構】ザンコウ なき事をいろ／＼とこしら

へて人をそしめる。「そしる。

【譏誣】ザンソ 無實の事を言ひ立て、人を

【譏謗】ザンバウ そしめる、又そしり。

【譏言】ザンゲン 口走る言葉、逸言。

【譏】ザン 漢吳 ①しふ(誣)あざむく

【譏文】ザンモン 未來記、豫言書。

【譏】ザン 漢吳 ①よるこぶ(歎)②や

クワン かましい、かまびすし

十九畫

【讚】ザン 漢吳 ①たゝへ

る、又其ほめことば②文章の一體にて

人の功徳をほめたゝへるもの

【讚美】ザンメイ たゝへる、ほめそやす。

【讚嘆】ザンタン 感心してほめる。

【讚仰】ザンギヤウ ほめたゝへて仰ぐ。

【讚稱】ザンショウ ほめたゝへる、稱讚。

【讚歎】ザンタン 讚嘆に同じ。「へる歌。

【讚美歌】ザンメイカ 耶蘇教にて神の徳をたゝ

欣讚ザン 畫讚ザン 研讚ザン 褒讚ザン

盛讚ザン 稱讚ザン 成讚ザン 賞讚ザン

【讚】ザン 二一七頁の嘆を見よ。

【謹】ジン 漢吳 正直なる言、正言

【謹言】ジンゲン 正しきことば。

【謹直】ジンジツ たゞし、正直。

【謹論】ジンロン 正しき議論、正論。

【謹議】ジンギ 前に同じ。

谷部

二十畫

【谷】コク 漢吳 ①たに、山間のくぼみ②山間のなが

れ、溪流③きはまる(窮)④こち、ひが

しかぜ、東風⑤谷蠡は匈奴藩王の封號

【谷風】コクフウ 東風、こち。「たとへし語。

【谷神】コクシン 道の體の空虚なことを谷に

【谷泉】コクセン たにあひより流れ出づる水

【谷間】コクカン たにあひ。

【谷底】コクテイ 谷のそこ。「形容。

【谷量】コクリヤウ 谷ではかる、物品の多き

廣谷コクワ 谿谷コクイ 峻谷コクン 遂谷コクキ

陵谷コクワ 空谷コクウ 深谷コクシ 窮谷コクユ

【谷】コク 一七〇頁の御を見よ。

【容】ヨウ 二九九頁の容を見よ。

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【舒】コ 漢カ 谷が深く開きてうつ

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【谿】キ 漢吳 たに(谷)

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ

【豆】トウ 漢 トウ



(豆)

【豆】トウ 漢 トウ

谷部 (十畫) 谿・谿

豆部 豆 (三一八畫) 豈・豈・豈・豈・豈・豈・豈・豈

野象ヤゾウ 戰象ゼンゾウ 天象テンゾウ 氣象キゾウ
形象キゾウ 印象インゾウ 現象ゲンゾウ 對象テイゾウ
星象セイゾウ 想象ゾウゾウ 萬象マンゾウ 儀象ギゾウ

七畫

【豪】ガウ 漢カウ 吳ゴウ
慣用音ガウ
①すぐれる、又其人イたけし、つよし
(強)又その人、そのことイ野獸の一、
やまあらしニけニわづか、すこし
【豪力】ガウリョク 人にすぐれた勢ひ又其者。
【豪民】ガウミン 富みて勢力ある人民。
【豪壯】ガウゾウ いさまし、さかんなり。
【豪芥】ガウカイ わづか、すこし。
【豪放】ガウハウ 次に同じ。「はらぬこと。
【豪宕】ガウダウ 元氣さかんにし小事にかゝ
【豪俠】ガウキヤク すぐれて男らしい、又其人。
【豪雨】ガウウ はげしき雨、猛雨。
【豪客】ガウカク ①ぬすびとの異稱ニだいじ
ん、遊びをする人、豪遊。
【豪俊】ガウジュン 才徳すぐれたる人。
【豪氣】ガウキ 才ありて人に屈せぬ意氣。
【豪家】ガウカ 豪族に同じ。「ある一族。
【豪族】ガウゾク 其地にて名だかくして勢力
【豪爽】ガウソウ 氣象つよくして快活なり。
【豪奢】ガウシヤ 盛んに奢る。



(猪豪)

【豪華】ガウクワ 盛んに奢りてはでやか。
【豪横】ガウコウ たけく邪なること。
【豪傑】ガウケツ ①才徳すぐれてふらき人口
武勇絶倫なる人。
【豪飲】ガウイン しきりに酒をのむ。
【豪遊】ガウイウ さかんにあそぶ、又其遊。
【豪農】ガウノウ 富み且つ勢力ある農家。
【豪猪】ガウチウ 獸の一、やまあらし。
【豪語】ガウゴ 大言、壯語。
【豪邁】ガウマイ すぐれ
てふらい、英邁。
【豪猪】ヤマアラアフリ
カ印度等に産し春
上に鋭毛を有し土
中に穴居する小獸
英豪エイゴウ 賢豪ケンゴウ
富豪フコウ 人豪ジンゴウ
時豪ジゴウ 文豪ブンゴウ
詩豪シゴウ 酒豪シュゴウ

九畫

【豫】ヨ 漢シヤ 吳セ
漢吳ヨ
①たのしむレ樂ニかかて、あらかじめ
②前以て備へる、あらかじめすニ疑ひ
ためらふさまニ古の九州の一レ河南省
の全部及山東省の曹州、湖北省の襄陽
限陽等の地方) ③易の卦の名

【同訓異義】 あらかじめ
【豫】 は事に先だちて早く謀るの意。
【逆】 は事に先だちて豫め之をむかへ
て度るの意。
【同訓異義】 よろこぶ 豫・喜・悦其他の
用法は二〇八頁の喜を見よ。
【豫告】ヨコク さきぶれ、豫め或る事柄を
告知する。
【豫見】ヨケン 事のあらはれざる先に明か
【豫防】ヨバウ 事前にふせぐこと。
【豫言】ヨゲン 未來の事をかたる、又其語。
【豫知】ヨチ 前以てしる、前知。
【豫定】ヨテイ 前以てきめる。
【豫後】ヨゴ 醫者が病人を診察し前もつて
断定する今後の病症の経過。
【豫約】ヨヤク ①まへもつて約束をする、
又其約束ニ前もつて購求者を募り豫め
其員數を知りて製作にかゝる。
【豫修】ヨシウ 前以てならひおく。
【豫科】ヨクワ 本科に入る豫備の修業。
【豫納】ヨナフ 或行爲をなすため官署に對
して豫め保證金を納めること。
【豫習】ヨシユ まへもつてけいこする。
【豫程】ヨチレイ 豫め定めたる仕事の行程。
【豫期】ヨキ 前もつて其事を心にきめる。
【豫備】ヨビ まへもつて用意する。

【豫報】ヨハウ あらかじめ知らす。
【豫測】ヨソク 前以ておしはかる。
【豫想】ヨソウ 前以てその事あるを推量し
て考へる、又かねて期待した考へ。
【豫算】ヨサン ①まへもつて立てる見つも
り ②國家又は公共團體が次の一會計年
度の収入と支出とを豫め計算すると、
又その計算、見積書。
【豫審】ヨシン 犯人の下調べ。
【豫選】ヨセン 前以て適當なるものを選ぶ
【豫戒令】ヨカイレイ もと公共の安寧秩序を
亂す恐れありと認むる者の自由を制限
して豫め警戒して謹慎せしむるを目的
とせし一種の行政命令。
【豫備役】ヨビエキ 常備兵役の一にして現役
を終へたる後更に服する兵役。
【豫言者】ヨゲンシヤ 事前にその事の吉凶を
卜する人、未來のことを言ふ人。
【豫審判事】ヨシンハンジ 刑事の豫審下調事務
を取扱ふ判事。
【豫約出版】ヨヤクシュパン 豫め保證金を納め
て購讀者を募つた上出版すること。
【豫備智識】ヨビチシキ 或事を會得するにつ
きて準備となるべき智識。
猶豫ヨウヨ 逸豫イツヨ 安豫アンヨ 和豫ワヨ
閑豫カンヨ 怡豫イチヨ 不豫フヨ 游豫ユヨ

【猪】 六六五頁の猪を見よ。
【豨】 六四八頁の豨を見よ。

豸部

【豸】 漢タイ 吳デ ①むし、足な
む、とくレ解レ國訓むじなへん
三畫
【豹・豹】 漢ハウ 吳ヘウ
猛獸の一、へう、虎
に似て小さし
【豹文】ハウモン 豹皮の斑
點、轉じて豹皮の如き斑點あるもの。
【豹尾】ハウビ 豹の尾をかけし車、大將の
乗るもの。
【豹變】ハウヘン 豹皮の斑文が明かに人目に
うつるが如く舊惡を改めて善に遷るこ
と亦急に態度を一變する場合にも用ふ
【豺・豺】 漢サイ 吳ザイ ①狼の類、やま
き惡人又は無慈悲なる人に譬ふ



(豹)

【豺狼】サイロウ やまいぬとおほかみ、兇惡
殘忍なるものにいふ。
【豺】 九八八頁の豺を見よ。
【貍】 九八八頁の貍を見よ。
五畫
【貂】テウ 漢吳 鼠の屬、て
體は鼯より大き
く脊と腹とは黄
色・鼻端と脚の
下は稍黒く前肢
は後肢より短く
尾の長大な食肉
獸で夜間鳥や小獸を捕食し、毛皮は襟
巻として貴ばれ、毛は筆に用ひらる。
【貂蟬】テウセン 身分高き侍臣の冠、轉じて
高官の人。
六畫
【貉・貉】 漢バク 吳ミヤク
漢吳カク ①狸の屬、む
じな ②支那北方のえびす



(貂)



(貉)

【猯○猯】漢キウ 猛獸の名、昔は争に用ゐたといふ 吳ク 之を馴らして戦

七畫

【貌・兇・貞】貌字

【貌】漢バウ バク ①かたち、すさまじかんばせ、②ふるまひ、みえ、うはべ③つゝしむ態度④かたちす、かたどる、はるか

【貌言】ハウゲン うはべを飾りたる言。 【貌形】バウケイ すがた、かたち。 【貌執】バウシツ 禮をつくして人をあしらふ

【貌狀】バウジキウ すがた、容子。 【貌敬】バウケイ 表面のうやまひ。 【貌態】バウタイ すがた、態度。 【貌異】バウイ 容貌バウ 才貌バウ 色貌バウ

【貌貌】バウバウ 容貌バウ 才貌バウ 色貌バウ 風貌バウ 美貌バウ 面貌バウ 類貌バウ

【狸○狸】漢吳 たぬきの屬の總稱

【狸奴】リド 猫の異名。 【狸豆】リトウ ふじまめ。

八畫

【貌】六六四頁の貌を見よ。 【貓】六六五頁の猫を見よ。

九畫

【壘】二四二頁の壘を見よ。

十畫

【貌○】漢ヒ 猛獸の名、形虎に似て 吳ビ 熊に類す

【猯】漢キウ 猛獸の名、軍隊に喩へる語。 【猯】四〇九頁の猯を見よ。

十一畫

【猯○】漢バク ①形體 似て鼻は突出し尾は短く 全身に茸毛を生じ印度及南洋に産する獸②支那で想像上の獸にして鼻は象の如く目は犀に類し尾は牛に似て古來夢を食ふといひ傳へらる



貝部

【貝○】漢吳 ①かひ、水中の介蟲類にして石灰質の殻を有する頭足動物かひがら②殻を鳴物に造り吹きならすもの、ほらがひ



(貝)

③かね(古代貨幣として用ゐらる)④美しい織物の一

【貝子】ハイレ ①清朝時代皇族の稱②元代雲南省地方にて使用した貝の貨幣。 【貝母】ハイボ はくくり、藥草の一種。 【貝葉】ハイレフ 貝多羅葉、轉じて佛書。 【貝勒】ハイレフ ①貝類にて飾りし馬の轡②清朝時代の皇族の稱、多羅貝勒の略。

【貝殼】ハイクカ かひがら、介殼。 【貝尻】ハイレリ 竹の皮を用ひて作る、上部が尖つて貝の介殼を側にした如き笠の一種、魚釣などに多く被る。



(尻 貝)

【貝鐘】ハイレロウ 寺にて鳴らす法螺貝と鐘

【貝合】ハイレハセ 大き い蛤の貝殼の内部



(合 貝)

に種々の繪模様を書きて數十個を伏せ外部から似たものを取りて繪を合せ遊びしもの、昔の宮女などの遊戯。 【貝多羅葉】ハイレフ 印度に産する多羅樹の葉、その上に經文を書きしるす。

一畫

【貞○】漢イ 吳チャウ 慣用音 チヤウ

①たゞし、心が正しい②女子が操を守りて動かぬこと③うらなふ

【貞臣】ハイレシ 貞實なる家來。

【貞女】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞固】ハイレコ たゞしくてかたし。

【貞信】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞純】ハイレシ 心正しくみさをあり。

【貞烈】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞淑】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞婦】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞實】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞醇】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞節】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞操】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞貞】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞貞】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞貞】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞貞】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞貞】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞貞】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞貞】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞貞】ハイレシ 貞實なる正しき女。

【貞貞】ハイレシ 貞實なる正しき女。

貝部 (二一三畫)

貞・負・則・員・頁・財

るものはなしと感じ其由を君主に上申せんとした故事、ひなたぼっこ。

【負債】フサイ 金銭又は物品の債務を負ふ。

【負數】フスウ 字解の負を見よ。

【負擔】フダン ①背におふこと、肩にかつぐこと、又その品物②子が父の業をつぎて其任にたへること③法規又は契約に依りて或る義務を負ふこと。

【負戴】フタイ 物を背におひ又は頭にいた

だくこと、苦役することにいふ。

【荷負】カネ 抱負ハ、鼠負フ

【自負】ジフ 宿負フ、愧負フ、矜負フ

【則】一四〇頁の則を見よ。

【員】二〇一頁の員を見よ。

【頁】一一三六頁の頁を見よ。

【財○】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財】漢サイ ①たから

【財用】費用、かゝり、又もとど。
 【財布】財貨を生産すべきも。
 【財本】財貨を生産すべきも。
 【財利】まうけ、金銭上の利益。
 【財物】錢又は價値ある品物の總稱。
 【財幣】かねぐら、金庫。「經濟界」。
 【財界】金銭の取引に關する社會。
 【財政】國家又は公共團體の經濟に關する事柄轉じて個人の經濟にもいふ。
 【財産】しんたい、資産。
 【財貨】たから、かね、財産、貨財。
 【財欲】財物を得んとする慾心。
 【財源】資本又は費用の出る源、金の出るところ、資源。
 【財運】財物を得る命運。「團法人」。
 【財團】人格ある財産の集合體、財。
 【財寶】たからもの、たから。
 【財囊】ぜにいれ、かねいれ、財布。
 【財政學】國家又は地方自治團體の經濟行爲を研究の目的とする學問。
 【財團法人】一定の目的に供せられた財産の集合に依り成立する法人の種類價格等を書き込みし書類。
 貨財 公財 家財 餘財 散財 資財 蓄財

【貢】漢コウ ①みつぎもの、夏時代の税の稱。すゝむ、薦擧する。つぐ(告)。「貢士」才學ある者として地方より中央政府にすゝめられる者。明治維新の際諸藩より選抜して政府へ「貢物」みつぎもの。薦めたる人物。「貢御」貢物、みつぎもの。「貢賦」みつぎものと租税としてわりあてる物。「擧すること」。「貢擧」州縣から貢士を選抜して推薦。貢物を上る。世のために力をつくす、又著作物などもいふ。
 奇貢 奉貢 供貢 納貢 輸貢 珍貢 租貢 外貢
 【員】二〇一頁の員を見よ。
 【員】三二四頁の員を見よ。
 【四畫】

【同訓異義】まづし
 【貧】は貧の甚だしく禮を備ふること。「無き意」。
 【貧乏】まづしくして乏し。
 【貧民】まづしき民、貧人。
 【貧生】まづしき人、又貧書生。
 【貧血】體中の血液が減少すること。又其人。
 【貧困】まづしくして難儀すること。又其人。
 【貧苦】貧困に同じ。
 【貧巷】貧乏人の住むまち、貧民窟。
 【貧相】貧乏らしき人相。
 【貧弱】貧しくして弱し、又その人。やつれて元氣なし。みすばらしい。
 【貧病】貧しくして病むこと。
 【貧漢】貧しき男。
 【貧富】貧者と富人。
 【貧道】道にゆたかならざる意、道士沙門などが自己を稱する謙辭。
 【貧窮】貧困に同じ。
 【貧僧】まづしき僧侶。「己の卑辭」。
 【貧賤】まづしくしていやし。自。
 【貧饑】貧しくしてやつれる。
 【貧餓】まづしくして飢える。
 【貧民窟】貧巷に同じ。
 賤貧 清貧 赤貧 素貧

【貨】漢呉 ①たから、ね、金品。②しるもの、しなもの、又商品。③たからにす、たからを贈る、賄賂をつ。

【貪】漢タン 吳トン 慣用音 ドン ①むさぼり、むさぼる、又むさぼる人。【同訓異義】むさぼる

【賈】漢サク 吳シヤク 慣用音 セキ ①せむ、せめる、とがめる、なじる。②せむ、とがめ。つとめ、職務。

【貨車】鐵道列車の貨物車。「かふ」。
 【貨財】かね、たから、必要な物品。
 【貨物】人の欲望を充たすに適するもの、しなもの、物品。「ける」。
 【貨殖】貨財をふやす、金をまら。
 【貨幣】政府より發行するかねにして交換の媒介、價格の標準となるもの。
 【貨寶】たから、貴重品。
 良貨 雜貨 奇貨 金貨 物貨 珍貨 財貨 通貨 寶貨 銅貨 銀貨 錢貨

【賈】漢サク 吳シヤク 慣用音 セキ ①せむ、せめる、とがめる、なじる。②せむ、とがめ。つとめ、職務。【同訓異義】せむ 賈・攻・謹其他の用法は四五九頁の攻を見よ。【賈付】豫審判事が豫審中に拘留となつた刑事被告人を何時でも呼出しに

【賈】漢サク 吳シヤク 慣用音 セキ ①せむ、せめる、とがめる、なじる。②せむ、とがめ。つとめ、職務。【同訓異義】せむ 賈・攻・謹其他の用法は四五九頁の攻を見よ。【賈付】豫審判事が豫審中に拘留となつた刑事被告人を何時でも呼出しに

誤り①のこす(遺)後にとどめる(お)おくる(贈)歸與す

【同訓異義】 おくる 賂・送・贈其他の用法は一〇三三頁の送を見よ。

【同訓異義】 のこる 賂・殘・遺其他の用法は五六四頁の殘を見よ。

【賂訓】 イタン 父祖が子孫の爲にのこしたるをし、遺訓。「と、又そのもの。」

【賂痕】 イコン 傷などが癒えて痕が賂るこ

【賂殃】 イエイ わざはひをのこす。「謀。」

【賂厥】 イケツ まご、子孫。「謀。」

【賂謀】 イボウ 子孫の爲にのこした父祖の

【賂貝】 イガヒ 舞鶴類の貝で介殼は左右等しく長い三角形をなし外面は黒くして内面は眞珠色を呈する



(貝 賂)

【賂】 漢ボウ ①かふ、かひす、交易、互市又かふ(賈)②目の

【同訓異義】 かふ 賈・沽・買其他の用法は九九三頁の賈を見よ。

【賈易】 ボロキキ 財物を交換して有無相通ずる外國との商品賈買をいふ、交易。

【賈易風】 ボロキキ 赤道の南北三十度以内の海上に生ずる恒風、其風向が常に一定し賈易船の通航に便利なる故にいふ

【賀】 漢カ ①よろこび いはひよろこぶ②いはひ、よろこび

【同訓異義】 よろこぶ 賀・喜・悅其他の用法は二〇八頁の喜を見よ。

【賀狀】 ガジヤウ よろこびの手紙。

【賀表】 ガヘウ 朝廷又國家に慶事ある時に臣下より上る祝賀の文書。

【賀詞】 ガレイ はひのことば、祝詞、賀辭。

【賀頌】 ガレウ ほめいはふ、又其詞。

【賀筵】 ガエン いはひのさかもり、祝宴。

【賀儀】 ガギ いはひのことば。

【賀賀】 ガガ 祝ひごと、喜びごと。

【賀賀】 ガガ 祝ひごと、喜びごと。

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

【賈】 漢ウ ①しんたい、たから

用法は一〇三三頁の退を見よ。

【賈斥】 ヘンセキ 賈黜に同じ。

【賈流】 ヘンリウ 官位をさげ退けられたる。

【賈黜】 ヘンチュウ 地位をさげ退けられる。

【賈謫】 ヘンタク 賈流に同じ。賈黜へんてきと讀むは誤り。

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢キヤウ ①あたふ、たまふ

【賂餅】 チンモチ つき賃を取つて餅をつく。

【賂賃】 チンタイ 報酬を受けて自分の物を他人に使用せしむること。「する金額。」

【賂賃價格】 チンタイイカク 賃賃によつて取得

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賂賃】 チンタイ 賃賃

【賈本】 シホシ もとて、資金、將來の生産の用に供する貨財。

【賈性】 シセイ もちまへ、うまれつき。

【賈格】 シカク ①地位、身分②其物事につ

【賈財】 シザイ ①かね、たから、貨財②う

【賈料】 シレイウ ①したち、もと、原料。

【賈産】 シサン しんたい、家産、財産。

【賈給】 シキツ めぐむ、たすけあたへる。

【賈質】 シシツ 資性に同じ。

【賈本主義】 シホシシユイ 資本を生産要素中の最も大なるものとなし企業の優劣はす

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賈】 漢ウ ①あたふ、たまふ

【賍】一〇〇一頁の賍を見よ。

七畫

【賑】漢吳 ①にぎやか
繁昌する ②にぎはひ、にぎはす、ほど
こす、めぐむ ③國訓にぎやか

【賑】は貧しきものを救ひめぐむの意
【賑】は周く行渡るやうに給するの意
【賑】は不自由なきやうに給與する意

【賑恤】にぎはし施す。
【賑救】にぎはし救ふ、救恤。
【賑給】にぎはし與へる。
【賑賜】にぎはしめぐむ。
【賑贖】にぎはし、にぎはし足す。

【賓】漢吳 ①みちびく(導)お客
を接待する ②したがふ(服)③しりぞく

【賓主】お客と主人。
【賓白】せりふ、臺詞、科白。
【賓位】賓客の地位、お客の座席。
【賓待】お客をもてなすこと。
【賓客】①おきやく、まらうど ②太

子の侍従をつとめ輔導の任にあたる官
【賓禮】賓客を待遇する禮式。
【賓辭】論理學上に於て命題の主辭
の意義を述べる言葉をいふ。
【賓頭盧】おびんづる、白頭長眉の
相を有する羅漢。

【賒】漢 ①たまふ、
くだされる
②ききとける、ゆるす ③たまもの、
くだされもの、めぐみ

【賒】漢 ①たまふ、
くだされる
②ききとける、ゆるす ③たまもの、
くだされもの、めぐみ

【賒】漢 ①たまふ、
くだされる
②ききとける、ゆるす ③たまもの、
くだされもの、めぐみ

【賒】漢 ①たまふ、
くだされる
②ききとける、ゆるす ③たまもの、
くだされもの、めぐみ

【賒】漢 ①たまふ、
くだされる
②ききとける、ゆるす ③たまもの、
くだされもの、めぐみ

【賒】漢 ①たまふ、
くだされる
②ききとける、ゆるす ③たまもの、
くだされもの、めぐみ

【賒】漢 ①たまふ、
くだされる
②ききとける、ゆるす ③たまもの、
くだされもの、めぐみ

【賒】漢 ①たまふ、
くだされる
②ききとける、ゆるす ③たまもの、
くだされもの、めぐみ

【賒】漢 ①たまふ、
くだされる
②ききとける、ゆるす ③たまもの、
くだされもの、めぐみ

【賒】漢 ①たまふ、
くだされる
②ききとける、ゆるす ③たまもの、
くだされもの、めぐみ

【賒】漢 ①たまふ、
くだされる
②ききとける、ゆるす ③たまもの、
くだされもの、めぐみ

【同訓異義】ほむ 賞・褒・譽其他の用法
は九四〇頁の褒を見よ。

【賞味】ほめてたべること。
【賞玩】ほめてあそぶ。
【賞典】ほめてたまはる金品、賞品
【賞美】ほめる、稱美。
【賞揚】ほめそやす、ほめあげる
【賞詞】讚辭、ほめことば。「ダレ」
【賞牌】優等者に與へる徽章、メ
【賞罰】ほめること、罰すること
【賞賚】もてはやす、ほめよめる。
【賞賜】てがらをほめて官爵・勳章・
位記・金品等をたまはること。
【賞與】ほめて物をあたへること。
【賞賛】賞讚に同じ。「定して賞す
【賞鑑】書畫・骨董・古器物等を鑑
【賞讀】ほめそやす。
【賞典祿】明治維新の際國家の
功勞者に賜はりし秩祿。
【賞勳局】内閣に屬する役所に
して勳章位記等に關する事を司る所。
厚賞 旌賞 重賞 嘉賞
激賞 嗟賞 歎賞 欣賞
爵賞 上賞 懸賞 褒賞
行賞 妄賞 濫賞 幽賞

【賢】漢 ①か
しこし、りこうである、又その人
すぐれる、まさる、うはてである
か
しこき人としてほめぬ ②他人の物事に
冠して敬意を表する語 ③他の語に冠し
て尊稱第二人称を形づくる語
【同訓異義】まさる 賢・優・勝其他の用
法は一〇〇一頁の優を見よ。「の異名。
【賢人】賢き人 ①どぶろく、濁酒
【賢才】かしこき才智、すぐれたる
才、又その人。「敬稱」
【賢母】かしこき母、又他人の母の
【賢臣】かしこき家來。「又その人」
【賢明】事理に明かにしてかしこし
【賢君】かしこき王、賢主。
【賢兄】友人に對して用ふる敬稱。
【賢弟】他人の弟を稱する敬語、又
目下の男子に對する敬稱。
【賢哲】賢くしてさとい、又其人。
【賢婦】かしこき婦人、賢女。
【賢愚】賢きとおろか、賢者と愚者。
【賢聖】賢きとほろか、賢者と愚者。
【賢所】宮中に在りて神鏡を奉安
する所、内侍所又温明殿ともいふ。
【賢母良妻主義】家族主義

【賢】漢 ①か
しこし、りこうである、又その人
すぐれる、まさる、うはてである
か
しこき人としてほめぬ ②他人の物事に
冠して敬意を表する語 ③他の語に冠し
て尊稱第二人称を形づくる語
【同訓異義】まさる 賢・優・勝其他の用
法は一〇〇一頁の優を見よ。「の異名。
【賢人】賢き人 ①どぶろく、濁酒
【賢才】かしこき才智、すぐれたる
才、又その人。「敬稱」
【賢母】かしこき母、又他人の母の
【賢臣】かしこき家來。「又その人」
【賢明】事理に明かにしてかしこし
【賢君】かしこき王、賢主。
【賢兄】友人に對して用ふる敬稱。
【賢弟】他人の弟を稱する敬語、又
目下の男子に對する敬稱。
【賢哲】賢くしてさとい、又其人。
【賢婦】かしこき婦人、賢女。
【賢愚】賢きとおろか、賢者と愚者。
【賢聖】賢きとほろか、賢者と愚者。
【賢所】宮中に在りて神鏡を奉安
する所、内侍所又温明殿ともいふ。
【賢母良妻主義】家族主義

【賢】漢 ①か
しこし、りこうである、又その人
すぐれる、まさる、うはてである
か
しこき人としてほめぬ ②他人の物事に
冠して敬意を表する語 ③他の語に冠し
て尊稱第二人称を形づくる語
【同訓異義】まさる 賢・優・勝其他の用
法は一〇〇一頁の優を見よ。「の異名。
【賢人】賢き人 ①どぶろく、濁酒
【賢才】かしこき才智、すぐれたる
才、又その人。「敬稱」
【賢母】かしこき母、又他人の母の
【賢臣】かしこき家來。「又その人」
【賢明】事理に明かにしてかしこし
【賢君】かしこき王、賢主。
【賢兄】友人に對して用ふる敬稱。
【賢弟】他人の弟を稱する敬語、又
目下の男子に對する敬稱。
【賢哲】賢くしてさとい、又其人。
【賢婦】かしこき婦人、賢女。
【賢愚】賢きとおろか、賢者と愚者。
【賢聖】賢きとほろか、賢者と愚者。
【賢所】宮中に在りて神鏡を奉安
する所、内侍所又温明殿ともいふ。
【賢母良妻主義】家族主義

【賢】漢 ①か
しこし、りこうである、又その人
すぐれる、まさる、うはてである
か
しこき人としてほめぬ ②他人の物事に
冠して敬意を表する語 ③他の語に冠し
て尊稱第二人称を形づくる語
【同訓異義】まさる 賢・優・勝其他の用
法は一〇〇一頁の優を見よ。「の異名。
【賢人】賢き人 ①どぶろく、濁酒
【賢才】かしこき才智、すぐれたる
才、又その人。「敬稱」
【賢母】かしこき母、又他人の母の
【賢臣】かしこき家來。「又その人」
【賢明】事理に明かにしてかしこし
【賢君】かしこき王、賢主。
【賢兄】友人に對して用ふる敬稱。
【賢弟】他人の弟を稱する敬語、又
目下の男子に對する敬稱。
【賢哲】賢くしてさとい、又其人。
【賢婦】かしこき婦人、賢女。
【賢愚】賢きとおろか、賢者と愚者。
【賢聖】賢きとほろか、賢者と愚者。
【賢所】宮中に在りて神鏡を奉安
する所、内侍所又温明殿ともいふ。
【賢母良妻主義】家族主義

【賢】漢 ①か
しこし、りこうである、又その人
すぐれる、まさる、うはてである
か
しこき人としてほめぬ ②他人の物事に
冠して敬意を表する語 ③他の語に冠し
て尊稱第二人称を形づくる語
【同訓異義】まさる 賢・優・勝其他の用
法は一〇〇一頁の優を見よ。「の異名。
【賢人】賢き人 ①どぶろく、濁酒
【賢才】かしこき才智、すぐれたる
才、又その人。「敬稱」
【賢母】かしこき母、又他人の母の
【賢臣】かしこき家來。「又その人」
【賢明】事理に明かにしてかしこし
【賢君】かしこき王、賢主。
【賢兄】友人に對して用ふる敬稱。
【賢弟】他人の弟を稱する敬語、又
目下の男子に對する敬稱。
【賢哲】賢くしてさとい、又其人。
【賢婦】かしこき婦人、賢女。
【賢愚】賢きとおろか、賢者と愚者。
【賢聖】賢きとほろか、賢者と愚者。
【賢所】宮中に在りて神鏡を奉安
する所、内侍所又温明殿ともいふ。
【賢母良妻主義】家族主義

【賈】は賈に同じ。「る田地」
【賜田】昔朝廷から功臣に賜はりた
【賜見】帝王が臣下に拜謁をゆるす
【賜物】下されもの、たまもの。
【賜金】金錢を與ふ、政府より賜は
【賜暇】上から許される休暇。「る金錢
【賜賚】たまもの、又其を賜ふこと
【賜號】名稱をたまはる。
【賜諡】おくりなをたまはる。
恩賜 給賜 嘉賜 天賜
賞賜 褒賜 分賜 特賜
厚賜 勞賜 贈賜 遺賜

【賈】は賈に同じ。「る田地」
【賜田】昔朝廷から功臣に賜はりた
【賜見】帝王が臣下に拜謁をゆるす
【賜物】下されもの、たまもの。
【賜金】金錢を與ふ、政府より賜は
【賜暇】上から許される休暇。「る金錢
【賜賚】たまもの、又其を賜ふこと
【賜號】名稱をたまはる。
【賜諡】おくりなをたまはる。
恩賜 給賜 嘉賜 天賜
賞賜 褒賜 分賜 特賜
厚賜 勞賜 贈賜 遺賜

【賈】は賈に同じ。「る田地」
【賜田】昔朝廷から功臣に賜はりた
【賜見】帝王が臣下に拜謁をゆるす
【賜物】下されもの、たまもの。
【賜金】金錢を與ふ、政府より賜は
【賜暇】上から許される休暇。「る金錢
【賜賚】たまもの、又其を賜ふこと
【賜號】名稱をたまはる。
【賜諡】おくりなをたまはる。
恩賜 給賜 嘉賜 天賜
賞賜 褒賜 分賜 特賜
厚賜 勞賜 贈賜 遺賜

【賈】は賈に同じ。「る田地」
【賜田】昔朝廷から功臣に賜はりた
【賜見】帝王が臣下に拜謁をゆるす
【賜物】下されもの、たまもの。
【賜金】金錢を與ふ、政府より賜は
【賜暇】上から許される休暇。「る金錢
【賜賚】たまもの、又其を賜ふこと
【賜號】名稱をたまはる。
【賜諡】おくりなをたまはる。
恩賜 給賜 嘉賜 天賜
賞賜 褒賜 分賜 特賜
厚賜 勞賜 贈賜 遺賜

【賈】は賈に同じ。「る田地」
【賜田】昔朝廷から功臣に賜はりた
【賜見】帝王が臣下に拜謁をゆるす
【賜物】下されもの、たまもの。
【賜金】金錢を與ふ、政府より賜は
【賜暇】上から許される休暇。「る金錢
【賜賚】たまもの、又其を賜ふこと
【賜號】名稱をたまはる。
【賜諡】おくりなをたまはる。
恩賜 給賜 嘉賜 天賜
賞賜 褒賜 分賜 特賜
厚賜 勞賜 贈賜 遺賜

【賈】は賈に同じ。「る田地」
【賜田】昔朝廷から功臣に賜はりた
【賜見】帝王が臣下に拜謁をゆるす
【賜物】下されもの、たまもの。
【賜金】金錢を與ふ、政府より賜は
【賜暇】上から許される休暇。「る金錢
【賜賚】たまもの、又其を賜ふこと
【賜號】名稱をたまはる。
【賜諡】おくりなをたまはる。
恩賜 給賜 嘉賜 天賜
賞賜 褒賜 分賜 特賜
厚賜 勞賜 贈賜 遺賜

【賈】は賈に同じ。「る田地」
【賜田】昔朝廷から功臣に賜はりた
【賜見】帝王が臣下に拜謁をゆるす
【賜物】下されもの、たまもの。
【賜金】金錢を與ふ、政府より賜は
【賜暇】上から許される休暇。「る金錢
【賜賚】たまもの、又其を賜ふこと
【賜號】名稱をたまはる。
【賜諡】おくりなをたまはる。
恩賜 給賜 嘉賜 天賜
賞賜 褒賜 分賜 特賜
厚賜 勞賜 贈賜 遺賜

【賈】は賈に同じ。「る田地」
【賜田】昔朝廷から功臣に賜はりた
【賜見】帝王が臣下に拜謁をゆるす
【賜物】下されもの、たまもの。
【賜金】金錢を與ふ、政府より賜は
【賜暇】上から許される休暇。「る金錢
【賜賚】たまもの、又其を賜ふこと
【賜號】名稱をたまはる。
【賜諡】おくりなをたまはる。
恩賜 給賜 嘉賜 天賜
賞賜 褒賜 分賜 特賜
厚賜 勞賜 贈賜 遺賜

【賈】は賈に同じ。「る田地」
【賜田】昔朝廷から功臣に賜はりた
【賜見】帝王が臣下に拜謁をゆるす
【賜物】下されもの、たまもの。
【賜金】金錢を與ふ、政府より賜は
【賜暇】上から許される休暇。「る金錢
【賜賚】たまもの、又其を賜ふこと
【賜號】名稱をたまはる。
【賜諡】おくりなをたまはる。
恩賜 給賜 嘉賜 天賜
賞賜 褒賜 分賜 特賜
厚賜 勞賜 贈賜 遺賜

【賈】は賈に同じ。「る田地」
【賜田】昔朝廷から功臣に賜はりた
【賜見】帝王が臣下に拜謁をゆるす
【賜物】下されもの、たまもの。
【賜金】金錢を與ふ、政府より賜は
【賜暇】上から許される休暇。「る金錢
【賜賚】たまもの、又其を賜ふこと
【賜號】名稱をたまはる。
【賜諡】おくりなをたまはる。
恩賜 給賜 嘉賜 天賜
賞賜 褒賜 分賜 特賜
厚賜 勞賜 贈賜 遺賜

【賈】は賈に同じ。「る田地」
【賜田】昔朝廷から功臣に賜はりた
【賜見】帝王が臣下に拜謁をゆるす
【賜物】下されもの、たまもの。
【賜金】金錢を與ふ、政府より賜は
【賜暇】上から許される休暇。「る金錢
【賜賚】たまもの、又其を賜ふこと
【賜號】名稱をたまはる。
【賜諡】おくりなをたまはる。
恩賜 給賜 嘉賜 天賜
賞賜 褒賜 分賜 特賜
厚賜 勞賜 贈賜 遺賜

【賈】は賈に同じ。「る田地」
【賜田】昔朝廷から功臣に賜はりた
【賜見】帝王が臣下に拜謁をゆるす
【賜物】下されもの、たまもの。
【賜金】金錢を與ふ、政府より賜は
【賜暇】上から許される休暇。「る金錢
【賜賚】たまもの、又其を賜ふこと
【賜號】名稱をたまはる。
【賜諡】おくりなをたまはる。
恩賜 給賜 嘉賜 天賜
賞賜 褒賜 分賜 特賜
厚賜 勞賜 贈賜 遺賜

赤

漢セキ ①あか、呉シヤク 朱色 ②あかし、まごころがある ③あかくす、赤色にす ④空しい、から、何物もない ⑤ありのまま、はだか、むきだし ⑥露西亞勞農政府派の徽章の色に因み過激思想の意 ⑦赤電車又は赤札の略

同訓異義

【丹】は丹砂の色、大赤の意。
 【紅】は桃色の意。「る如く赤黒色」
 【殷】は血の古くなりて黒色を帯びた
 【緋】は深紅色である。
 【赤】はきら／＼とあかき意。
 【赤子】セキシ 赤ちゃん。
 【赤土】セキド 草木のはえぬ土地、あか土。
 【赤衣】セキイ ①罪人の著る赤色のきもの ②緋の袍、昔五位以上の者の着たもの
 【赤手】セキテ ①からで、すて、空拳。 ②赤化セキカ 穩健なる思想の人が過激な思想に變化すること。「なかみ」
 【赤心】セキシン ①まごころ ②果物等の赤き
 【赤血】セキケツ なま／＼しき血しほ。
 【赤身】セキシン 丸裸、赤はだか、赤裸々。
 【赤帝】セキテイ 夏を司る神、轉じて夏。
 【赤面】セキメン 恥ぢて顔をあかくする。
 【赤貧】セキヒン 貧乏の甚しきをいふ。

【赤脚】セキキョク はぎをあらはす、すあし。
 【赤痣】セキシ 赤きあざ。
 【赤痢】セキリ 赤い下痢する傳染病。
 【赤裸】セキロ 赤身に同じ。
 【赤道】セキドウ 地球に直交して地球の兩極より九十度の距離にある大圈。
 【赤飯】セキハン こはめし、あづきめし。
 【赤誠】セキセイ まごころ、赤心。
 【赤繩】セキジュウ 夫婦のえにし。
 【赤潮】セキシュウ あかしほ、にがしほ。
 【赤露】セキロ 過激派露西亞、赤色は過激な革命を意味す。
 【赤本】セキホン 我國の草双紙の古名、轉じて低級なる書物のこと
 【赤花】セキバナ 山野の水生草本で莖の高さ一尺にあまり葉は長楕圓形で鋸齒を有し夏に莖梢葉腋に小形の紅花をひらく。
 【赤春】セキハル 赤は春季の色彩の表徴として用ゐられる語、秋の表現を「白秋」といふ語に對して「赤い春」といふ。
 【赤酒】セキシュウ 五色の酒の一つで英語で



(花赤)



(儀道赤)

はストロベリリキユール、莓酒。
 【赤門】セキモン ①東京帝國大學の異名 ②英國製の上質洋紙に赤門の商標がついて居るところより其紙のことをいふ。
 【赤銅】セキドウ 銅百分と金一乃至十分から成る紫黑色の合金。
 【赤帝子】セキテイシ 漢の高祖の異名。
 【赤血球】セキケツクウ 高等動物の血液中にある扁圓形の小球にて紅色の色素を有す
 【赤道祭】セキドウサイ 船艦が航海中、赤道直下を通過する時に行ふ船祭。
 【赤道儀】セキドウギ 天體の赤經及赤緯を測量する器械で鐵柱上に北極に向ふ軸がある、之を北極軸、亦直角な軸は赤緯軸といふ、望遠鏡は赤緯軸の上端に直角に固定し二軸の回轉によつて地球上任意の點を望むことが出来る。
 【赤錦袍】セキキンパウ 赤地の錦の陣羽織。
 【赤衛軍】セキエイグン 露國の革命當時現はれたる戰鬪部隊の稱。「ま、ありのま」。
 【赤裸裸】セキロロ 赤身に同じ ②あからさ
 【赤門派】セキモンハ 東京帝國大學の卒業者又は其の關係者の一團。

【赤毛布】マカグツ 田舎者の異稱、おのぼりさん。「る郵便の赤袋」
 【赤行囊】アカカウナウ 金銀又は貴重品を入れ科の常緑灌木で高山の石間に生じ高さ尺餘、實は圓くて紅熟し味は甘い
 【赤珊瑚】アカサンゴ 珊瑚の一種で軸は暗赤色を呈して居る
 【赤新聞】アカシマシマ 低級なる悪徳新聞の異名である。
 【赤棟蛇】ヤマガサレ 體の表面に紅黒い斑點があり鱗片の中央には隆起した線を有し舉動は敏捷で無毒な蛇。



(蛇棟赤) (珊瑚赤) (野裳赤)

【赤十字社】セキジフジシヤ 博愛同仁の趣旨により交戦中は敵味方とも互に患者・負傷者等を救護すべしとの約束によつて設立せられた世界公共の社團。
 【赤子之心】セキシノシン 自然にして飾りいつはらざる心。

【赤化防止】セキカバウシ 過激思想のはびこるのを防ぐ。「延せしめんとする運動」
 【赤化運動】セキカウドウ 過激思想を増長蔓【赤道直下】セキドウチヨクカ 赤道線の真下。
 【赤化防止團】セキカバウシダン 過激思想のはびこることを防ぐ團體。
 六赤セキク 丹赤セキキ 紅赤セキコウ 赧赤セキケン

救

【同訓異義】ゆるす
 【允】はうけがふの意。
 【免】はゆるして免れしむの義。
 【宥】はなだめゆるすの意。
 【容】は堪忍してゆるすの義。
 【放】は追ひはなしてやるの意。
 【縱】はほしむにさすの意。
 【聽】は先方の望をきき容れるの意。
 【肆】は心任せにゆるすの意。
 【與】は同意してゆるすの意。
 【許】はそれにてよしとゆるすの意。
 【赦】は罪をゆるしやるの意。
 【釋】はさきゆるすの意。
 【赦免】セキメン 罪をゆるす。
 【赦宥】セキウ ①前に同じ。②ゆるす。

報

【同訓異義】はづ 報・恥辱其他の用法は三七八頁の恥を見よ。
 【報顔】タンガン はちて顔を赤くする ①注意がかくがん、しやがんと讀むは誤り。
 【報愧】タンキ ちて赤面する。
 【赫】カク 漢カク ケキ
 【赫然】カクゼン ①いかる、むつとするさま ②屍體の手足のはなれる貌。
 【赫赫】カクカク ①夏の日の暑氣の甚しきをいふ ②火の燃えること ③光りかゞやくさま、又著明なる貌。
 炎赫エンカク 光赫カクワウ 輝赫カクワウ 顯赫カクケン

煥赫カクワン 震赫カクン 洪赫カクワ 電赫カクン

九畫

【赭】漢シヤ 赤色の土、あかつ
吳セ ち、轉じて禿山
か、あかし(赤)赤土の色
【赭山】草木のなき山、はげやま。

走部

走

【走】漢ソウ ①わしる、
呉ス はしる、か
ける、逃れる、敗北する
【走】はかけりゆく義で奔走等に用ふ
【趨】はちよこ／＼小走りする義。
【走卒】ソウソツ めしつかひ、こもの。
【走狗】ソウコ 狩獵等に使はれる犬、轉じて人の手先となる者。
【走路】ソウロ 血路、にげみち。
【走筆】ソウヒツ はしりがき。
【走百病】ソウヒヤクヘイ 我國ではやぶいりに

あたる、正月十六日のよひ、寺に集りて百病を驅除すといふ年中行事。
【走馬燈】ソウマトウ まはりどろろ、轉じて物事の急變なることに譬へる。
【走禽類】ソウキンルキ 鳥の如く翼が不完全で飛翔することが出来ず疾走する鳥類。
下走ソウ 疾走ソウ 奔走ソウ
遠走ソウ 逐走ソウ 驚走ソウ 迅走ソウ
遁走ソウ 亡走ソウ 歩走ソウ 馳走ソウ
狂走ソウ 競走ソウ 敗走ソウ 跣走ソウ



(燈馬走)

赴

【赴】通 漢フ 漢ホ ①おもむく、至る、行く、向ふ、投ず、應ず、したがふ、つぐ(告)おもむき告げる、死去をつげ知らす、又そのこと
【同訓異義】おもむく
【歸】はおちつくべき所へ向ひゆく義
【赴】は先方へかけつける義
【趨】はちよこ／＼走りに走りゆく義
【趣】は一定の所に志して走りゆく意
【赴任】フニン 官吏などが任地に赴む。

起

【起】漢ウ 漢キウ ①おこす、立たせる、縦にする、建築す、はじめめる、盛んにひらく(開)悟らしめる、目を覺まさせる、人を舉用す、おこる、はじめまる、おこり、もと、はじめ、たつ(立)おこる、おこす、目がさめる、奮發す、生きて活動すること
【同訓異義】たつ 起・建・立其他の用法は三五八頁の建を見よ。
【起工】キコウ 土木工事をはじめ起す。
【起用】キヨウ 人を官職に舉用すること、休職者・免職者等を再び登用する。
【起句】キク 詩の第一句。
【起坐】キザ 立つたりすわたり。
【起立】キリツ 座席より立ちあがる。
【起因】キイン 始まり、おこり。
【起伏】キフク おこること、ふすこと。
【起居】キキョ ①たちふるまひ、舉動、おきふし、起臥、安否、きげん等の意。

【起死】キシ 死人を再び蘇生せしむる。
【起首】キシュ 事のはじめ、おこり。
【起原】キゲン もと、はじめり、おこり。
【起臥】キフイ おきふし。「書きはじめる」
【起臥】キフイ おきふし。「書きはじめる」
【起草】キソウ 詩文又は議案などの草稿を
【起訴】キソ 訴訟をおこす。
【起復】キフク 官吏の除服出仕、喪中から引きおこして位を復すこと。
【起程】キテイ 旅に出かける、發程。
【起債】キサイ ①國家又は自治團體が公債を募集すること、②金をかりる。
【起業】キゲウ 事業をはじめめる。
【起算】キサン かぞへはじめる。
【起稿】キカウ 文章の草稿を書き初める。
【起請】キセイ ①約束の證書、②神佛にちかひて記す誓約文。
【起點】キテン 物事の
はじめりの所。
【起重機】キヂユキ 重き物を動かし又はあげおろしに用ゐる滑車仕掛の機械
【起死回生】キシクワイセイ 死を起し生をかへす、よみがへらせて生命を與へる義、轉じて大なる幸福を與へるに喩へる語。



(機重起)

超

【超】漢ウ 漢ウ ①こゆ、こす、まざる、すぐれる、又順序によらずして進む、又餘計になる、こえる、すぐれるさま
【同訓異義】こゆ
【超】は躍りこゆるの意。
【越】は境界又は高き障を越ゆるの意
【踰】はひとまたぎに踰ゆるの意。
【超人】チウジン 性質が普通人の能力又は行

超

【起立電車】キリツデンシャ 乗客の混雑を離する目的にて乗客の全部を釣革にぶら下げる様に造りし電車。
【起居無時】キキョムジキ 自由の境遇。
【起業公債】キソウコウサイ 事業資金として國家が募集する公債。
【起承轉結】キショウテンケツ 詩の構成上よりいふ句の稱、起は第一句、承は第二句、轉は第三句、結は第四句である。
晏起キ 蜂起キ 驚起キ 早起キ
蛋起キ 累起キ 隆起キ 紛起キ
睡起キ 曉起キ 晨起キ 坐起キ
勃起キ 飛起キ 奮起キ 重起キ
峻起キ 屈起キ 緣起キ 喚起キ

爲を超絶せること、又その者。
【超凡】チウボン 凡人よりすぐれてゐる。
【超世】チウセイ 一世にすぐれること、世俗とかけはなれる。
【超忽】チウコツ 景色などの遠くはるかに見える貌、づぬけてゐる推測せられぬ
【超脱】チウダツ 世俗よりはなれてけだし
【超絶】チウゼツ ①かけ放れる、又他よりも優れる、②認識又は經驗の範圍外に出る
【超然】チウゼン ①かけはなれるさま、②世間の俗事又は物事に無關係なる貌。
【超越】チウエツ ①すぐれる、まさる、②世俗をはなれこえる、とびこえる。
【超過】チウコウ ①普通よりすぐれる、或數量が他の數量よりも多い。「内閣」
【超然内閣】チウゼンナイカク 政黨政派を離れた
【超弩級艦】チウボクキタン 弩級艦以上の巨艦にして十六吋砲を主砲とするもの、轉じて大人物のこと。

越

【越】漢エツ 漢ウツ ①こゆ、こす、過ぐ、度をすこす、通りすぎる、年月がたつ、又順序をふまずに進む、おとす(落)おつ、うしなふ(失)ちる、ちらす(散)發語のこと

軍

【軌道】一定のみちすぢを通り行く、又其道すぢ。汽車や電車の走る軌條の道、レール。
 【軌範】ヤハン かのり、模範。
 【軌範學】ヤハンガク 倫理學・論理學等の如く人の従ふべき標準を立てる學問。
 【軍人】グレン 平時は軍備を補充し戦時は戦闘に従事すべき職務を有する者に陸海軍の將官・尉官及び此等の相當官並に准士官・下士卒等をいふ。
 【軍刀】グンタウ いくさに用ゐる刀。
 【軍夫】グンブ 従軍する人足。
 【軍中】グンチュウ 陣營の中、又陣營。
 【軍功】グンコウ いくさのてがら。
 【軍用】グンヨウ 軍費に同じ。
 【軍令】グンレイ 軍事上の命令、軍隊の制規。
 【軍代】グンダイ 大名の陣を守る重役の稱。
 【軍法】グンポフ 軍隊の法律、軍律。
 【軍行】グンコウ 軍隊の組織、又軍隊の行軍。
 【軍吏】グンリ 軍隊に屬する文官。●軍隊の會計官。

【軍門】グンモン 陣營の門。將軍の尊稱。
 【軍役】グンエキ いくさ。又戦争に徴發さるる軍人の制服。「れる人夫」。
 【軍使】グンシ 交戦中敵軍に赴く使者。
 【軍政】グンセイ 軍事に關する處置。●軍事に關する行政事務。●戦時中司令官が或一定の区域内に於て行ふ行政事務。
 【軍神】グンシン 武運を守る神、いくさがみ。
 【軍氣】グンキ 軍隊のいきぐみ、士氣。
 【軍書】グンショ 軍事に關する事柄をかき記したるもの。●戦争に關する文書類。
 【軍馬】グンバ 軍事に使用する馬。
 【軍扇】グンセン 昔軍隊を指揮せし具にして主に鐵骨にて造り表に日輪裏に月輪を畫く。「の紀律氣象」。
 【軍容】グンヨウ 軍のかたち、武裝。●行軍の事。●戦争の事を記録した書物。
 【軍記】グンキ 軍隊のちんどり。「かゝり」。
 【軍陣】グンジン 軍事に要する費用、又その費用。
 【軍師】グンシ 戦略を考へるもの、參謀官。
 【軍旅】グンリョ 戦争、いくさ。●軍隊、兵士。
 【軍曹】グンサウ 陸軍下士官の一。●古代鎮守府に屬したる官。
 【軍區】グンク 軍事行政を行ふ區域。
 【軍團】グンダン 數箇師團を一司令官の下に置く軍隊。●王朝時代に諸國に配置された常備兵。

【軍餉】グンケウ 兵糧。
 【軍票】グンペウ 軍隊で使ふ紙幣、軍用手形。
 【軍國】グンコク 軍事が政治の中心となれる國家、即ち戦争中の國家。●交戦せる所と平和の内地。「かりごと」。
 【軍略】グンリョウ 戦術、戦略、いくさのはかり。
 【軍務】グンム 軍事に關する任務。
 【軍備】グンビ 戦争の用意をすること。
 【軍港】グンカウ 鎮守府所在地の港灣。
 【軍隊】グンタイ 軍勢のくみ、隊伍。
 【軍裝】グンサウ いくさのしたく、武裝。
 【軍勢】グンセイ 軍隊の勢ひ。●兵士の團隊。
 【軍閥】グンバツ 郷土又は閥閥等の關係にて結ばれたる軍人の中心勢力。
 【軍歌】グンカ 士氣をあげまし又は軍事思想を盛んにするために作られた歌。
 【軍旗】グンキ 戦に用ゐる旗。●聯隊の表彰とする旗。●聯隊旗。
 【軍需】グンジュ 戦時の必需品、軍資。
 【軍監】グンカン 軍事の監督をなす人。
 【軍樂】グンガク 陣中にて奏する音楽、又は軍事に用ゐる音楽。
 【軍縮】グンシュク 軍備縮少の略。



(旗軍)

軒

漢ケン 支那にて大車に乗る者。●(擧)あがる。●ひさし、のき。●たかし(高)●得意のさま、笑ふ貌。●樂器を室の三面にかけること。●家、又家を數へる語。
 【軒別】ケンベツ 家ごと、毎戶。
 【軒帆】ケンパン 車と舟。
 【軒序】ケンジヨ のきとひさし。
 【軒昂】ケンカウ 元氣が盛んである。●たかくあがる。●物事の盛んなること。
 【軒冕】ケンメン 軒は貴人の車、冕は貴人の冠、轉じて高位高官のこと。
 【軒軒】ケンケン 得意なる貌。●軽く揚る貌。
 【軒然】ケンゼン 笑ふ貌。
 【軒輕】ケンチ ①のぼるとふさがる。●まさと劣る。●けんしんと讀むは誤り。
 【軒端】ケンタン のきばた、のきば。
 【軒燈】ケンテウ 軒につけるあかり。
 【軒數】ケンスウ 家の數、戸數。
 【軒頭】ケントウ のきさき、のきば。
 【軌】ゲツ 漢ゲツ 馬車の端にあるくびきをさへる横木。
 【軌別】ゲツベツ 漢ゲツ 馬車の端にあるくびきをさへる横木。
 【軌俗】ゲツソク 漢ジン 車のを回す。
 【軌字】ゲツジ 漢ニン 轉を止め

【軍談】グンタン 戦争の話をし又は面白く節をつけて軍書を読み聞せること。
 【軍器】グンキ 戦争用の器具、兵器。
 【軍橋】グンキョウ 戦事行軍などに兵士のかける軍事用の橋。
 【軍機】グンキ 軍事に關する秘要なる秘密。
 【軍學】グンガク 戦術に關する學問、兵學、兵學。
 【軍營】グンエイ ちんや、陣營、兵營。「法」。
 【軍雞】グンケイ 雞の一種、シヤモ。
 【軍醫】グンイ 軍隊の醫者。
 【軍職】グンシヨク 軍事を掌る官。
 【軍籍】グンセキ ①軍人の住所姓名等を記したる帳面。●軍人としての地位分限。
 【軍議】グンギ 戦争に關する評議。
 【軍艦】グンカン いくさぶね、兵船、戦艦。
 【軍屬】グンゾク 陸海軍に屬する文官。
 【軍需品】グンジュヒン 軍事に必要な物品。
 【軍艦旗】グンカンキ 軍艦の表徴として陸軍の聯隊旗の如く最も尊重する旗。
 【軍配齋】グンバイナツナ 十字科植物の一年生草本で路傍・原野に自生し莖の高さ二尺ばかり初夏の頃白色の小花を開き果實は倒卵形の軍配團扇の狀を呈してゐる。



(齊配軍)

【軍人勳諭】グンジンチュウコク 天皇陛下より特に軍人にたまはりたるおさとし。
 【軍用手形】グンヨウテガタ 戦地にて物品賣買のため軍隊より發する特殊の手形。
 【軍法會議】グンポフクワイ 軍律を犯したる軍人を處置する特別の裁判所。
 【軍國主義】グンコクシヤイ 戦争は道德進歩の源泉にして犠牲奉公の觀念の基礎なりとする主張。「募集する公債」。
 【軍事公債】グンシヨクコウサイ 軍資支辨のために「募集する公債」。
 【軍事教育】グンシヨククワイ 軍事に關する教育。
 【軍配團扇】グンバイウチワ 昔大將が軍を指揮するに用ゐた團扇。
 【軍備縮少】グンビシユクセウ 平和を求め戦争を避ける目的にて世界各國の軍備を縮少すること。「する飛行機」。
 【軍用飛行機】グンヨウヒコウキ 専ら戦争に使用する飛行機。
 三軍 將軍 監軍 後軍
 前軍 護軍 全軍 親軍
 軍軍 舟軍 水軍 從軍
 賊軍 官軍 陸軍 海軍
 遊軍 應軍 娘子軍



(扇團配軍)

る木支那尺にて八尺の長さ

四畫

【軟】正 吳ナン ヤハラ 漢セン カ(柔) 意志節操等がしつかりして居らぬ、やさしい、柔弱又水に鐵物質が雜らぬ

【軟化】ナシク 強固に維持して居た意志や主義がだん／＼と妥協的に傾く堅實な方面から次第に淫蕩的になる。【軟水】ナシク 鐵物質の混らぬ水、雨水。

【軟派】ナシク 強硬なる主張又要求をせぬ主義の黨派。新聞又雜誌などにて文學又は社會面を擔當する記者の仲間。【軟骨】ナシク 柔かにして弾力ある骨、轉じて意思弱くして反對し得ぬ者。

【軟弱】ナシク 意志のしつかりせぬこと。【軟熱】ナシク 柔弱、軟弱。「むもの」。【軟鐵】ナシク 純鐵に十分の一の炭素を含む。【軟骨漢】ナシク 志操弱くして自己を捨て、直ちに妥協し又敵に屈服する者。

【軟化運動】ナシク 反對者を説伏して味方に引入れる運動。【輓】漢アク ぐびき、車の轆の馬の首にあたる部分

【斬】四七二頁の斬を見よ。

五畫

【軸】漢チク 車の輪の中心と 吳ヂク なつて轂をさへるもの、しんぼう、圓きもの又は巻物の中心にさす棒。かけもの、まきもの

【活動又は回轉の中心、又物事の樞要なる地位】やむ(病)一つの圓形の各部が一つの直線に對して對稱状態にあるときの直線の稱。物體が一直線上にて回轉する時の直線又は其に相當する假設線。國訓づく(俳句・川柳などの評點者の句、筆の柄、草の莖、羽莖等の稱、巻物を數へるにふ語)

【軸車】チクシヤ 槓杆の理を應用して物を引あげる車、井戸車の如きもの。【軸物】チクモノ かけもの、かけちく。

【軛】漢シヨク 車の前の横木 吳シキ 車中の横木に伏して敬禮を行ふこと

【輅】漢ロ カク くるま、大いなり(大)天子の服御の物に冠する語。【むかふ(迎)】人力にてひく小車。【輶】漢イ ヒクシ(低) 一〇二四頁の輶を見よ。



(車 軸)

【軛念】シシケン 天子の御こゝろ、叡慮。【軛恤】シシキツ アはれむ。【軛悼】シシタウ 天子のいたみ歎かれること。【軛愛】シシイウ いたみうれふ。【軛懷】シシクワイ 心配する、うれへる。

【軛】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【軛】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【軛】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【軛】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【軛】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

車の箱、人の乗る所。あらそふ(争)き

四畫

【載】漢イ サイ ①のす ける(受)用意す、もつ(持)又書きしめるす。のぼる。はじめ(始)は

【同訓異義】やや 較・差・稍其他の用法は七五五頁の稍を見よ。【較比】カウヒ くらべる、比較。【較著】カウチヤク 明らかにして著し。【較然】カウケン あきらかなるさま。

【載】漢イ サイ ①のす ける(受)用意す、もつ(持)又書きしめるす。のぼる。はじめ(始)は

【同訓異義】やや 較・差・稍其他の用法は七五五頁の稍を見よ。【較比】カウヒ くらべる、比較。【較著】カウチヤク 明らかにして著し。【較然】カウケン あきらかなるさま。

【載】漢イ サイ ①のす ける(受)用意す、もつ(持)又書きしめるす。のぼる。はじめ(始)は

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

のそへぎ、又積荷の落ちることを防ぐため輿の兩傍につける板、或は車の輶

七畫

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

のそへぎ、又積荷の落ちることを防ぐため輿の兩傍につける板、或は車の輶

七畫

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輶】漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ 漢イ ツ テツ

【輕舟】ケイボウ 輕舸に同じ。「忽に同じ」
 【輕卒】ケイツツ ①身輕にいでたつ兵卒 ②輕
 【輕帆】ケイハン 輕く浮ぶ舟、輕舟。
 【輕車】ケイシャ ①はやく走る車 ②昔の戰車
 【輕妙】ケイノウ 手がるにして面白味がある
 【輕快】ケイクワイ ①早くして心地よし ②病
 氣がすこしなほる。
 【輕佻】ケイトウ 心がおちつかずふわ〜せ
 ること ③注 輕跳と書くは誤り。
 【輕忽】ケイコフ ソムつかしい、粗忽である。
 【輕侮】ケイブ かるんじ侮る。
 【輕便】ケイベン てがる、便利。
 【輕風】ケイフウ そよ〜と吹く和かき風。
 【輕重】ケイチュウ ①かるきとおもき ②小事
 と大事、私事と公事 ③めかた。
 【輕浮】ケイフウ うはてうし、かるはずみ、
 うか〜して落ちつかぬ貌。
 【輕砲】ケイハウ 口径十二瓏以下の大砲。
 【輕裘】ケイキウ かるい皮衣。
 【輕捷】ケイセツ すばやし、はしこし。
 【輕率】ケイソツ 輕忽に同じ。
 【輕減】ケイケン かるくす、へらす。
 【輕視】ケイシ かなどる、みくびる。
 【輕舸】ケイカ はやぶね、輕舟。
 【輕罪】ケイザイ ①かるきつみ ②舊刑法にて
 禁錮又は罰金に相當する罪。

【輕微】ケイビ すこし、わづか、さ〜い。
 【輕裝】ケイサウ 身がるく裝ふ。
 【輕傷】ケイシヤウ うすで、微傷。
 【輕輕】ケイケイ かる〜し、かるはずみ。
 【輕輩】ケイハイ 身分の低き者共。
 【輕諾】ケイダク やすうけあひ。
 【輕羅】ケイラ うす絹、うす物。
 【輕薄】ケイハク ①まごゝろなくうはすべり
 するさま ②うとみかるんず。
 【輕舉】ケイキョ ①かるはずみ ②輕くあがる
 【輕騎】ケイキ 身がるに支度したる騎兵。
 【輕躁】ケイサウ 心身がおちつかずさわがし
 【輕躁】ケイサウ 輕躁と書くは誤り。
 【輕石】ケイシ 火山の噴火等によりて成る
 石の如きもの、浮石。
 【輕子】ケイコ 輕籠にて物を運ぶ人夫。
 【輕衫】ケイサン ポルト
 ガル語にて一種の
 袴、主として紺木
 綿又は絹織物を用
 ひ極めてせまく仕
 立て、男女共用、寒
 國に用ひらる。
 【輕籠】ケイコ もっこ
 のこと、土又は雜
 物を運搬するに用



(籠 輕) (衫 輕)

【輕金屬】ケイキンゴク 比重四以下の金屬の稱
 【輕氣球】ケイキキウ ふうせん、風船。
 【輕便鐵道】ケイベンテツダウ 普通の鐵道より
 も軌道及車輛など狭小にして其構造の
 簡單なるもの。
 群輕ケイ 清輕ケイ 叢輕ケイ 剽輕ケイ
 【輓】ケイ 漢吳 ①箱車の兩
 側 ②直立して動かぬさま
 容易に直立して動かぬさま
 【同訓異義】すなはち 輓・乃・則其他の
 用法は三四頁の乃を見よ。
 【輓然】テフセン 直立して動かぬさま。
 【輓】二四〇頁の輓を見よ。
 八畫

【輓】ケイ 漢吳 ①にぐるま
 などを載せる車 ②ほろぐるま、おほひ
 ある車 ③車輻の轂に入る部分の稱
 【輓車】ケイシャ ①戰時又は平時に用ふるに
 ぐるま ②ほろぐるま。
 【輓重】ケイチュウ 貨物・兵糧等を運ぶ車。
 【輓重兵】ケイチュウヘイ 兵糧其他の軍用品を運
 搬する輓重輪卒を指揮監視する兵士。

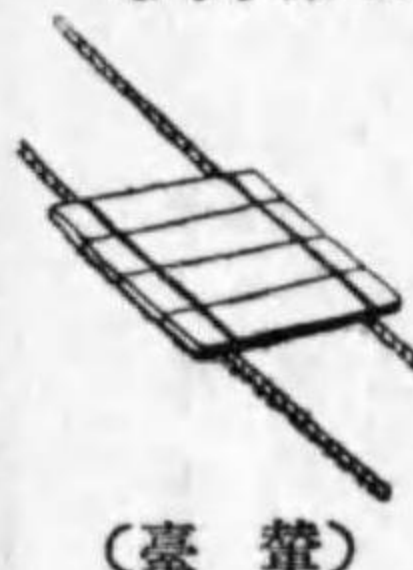
【輓】ケイ 漢 ①にぐるま
 などを載せる車 ②ほろぐるま、おほひ
 ある車 ③車輻の轂に入る部分の稱
 【輓車】ケイシャ ①戰時又は平時に用ふるに
 ぐるま ②ほろぐるま。
 【輓重】ケイチュウ 貨物・兵糧等を運ぶ車。
 【輓重兵】ケイチュウヘイ 兵糧其他の軍用品を運
 搬する輓重輪卒を指揮監視する兵士。

【輝輝】ケイケイ 漢吳 ①にぐるま
 などを載せる車 ②ほろぐるま、おほひ
 ある車 ③車輻の轂に入る部分の稱
 【輝輝車】ケイケイシャ ①戰時又は平時に用ふるに
 ぐるま ②ほろぐるま。
 【輝輝重】ケイケイチュウ 貨物・兵糧等を運ぶ車。
 【輝輝重兵】ケイケイチュウヘイ 兵糧其他の軍用品を運
 搬する輝輝重輪卒を指揮監視する兵士。

【輦】ケイ 漢 ①にぐるま
 などを載せる車 ②ほろぐるま、おほひ
 ある車 ③車輻の轂に入る部分の稱
 【輦車】ケイシャ ①戰時又は平時に用ふるに
 ぐるま ②ほろぐるま。
 【輦重】ケイチュウ 貨物・兵糧等を運ぶ車。
 【輦重兵】ケイチュウヘイ 兵糧其他の軍用品を運
 搬する輦重輪卒を指揮監視する兵士。

【輦】ケイ 漢 ①にぐるま
 などを載せる車 ②ほろぐるま、おほひ
 ある車 ③車輻の轂に入る部分の稱
 【輦車】ケイシャ ①戰時又は平時に用ふるに
 ぐるま ②ほろぐるま。
 【輦重】ケイチュウ 貨物・兵糧等を運ぶ車。
 【輦重兵】ケイチュウヘイ 兵糧其他の軍用品を運
 搬する輦重輪卒を指揮監視する兵士。

【輦】ケイ 漢 ①にぐるま
 などを載せる車 ②ほろぐるま、おほひ
 ある車 ③車輻の轂に入る部分の稱
 【輦車】ケイシャ ①戰時又は平時に用ふるに
 ぐるま ②ほろぐるま。
 【輦重】ケイチュウ 貨物・兵糧等を運ぶ車。
 【輦重兵】ケイチュウヘイ 兵糧其他の軍用品を運
 搬する輦重輪卒を指揮監視する兵士。



(臺 輦)

【輦】ケイ 漢 ①にぐるま
 などを載せる車 ②ほろぐるま、おほひ
 ある車 ③車輻の轂に入る部分の稱
 【輦車】ケイシャ ①戰時又は平時に用ふるに
 ぐるま ②ほろぐるま。
 【輦重】ケイチュウ 貨物・兵糧等を運ぶ車。
 【輦重兵】ケイチュウヘイ 兵糧其他の軍用品を運
 搬する輦重輪卒を指揮監視する兵士。

【輦】ケイ 漢 ①にぐるま
 などを載せる車 ②ほろぐるま、おほひ
 ある車 ③車輻の轂に入る部分の稱
 【輦車】ケイシャ ①戰時又は平時に用ふるに
 ぐるま ②ほろぐるま。
 【輦重】ケイチュウ 貨物・兵糧等を運ぶ車。
 【輦重兵】ケイチュウヘイ 兵糧其他の軍用品を運
 搬する輦重輪卒を指揮監視する兵士。

【輦】ケイ 漢 ①にぐるま
 などを載せる車 ②ほろぐるま、おほひ
 ある車 ③車輻の轂に入る部分の稱
 【輦車】ケイシャ ①戰時又は平時に用ふるに
 ぐるま ②ほろぐるま。
 【輦重】ケイチュウ 貨物・兵糧等を運ぶ車。
 【輦重兵】ケイチュウヘイ 兵糧其他の軍用品を運
 搬する輦重輪卒を指揮監視する兵士。

【輦】ケイ 漢 ①にぐるま
 などを載せる車 ②ほろぐるま、おほひ
 ある車 ③車輻の轂に入る部分の稱
 【輦車】ケイシャ ①戰時又は平時に用ふるに
 ぐるま ②ほろぐるま。
 【輦重】ケイチュウ 貨物・兵糧等を運ぶ車。
 【輦重兵】ケイチュウヘイ 兵糧其他の軍用品を運
 搬する輦重輪卒を指揮監視する兵士。

【輦】ケイ 漢 ①にぐるま
 などを載せる車 ②ほろぐるま、おほひ
 ある車 ③車輻の轂に入る部分の稱
 【輦車】ケイシャ ①戰時又は平時に用ふるに
 ぐるま ②ほろぐるま。
 【輦重】ケイチュウ 貨物・兵糧等を運ぶ車。
 【輦重兵】ケイチュウヘイ 兵糧其他の軍用品を運
 搬する輦重輪卒を指揮監視する兵士。

九畫

漢 辨

【辨】 わきまふ、わかち、區別す、考へ定む。わきまへ、わかち。②そなふ(辨)。

古の辨官の略語

【辨天】 ベンテン 辨財天に同じ。

【辨別】 ベンベツ ①わかち、區別。②見わけ

【辨妄】 ベンマウ 妄論を辨駁すること。

【辨析】 ベンセキ 理非をわかちきめる。

【辨明】 ベンメイ あきらかにきはめわかち

【辨官】 ベンクワン 王朝時代の官名、太政官

の判官にして左大辨・左中辨・左少辨・

右大辨・右中辨・右少辨に分ち八省の事

務を分轄せしもの。

【辨當】 ベンタウ 出先にて食ふ爲め器物に入

れたる食物。

【辨説】 ベンセツ 是非をわかちて説明す。

【辨理】 ベンリ 事務を處理すること。

【辨駁】 ベンバク 道理を説きて非難する。

【辨證】 ベンショウ 直覺又は經驗によらずし

て概念を分析し事理を研究する。

【辨識】 ベンシキ 是非を辨へ得失を知ること

【辨償】 ベンショウ ①つぐなひ返す。②他人が

代りて債務を果すこと。

【辨濟】 ベンサイ 借金を辨濟すること。

【辨財天】 ベンサイテン 印度の辯舌才智の女神

無量の福德を備へ音楽に長ずるといふ

我國にては七福神の一に算へる。

【辨慶草】 ベンケイサウ 活

草のこと、ちどめ

【辨證法】 ベンショウホウ

矛盾の觀念を排除

し眞理を發見する論理上の一法、概念

の分析によつて學問を研究すること。

【辨理公使】 ベンリコウシ 或特別の事項に關す

る全權を有し特命全權公使の次に位す

る公使。

【強辨】 ベンケン 明辨。審辨。論辨。

【辨・辨】 漢 辨 ①つとむ(力)又

(具)訓へる。 吳 辨 その人。②そなふ

十一畫

漢 辭

【辭】 漢 辭 ①言葉、言語、ふみ文章、美文韻文等の詞。②断る、謝す、禮をいふ、又いなむ、應ぜぬ、受けぬ、やめ

る。③別れを告げる、暇乞す。④文體の一

【辭令】 ジレイ ①應對ぶり、ことばづかひ

【辭職】 ジシキ ①官職の任命の書。 ②告別。

【辭去】 ジキョ ①いとまごひ、わかれを告げる

【辭世】 ジセイ ①此世を去る、死去。②臨終

のとき作る詩歌。

【辭色】 ジシキ 言葉と顔色、言辭と容色。

【辭任】 ジニン 役目をことわる、其の職を

【辭別】 ジベツ 辭去に同じ。 「辭退する。

【辭林】 ジリン ①詞のあつまる所、辭典の

別稱。②文章に熟達すること。 「辭彙。

【辭典】 ジテン じびき、字典、字書、辭書、

【辭言】 ジゲン ことば、言語。

【辭表】 ジヘウ 辭任の旨をしたためた上書

【辭柄】 ジヘイ いひぐさ、言葉のたね。

【辭退】 ジタイ ①謙遜してひきさがる。②辭

して身をひく。③つゝしみて謝絶す。

【辭書】 ジショ 辭典に同じ。

【辭意】 ジイ 辭退する心、辭職の意思。

【辭彙】 ジイ 辭典に同じ。 「をす。

【辭賦】 ジフ 詩歌、文詞。 「をす。

【辭儀】 ジギ 挨拶をする、又頭を低れて

【辭職】 ジシキ 辭任に同じ。

【辭藻】 ジソウ ①あやあることば。②文學又

は詩歌、詞藻。 辭退して人にゆづる、謙遜。

文辭	兩辭	淫辭	邪辭
通辭	卑辭	詐辭	勢辭
訓辭	雄辭	片辭	甘辭
言辭	嘉辭	駁辭	虛辭
諛辭	休辭	偉辭	俚辭
華辭	音辭	謙辭	誕辭
便辭	僞辭	辯辭	禮辭

十三畫

【辯】 八一七頁の辯を見よ

十四畫

辯・弁

漢 辯

【辯】 いひあらそふ、論争。②ものいひ、巧みなる言葉づかひ。③あきらかにす、わかち。④文體の一にして論議して是非を争ふもの。⑤口まへ、物を言ふ調子

【辯士】 ベンシ ①辯舌にたくみな人。②演説又は講話等を公衆に聞かせる人。③活

動寫眞の説明者。

【辯口】 ベンコウ ことばの言ひまはし、又たくみな辯舌。

【辯才】 ベンサイ ①辯舌のはたらき。②辯舌と

【辯舌】 ベンセツ 言葉のいひまはし、口ぶり。

【辯者】 ベンシャ 辯士に同じ。

【辯妄】 ベンマウ 他人の暴論を論駁する。

【辯佞】 ベンネイ 口まへ上手にしてこびへつ

【辯明】 ベンメイ 辯解に同じ。「らふ、又其人。

【辯解】 ベンカイ 言ひ開く、あかしをたてる、

其のいひよらき。「攻撃すること。

【辯駁】 ベンバク 他人の言論の誤れるを論じ

【辯論】 ベンロン ①言ひあらそふ、のべとく

②訴訟上自己の主張を貫徹する爲め事實又は法律に付陳述論議すること。

【辯難】 ベンナン 言論をもつて反對しなじる

【辯護】 ベンゴ ①其人の爲に言ひわけして

かばふ。②辯護人が法廷にて被告人の爲に辯論して其人をかばひたすける。注意

辯護と書くは誤り。

【辯辯】 ベンベン 條理を立て、論ずること。

【辯護士】 ベンゴシ 裁判所にて被告又は原告

の爲に論辯して其者の利益をはかること

とを職業とせる者。

【逸辯】 ベイツ 明辯。口辯。

【心辯】 ベンシン 雄辯。大辯。

【分辯】 ベンブン 弘辯。博辯。

【辭辯】 ベンジ 精辯。文辯。

【俊辯】 ベンジュン 機辯。剛辯。

【強辯】 ベンキョウ 警辯。巧辯。

【豐辯】 ベンホウ 邪辯。曲辯。

【邪辯】 ベンジャ 曲辯。佞辯。

辰部

辰

漢 シン ①十二支

つ、方角は東東南、時刻は今の午前八

時。②えと、十二支。③日月星辰の總稱、

又日月の交會する所。④ひ(日)子の日よ

り亥の日に至る十二日。⑤とき、時刻、

時節。⑥星の名、北極星、大火星

【辰巳】 タウイ 東と南との間、巽。

【辰刻】 レンコク とき、時節、時刻。

【辰砂】 レンシャ 水銀と硫黄との化合物、丹砂

【辰宿】 レンシュク 星のやどり。

【五辰】 シン 北辰。令辰。吉辰。

【考辰】 シン 良辰。忌辰。星辰。

【時辰】 シン 剛辰。測辰。聖辰。

【嘉辰】 シン 誕辰。儀辰。霜辰。

辱

漢 ジョク ①はぢ

はづかしむ、屈す、けがす(瀆)。②はづ

かしめらる、はづかしめ、はぢ。③かた

じけなし、ありがたい、もつたない

【同訓異義】はづ 辱・恥・忝其他の用法

【辱友】ジヨクイフ 辱知に同じ。

【辱交】ジヨクカウ 次と同じ。

【辱知】ジヨクチ 其人より交際の榮を得たことをありがたく思ふ意、しりあひ。

【辱臨】ジヨクリン 目上の人の訪問をいふ敬語

【榮辱】ジヨク 答辱ジヨク 寵辱ジヨク 恥辱ジヨク 忍辱ジヨク 勞辱ジヨク 憂辱ジヨク 屈辱ジヨク 折辱ジヨク 挫辱ジヨク 廢辱ジヨク 困辱ジヨク 窮辱ジヨク 小辱ジヨク 侵辱ジヨク 陵辱ジヨク

【唇】二〇二頁の唇を見よ。

【晨】四八九頁の晨を見よ。

【脣】四八九頁の脣を見よ。

【農】漢ドウ ①田畑

【農】漢ドウ ①田畑

【農】漢ドウ ①田畑

【農】漢ドウ ①田畑

【農】漢ドウ ①田畑

【農】漢ドウ ①田畑

【農民】ノウリン 農業をする民、百姓。

【農村】ノウリン 農家の集まる村。

【農兵】ノウヘイ 農業に従事せるものを召集して組織せし軍隊。

【農月】ノウゲツ 立夏以後の農業の忙しき月

【農用】ノウヨウ 農業に用ふる意。

【農林】ノウリン 農業と林業。

【農作】ノウサク 百姓わざ、田はたのしごと。

【農具】ノウク 農業用の器具。

【農科】ノウカ 大学の農学部、農學、農藝化學、林學、獸醫學の四に分つ。

【農相】ノウセウ 農林大臣の別稱。

【農政】ノウセイ 農業に關する制度法律。

【農耕】ノウコウ 畠をたがやす百姓のわざ。

【農桑】ノウサウ 耕作と養蠶。

【農場】ノウチャウ 農業をいとなむ所。

【農歌】ノウカ 農夫のうたふ歌。

【農時】ノウジ 耕作に適する時期、農繁期。

【農圃】ノウボ 是たけ。「學派の名」

【農家】ノウカ ①百姓、又百姓の家②昔の農會ノウカライ 農業の改良發達を圖る目的を以て設立する一種の公法人。

【農産】ノウサン 農業によりて得る産物。

【農務】ノウム 農業上の政務②農業上の農間ノウカン 次と同じ。「つとめ」

【農閑】ノウカン 農事のひまな時。

【農業】ノウゲウ ①耕作の仕事②動植物を栽培畜養して人生に必要な物品を産出するしごと。「その時期」

【農繁】ノウハン 農業のいそがしきこと、又

【農學】ノウガク 農業の原理原則を研究して其發達改良を促す科學。

【農藝】ノウゲイ 農業と園藝。「もの、農産」

【農産物】ノウサンブツ 農業によつて生産した

【農業時代】ノウゲウジダイ 遊牧時代の次、經濟上より見て農業を主とする時代。

【農工銀行】ノウコウギンギョウ 農業の改良發達を目的とする資本の貸付をなす株式組織の特殊銀行。

【力農】リキノウ 三農リキ 司農リキ 老農リキ

【良農】リヤノウ 耕農リキ 善農リキ 豪農リキ

【蜃】シ 九一八頁の蜃を見よ。

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【走】ハシル

【迂】國字 すべる(滑)位を退く、居ながらにじり移る

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

【迂】國字 迂、こもる、やる、入る、

る、とほざける(滅)又氣を弱くもつ
 【同訓異義】 しりぞく
 【却】 は卻に同じ。
 【屏】 は其の場をはらひのけるの意。
 【斥】 はその意屏より強し。
 【退】 は進の反對で遜讓の義にも用ふ
 【御】 はそこを避けて退き、又ことわりてかへすの意。
 【黜】 は陟の反對で官位を貶し下ぐの
 【退化】 タイクワ 生物の有する或器官が漸次
 簡單となり又全く喪失する現象。
 【退引】 タイイン 引下がる、後へひく。
 【退去】 タイキョ たちのく、しりぞきさる。
 【退出】 タイシュツ ひきさがる。
 【退任】 タイニン 退職に同じ。
 【退守】 タイシュ しりぞいてまもること。
 【退歩】 タイポ ①悪い方又は滅亡の方に傾く②あともどりすること。「退出す」
 【退廷】 タイテイ ①朝廷より退く②法廷より
 【退役】 タイエイ 退職に同じ。
 【退社】 タイシャ 其社に勤める事をやめる。
 【退官】 タイクワン 退職に同じ。
 【退屈】 タイクツ ①あとにさがる②無聊にくるしむ【注意】退窟と書くは誤り。
 【退治】 タイチ 敵又は妖怪等を討滅する。
 【退卻】 タイキョク しりぞく。

【退陣】 タイジン 進めた軍隊を引きもどす。
 【退院】 タイエン ①僧が寺院を退いて隠居する②入院患者が病院よりひきあげる。
 【退座】 タイザ 次に同じ。
 【退席】 タイセキ 其座席より引きさがる。
 【退筆】 タイヒツ 古ふで、使ひふるした筆。
 【退散】 タイサン たちのく、ひきはらふ。
 【退朝】 タイチャウ 朝廷からひきさがる、退廷。
 【退路】 タイロ 逃げみち、しりぞくみち。
 【退嬰】 タイエイ ひかへる、ひかへめ、しりぞきまもる、しりぞみ。
 【退縮】 タイシュク すくむ、しりぞき縮まる
 【退隱】 タイイン しりぞきかくれる。
 【退避】 タイヒ ①引退す②しりぞきよける
 【退職】 タイシヨク 官を退く、やくをやめる。
 【退轉】 タイテン ①破産して他に移り住む②佛を信ぜずして他に心を移す。
 【退讓】 タイジヤウ へりくだる、退きゆづる。
 【退廳】 タイテイ 官廳より退出す。
 【退色】 タイシヨク 色のさめること、又其色【注意】たいしよくと讀むは誤り。
 公退タイコウ 引退タイイン 斥退タイシツ 沈退タイチン
 抑退タイヨク 奔退タイホン 勇退タイユウ 恭退タイキョウ
 清退タイセイ 敗退タイバイ 排退タイハイ 進退タイシン
 減退タイケン 遁退タイトン 罷退タイハイ 廢退タイバイ
 擊退タイキ 隱退タイイン 一進一退タイシン

寸進尺退タイシンチツ 坐作進退タイザサツ
 【逃】 【逃】 俗 漢 タウ
 にご、のがる、にげさる、脱す、まぬかれる、まじろぐ、よける(避)たちさる
 【同訓異義】 のがる
 【北】 はうしろを見せる義。
 【竄】 はにぐかくれるの意。
 【逃】 はたちのきにげるの意。
 【遁】 はとりにげ又は借りにげの意。
 【遁】 は逃に同じ。
 【遁】 はにげかくれるの意。
 【遁】 は遁に同じ。
 【逃亡】 タウバウ 出奔、にげうせる。
 【逃去】 タウキョ 逃げさる。
 【逃走】 タウソウ にげだす、のがれにげる。
 【逃遁】 タウトン にげる、のがれる。
 【逃匿】 タウニク のがれよける。
 【逃竄】 タウサン にげ隠れる。
 【逆】 【逆】 漢 ゲキ
 ①さかふ、順はぬ、さからふ、てむかひす、そむく(反)たがふ②さかさま、反對、轉倒③道徳にそむく、道を守らぬ者、又その者④むかふ(迎)まちなうけ

る、推測す(前)以て、あらかじめ
 【同訓異義】 さかふ 逆・忤・等の用法は
 三二頁の忤を見よ。
 【同訓異義】 むかふ 逆・向・迎其他の用法は一九一頁の向を見よ。
 【逆上】 ゲキジョウ のぼせる、上氣。
 【逆心】 ゲキシン むほんの心、反心。
 【逆行】 ゲキカウ さかさまにゆくこと。
 【逆匠】 ゲキジュウ 君にそむく家來。
 【逆風】 ゲキフウ むかひ風。
 【逆流】 ゲキリウ ①水が後戻りして流れる又其水②生死の流に逆ひて佛道に入る
 【逆修】 ゲキシュ ①死後の冥福を祈りて生前に佛事を修すること②若い者が先に死んで生き残つた老人が其佛事を替む
 【逆徒】 ゲキト 君父にそむく者。
 【逆航】 ゲキカウ 船をぎやくに進める。
 【逆意】 ゲキイ ①逆心②人に反抗すること
 【逆賊】 ゲキタク 謀叛人、君父に背く悪人。
 【逆説】 ゲキセツ ①主義又意見の反對なる議論②外見上矛盾する如く見えて其實然らざるもの。「なるたちはば」
 【逆境】 ゲキキョウ 思ふに任せぬ境遇、不遇
 【逆縁】 ゲキエン 親が子よりも後れ老者が壯者よりも長く生存する因縁。
 【逆轉】 ゲキテン ①宙返飛行の一にして機

首を上方にし後ろに轉ずるもの(形勢)が反對に轉化すること。「打にする」
 【逆襲】 ゲキシヤク 寄せ來る敵を反對に不意に襲つ、逆襲してうつ。
 【逆浪】 ゲキライ ①さかなみ、さかまくなみ。②りよと讀むは誤り。「見、豫測」
 【逆睹】 ゲキト 豫め知る、事前に見る、先
 【逆鱗】 ゲキリン 天子の御いかりをいふ。
 【逆茂木】 ゲキモキ 荆棘の枝をならべ立てて垣に結び敵の兵馬を妨げるもの、又鹿砦ともいふ。
 凶逆ゲキキョウ 反逆ゲキハンク 復逆ゲキフツク 惡逆ゲキアク
 大逆ゲキダイ 六逆ゲキロク 横逆ゲキコウ 順逆ゲキジュン
 莫逆ゲキバク 暴逆ゲキバウ 忤逆ゲキコウ
 英逆ゲキエイ 暴逆ゲキバウ 忤逆ゲキコウ
 【逆】 【逆】 漢 ハウ へイ
 ①ほとばしる、ほとばしらす②はしる(走)はしらす③しりぞく、退散させる
 【逆泉】 ハウセン 逆り出る泉。
 【逆流】 ハウリウ 逆り流る。
 【逆發】 ハウハツ ほとばしり出る。
 【迹】 【跡・蹟通】 漢 セキ 吳 シヤク

①あとあしあと、あとかた、成績、先例②たづぬ、たづねる、あとを追ふ
 風迹フウキ 遺迹イシキ 馬迹バキ 鳥迹チヨウ
 轉迹テンキ 羽迹ウキ 前迹ゼンキ 蹤迹シヨウ
 勝迹シヨウ 履迹リキ 人迹ジンキ 放迹ハキ
 王迹ワキ 名迹メイキ 陳迹チンキ 筆迹ヒツキ
 【迥】 【迥】 漢 コウ
 あふ(避)めぐりあふ
 【迥】 三五八頁の廻を見よ。
 【同訓異義】 めぐる 迥・繞其他の用法は八一五頁の繞を見よ。
 【迥】 三四頁の乃を見よ。
 【迥】 一〇三二頁の迥を見よ。
 【透】 【透】 漢 トウ ①すく、すきとほる②すかす、とほす
 【透明】 トウメイ すきとほる、すいて見える。
 【透視】 トウシ 特殊なる心理作用によりて不透明體を通過してすかしみること。
 【透寫】 トウシャ 別の紙などにすきとほらせ

【透徹】トウチャク すきとほる、通徹す。
【透明體】トウメイタイ 空氣・水又は硝子等の如くよく光を通過せしめるもの。

逐

【逐】ツク 漢タク ①おふ、呉ヂク おひかける、おひはらふ、おひまくる、つきまといふ。②放つ、斥ける。③あらそふ(争)きそふ。④ともに行き、あとをつける。⑤おはる、放される、出される。⑥物を一つ一つ数へる。

【同訓異義】 おふ 逐・追・趁等の用法は一〇三二頁の追を見よ。

【逐一】ツクイチ 一つ一つ、はしからはし迄。

【逐日】ツクジツ ①日をおうて、日に日に太陽をおひかける、馬などの速き形容。

【逐次】ツクジ ①しだいに、漸次。

【逐鹿】ツクロク 英雄が互に天下を争ふことを獵師が鹿をおひまはす状に比していふ、轉じて廣く一つの目的を得んとして競争する場合にも用ゐる。

【逐條】ツクジョウ ①順次に簡條にあたる。②木の枝や水滴の絲など、一すぢごとに。

【逐電】ツクデン ①電光を追ふ如くはやくこと。②かけおち、にげうせる。

【逐逐】ツクツク ①排逐。②討逐。③追逐。④驅逐。⑤斥逐。⑥放逐。⑦驅逐。

途

【途】ツ 漢ト ①みち、道路。②途上。③路頭、路上、みちのほとり。④途中。⑤みちのなかほど、みちなか。⑥物事のなかほど、中途。

逗

【逗】ツ 漢トウ ①とどまる。②止。③雨其他の用法は五五六頁の止を見よ。

【逗留】ツウリウ 一つ所に永く留つて居る。

這

【這】ツ 漢シヤ ①この、これ(者)。②國訓はふ(はらばふ、蟲がある)。③この、これ、這箇。

【這箇】ツハン ①この、これ、這箇。②這箇。③前に同じ。

通

【通】ツ 漢トウ ①とほる、いたる(至)およぶ(及)ゆきわたる、とどこほらぬ、(しぬきとほる、すぎる)過(ゆきかふ、かよふ、往來す)とほす、通過せしむ、かよはす。②あきらかに知る。③すべくする。④傳へ

【通信】ツウシン ①たより。②報知。「わかる。【通俗】ツウソク 世間一般なみにして誰にも【通則】ツウソク 全般にとほる規則。「せる。【通風】ツウフウ かぜとほし、空氣を流通さ【通宵】ツウキョウ 通昔に同じ。【通約】ツウヤク 分數の分子と分母より互に有する因子をひとしく除き去ること。【通計】ツウケイ しめだか、そうかんぢやう。【通航】ツウカウ ふねのかよひ、通船。「取引【通商】ツウシヤウ あきなひ、特に外國との【通貨】ツウカウ 國內に強制通用する貨幣。【通常】ツウジュウ なみ、尋常、普通。【通患】ツウワン 通弊に同じ。【通報】ツウバウ 知らせる、通知。【通過】ツウクワ ①とほりすぎる。②會議にて議案が可決せられる。③願書などが採用せられる。④試験などに合格すること。【通路】ツウロウ とほりみち、往來。【通牒】ツウテツ 書面にて通知す(公文書)【通勤】ツウキン 自宅よりかよひつとめる。【通運】ツウウン 品物をはこぶ。【通算】ツウサン 通計に同じ。「ほり名。【通稱】ツウショウ 一般に通ずるよび名、と【通論】ツウロン ①全體に通ずる論。②道理に【通弊】ツウヘイ 一般的の弊害「合つた議論。【通學】ツウガク 學校にかよひてまなぶ。

【通曉】ツウケウ よくわかる、よくさとる。【通譯】ツウヤク 通辭に同じ、兩者の意思を疏通せしむ、又其人。【通寶】ツウハウ 通貨に同じ。【通辭】ツウジ 外國語を國語に直して兩者の意志を通せしめること、又其人。【通覽】ツウラン 一通り目をとほしてみる。【通讀】ツウダク 始めより終り迄よく讀む。【通草】ツウソウ 植物の一、若葉と果實は食用に、莖は土瓶の手又は籃等を製する。【通有性】ツウイウセイ 或種類又は或階級に於て其等のものが共通して有する性質。【通脫木】ツウダツボク 暖地に自生する小喬木で莖の髓を薄片として紙に代用する。

【通知預金】ツウチヨウキ 引出しに際し必ず數日前に其事を通知する規定の預金。【通商條約】ツウシヤウヂョウヤク 締約國が對手國內に於ける自國民の商業交通に關し其權利を確保する目的で定めた契約。【通發作用】ツウハツサウヨウ 植物の葉が根から吸收せし水分を水蒸氣に化して發散せ

て知らしむ、又のべつげる。①あまねく、すべて(したしむ)親。②男女がひそかに情を通ずること。③文書又は手紙等を數へる語。④つう(人情にさく)遊藝。花柳の事などに明るきこと。⑤合格すること。⑥みちすぢ。⑦つゞける。⑧しげしげ行く、どちらにもあてはまる、にる(似)。⑨商人が注文品の種目及代價をしるす帳面、通帳、かよひ。「自在なはたらき。【通力】ツウリキ すべての物事に達して自由【通人】ツウジン ①博覽多識の人。②人情を知り世故に馴れた人、特に花柳社會のことに通じたる人をいふ。「ること。【通用】ツウヨウ ①一般に滞りなくもちゐられ【通行】ツウカウ ①とほりすぎる。②廣く世間一般に行はれ用ゐられてゐること。【通有】ツウイウ 一般に通ずること。【通告】ツウコウ 通知に同じ。【通例】ツウレイ ①一般的の規則。②一般のならはし、よのつね。③大抵、普通に。【通昔】ツウセキ よもすがら、夜通し、徹夜。【通事】ツウジ 通辭、通譯者。【通券】ツウケン 通行免許のてがた。【通夜】ツウヤ ①よもすがら徹夜して死人の傍に居て弔意を表すること。【通知】ツウチ 知らせ、知らせること。

しめる作用。交通ツウカウ 變通ツウヘン 感通ツウカン 疏通ツウツウ 流通ツウリウ 靈通ツウレイ 融通ツウユウ 略通ツウリョウ 貫通ツウクワン 開通ツウカイ 知通ツウチ 簡通ツウカン

逝

【逝】ツ 漢セイ ①ゆく(過)さる(去)す、(進)又死ぬこと。②發語の辭、こゝに【同訓異義】 ゆく 逝之・往其他の用法は三六八頁の往を見よ。【逝川】セイセン 流れゆく水、物事の一たびすぎ去りて還らぬことの喩。【逝去】セイキョ 人の死ぬこと。

速

【速】ツ 漢ス ①はやし、とし。②早める、すみやかにす、いそぐ(急)すみやかに、早く、いそいで(急)めす(召)まねく(招)よぶ(呼)めす。【速力】ソクリキョク 速度に同じ。「出來上る。【速成】ソクセイ はやくなすとげる、はやく【速決】ソクケツ 早くきめる、其場できまる。【速急】ソクキツ すみやかなること。【速度】ソクド 物の運動するはやさ。【速答】ソクタフ すみやかにこたへる。【速記】ソクキ ①はやくかきしるす。②速記



(木脱通)

法にて書き取る、其書取りしもの。

- 【速断】ツクタン 物事をはやくきめる。
- 【速記法】ソクキハフ 簡便なる符號を以て人の言ふところを其まゝ速記する法。
- 【速射砲】ソクシャハク 火砲の一種にして彈丸を迅速に發射するしかけのもの。
- 機速ソク 迅速ソク 神速ソク 拙速ソク
- 疾速ソク 迅速ソク 急速ソク 輕速ソク
- 敏速ソク 嚴速ソク 妙速ソク 加速ソク

【造】

- ①つくる、こしらへる(拵)②はじむ、はじめ(始)③きたる(來)④いたる(至) 出頭する、きはめる⑤しあげる、成就す⑥とき(時)時世、時代⑦國訓みやつこ(朝廷に奉仕する文武百官の古稱)
- 【同訓異義】①いたる 造・到・至其他の用法は八六〇頁の至を見よ。
- 【造化】ゾウカ 天地自然の理、又造物者。
- 【造作】ゾウサク ①物をつくる②家屋の建具及び裝飾③しかた、てだて。
- 【造林】ゾウリン 樹木を仕立て林をつくる。
- 【造船】ゾウセン 船を造る。
- 【造花】ゾウカク ①つくり花、又花をこしらへる②造詣ゾウケイ ①學藝に深く通ずること②

人の家に往く、訪問すること。

- 【造幣】ゾウヘイ 貨幣を鑄造す。
- 【造營】ゾウエイ 家屋其他の建造物をつくる
- 【造釀】ゾウジャウ 酒をつくる、釀酒。
- 【造物主】ゾウブツシュ 天地萬物をつくれる。
- 【造石税】ゾウコクセイ 酒類及び醬油の石數に應じて課する造石税。「くり産む神」
- 【造物者】ゾウブツシャ 造物主、天地萬物をつくる者
- 【造形美術】ゾウケイビジュツ 専ら視覺により音樂の如きを交へざる美術、繪畫・建築・彫刻の類。「間、とつさの場合」
- 【造次顛沛】ゾウジテンパイ 東の間、すこしの新造
- 新造ゾウ 天造ゾウ 俊造ゾウ 再造ゾウ
- 創造ゾウ 修造ゾウ 繕造ゾウ 營造ゾウ
- 改造ゾウ 築造ゾウ 製造ゾウ 兩造ゾウ
- 改造ゾウ 築造ゾウ 製造ゾウ 兩造ゾウ
- 【逢】(會)であふ(遇)②むかふ(迎)③おほいなり(大)④受身の助動詞、らる
- 【同訓異義】あふ 逢・遇・遭其他の用法は一〇四二頁の遇を見よ。
- 【同訓異義】むかふ 逢・向・迎等の用法は一〇九一頁の向を見よ。
- 【逢迎】ホウゲイ ①人をむかへる②人の氣に入るやうに力める。
- 【逢著】ホウチャク であふ、あふ、てくはす。

【連】

- ①つらぬ、つゞける、ならべる(並)②つらなる、かゝりあふ③つゞく(續)永くつゞく④つゞきあひ、親類⑤周制にて十國を連と稱す⑥しきりに(頻)⑦つゞけさま⑧國訓むらじ(古の八姓の一)つれ
- 【同訓異義】しきりに 連・仍・頻其他の用法は五八頁の仍を見よ。
- 【連山】レンサン ①つゞく山々②夏の時代に行はれたる易の名。
- 【連中】レンチュウ くみ、なかま、同類。
- 【連日】レンジツ 日々、毎日。
- 【連名】レンメイ 連署に同じ。
- 【連比】レンヒ つらなりならぶ。「に呼ぶ」
- 【連呼】レンコ つゞけさまに呼ぶ、しきりに
- 【連判】レンパン ①同役の者が連名して書を判する②同志の約束に連名捺印する。
- 【連坐】レンザ 一人の罪により他人まで罰せられること、まさぞへ。
- 【連夜】レンヤ よなく、まいばん。
- 【連互】レンゴ づらなりわたる。
- 【連枝】レンシ ①つらなりたる枝②兄弟、姉妹③貴人の兄弟の敬稱。
- 【連鞠】レンコ くるり棒、からざを。
- 【連帶】レンタイ ①互に連なりむすぶこと②

二人以上連合一帶して責任を負ふこと。

- 【連累】レンルイ 罪のかゝりあひ。「る説」
- 【連連】レンレン ①しづかなるさま②つらな
- 【連發】レンパツ 銃砲など續けて打出す。
- 【連絡】レンラク 相關係する、つながる、聯絡
- 【連勝】レンショウ しきりにかつ、勝ちつゞけ
- 【連結】レンケツ 連りむすばる、連りむすぶ。
- 【連盟】レンメイ 同盟を結ぶ。
- 【連署】レンショ 二人以上の者が一通の文書に氏名を書きつらねること。
- 【連歌】レンカ 二人にて和歌の上句と下句とを詠むもの③讀れんかと讀む誤はり
- 【連綿】レンメン 限りなくつゞく説。
- 【連鎖】レンシャ ①彼と此とを連ねるくさり②相關聯してつながる。
- 【連類】レンルイ ①連中②共犯者。
- 【連續】レンジツ つゞける、つらなりつゞく。
- 【連用言】レンヨウゲン 文法上動詞の第二段の活用にて他の動詞が接續するもの。
- 【連理枝】レンリノエダ 兩樹の枝が相連りて融合せし物にて夫婦の縁に比していふ
- 【連錢馬】レンセンバ 毛に錢形を列べたるが如き斑文のある馬
- 【連體言】レンタイゲン 文



(馬錢連)

法上動詞の語尾變化の第四段の活用をいふ。「なす劇」

- 【連鎖劇】レンシャク 映畫と實演と交錯して
- 【連記投票】レンキトウヘウ 選挙のとき一票にて數人を列記し得る投票。
- 【連帶責任】レンタイセキニン 多くのものが連帶して同一の責任を負ふこと。
- 【連戰連勝】レンセンレンショウ かつつゞける。
- 【連合責任】レンガフセキニン 數人が共同して債務上の責任を負担する場合に各自の負擔すべき範圍の定まれる責任。
- 【連帶債務】レンタイサイム 多數の債務者が全部の義務を履行すべき性質の債務。
- 合連レン 流連レン 貫連レン 參連レン 牽連レン 留連レン 關連レン 綿連レン
- 【逋】ホ ①にげる、のがる、に未納の税金、賦税のおひめ
- 【同訓異義】のがる 逋・逃・遁其他の用法は一〇三四頁の逃を見よ。
- 【逋客】ホカク 世をのがれたる人、隱者。
- 【逋租】ホソ 未納税、租税のおひめ。
- 【逋髮】ホハツ みだれ髮。
- 【逋竄】ホザン にげかくれる。
- 【逋】ホ 漢 逋 逋 逋はぶらつく、散步セウ すること

【逋】セウニワ さまよふ、ぶらつく。

【速】

- 【速】ソク 漢 キウ ①あひれみひ、配偶②あつめる、一致させる
- 【逕】ソク 漢 ケイ ①こみ路②いたる(至)こみちを通る③みち、門前の路④ちかし(近)眞直でみじかい
- 【逕庭】ケイテイ 相違の甚しきにいふ語⑤逕庭又は逕庭と書くは誤り。
- 【逕】ソク 漢 テイ ①たくたくましくす②こころよし(快)③ゆるめる(緩)のぶ④しめ括る、檢束
- 【逕志】ケイシ 思ふがまゝに行ふこと。
- 【逕】ソク 漢 イ ①しりぞく、しざる、
- 【逕巡】シユンジュン 次第にさがる、しりごみ。
- 【逕】ソク 一〇四七頁の逕を見よ。

八畫

【週】

- 【週】シュウ 漢 シウ ①まはり、めぐり、主に時間關係の場合に用ふ(七日を一週といふ類)②日。

月・火・水・木・金・土の七曜日、一まはり
 【週刊】^{シウカン} 一週間毎に發行する印刷物
 【週報】^{シウハウ} ①一週間ごとに一度發行する新聞紙の類 ②一週間毎の報知。
 【週遊】^{シウイウ} 諸方をめぐりあそぶ。
 【週番】^{シウバン} 一週間ごとに交代につとめる勤務、又その當番の人。
 【週期】^{シウキ} ①ひとまはりの時期 ②物體が一回振動する時間 ③地球等の公轉體が一回公轉する時間。
 【週期律】^{シウキリツ} 物に或一定の間隔をおいて循環する性質のあることにいふ。
進 ^{シユン} 漢吳 ①すすむ、前へ出る、すゝめる ②擧げて用ゐる、又擧げ用ゐらる、仕官する ③登る、のぼす、又良くなる、よくす、加へる ④よせる、ちかづける ⑤たてまつる、獻ず ⑥仕官して爵祿を受ける ⑦しんもつ (進物)おくりもの
 【同訓異義】すすむ
 【前】は後の反對で前方へ出るの意。
 【擧】は傍からほめて助け勵ます意。
 【晉】は日のじり／＼と昇るの意。
 【漸】はいつと無く、漸次に進むの意。
 【進】は其物を馳走し進む義。

【薦】は神に物を獻するの義、轉じて人に物を進上するにも、人を推舉するにも用ふ。
 【進】は退の反對で次第に向うへゆく又學徳などの上達するにもいふ。
 【進上】^{シユンシヤウ} 進呈に同じ。
 【進士】^{シユンシ} 學問が優等にて政府に選拔せられ官吏登用試験に及第せし者。
 【進止】^{シユンシ} ①たちあふるまひ ②朝廷の指揮を受けること。
 【進水】^{シユンスイ} 船舶艦船等の建造を終り造船所から引き卸して水上に浮ばせる。
 【進化】^{シユンカ} ①物事が良き方に化しゆく。 ②すすむ、進歩すること。
 【進呈】^{シユンテイ} 他人に物を贈ることの敬語
 【進言】^{シユンゲン} 上に對し意見を申し上げる
 【進物】^{シユンブツ} おくり物、獻上物。
 【進歩】^{シユンポ} ①前へ出る、足を進める ②一歩ふみ出す、物事のよき方に進む。
 【進取】^{シユンク} 我よりすすんで事を行ふ意
 【進退】^{シユンタイ} ①進むと退く、又出處、去就 ②人を用ゐることとおとすこと。
 【進歩】^{シユンポ} ①前へ出る、足を進める ②一歩ふみ出す、物事のよき方に進む。
 【進發】^{シユンパツ} 出かける、出發。
 【進路】^{シユンロ} すゝみ行く道筋。
 【進達】^{シユンダツ} 書類などを取次ぐこと。

【進獻】^{シユンケン} すゝめたてまつる。
 【進學】^{シユンガク} ①學問をすすめて修める ②入學、又は入校。
 【進講】^{シユンカウ} 君主の御前で講義をする。
 【進撃】^{シユンキキ} 進んで敵をうつ。
 【進水式】^{シユンスイシキ} 新造の船艦を始めて水中に浮かべる式、ふなおろし。
 【進化論】^{シユンカロン} 生物は元來同類の祖先であつたが次第に進化したといふ論。
 【進退伺】^{シユンタイウカガヒ} 責任の地位にある者が其責任を自決せずして上に伺ひ出る
 誘進^{シユンシユ} 引進^{シユンシユ} 安進^{シユンシユ} 奮進^{シユンシユ}
 競進^{シユンシユ} 輕進^{シユンシユ} 榮進^{シユンシユ} 孤進^{シユンシユ}
 薦進^{シユンシユ} 勇進^{シユンシユ} 特進^{シユンシユ} 仕進^{シユンシユ}
 先進^{シユンシユ} 後進^{シユンシユ} 拔進^{シユンシユ} 供進^{シユンシユ}
 急進^{シユンシユ} 龍進^{シユンシユ} 榮進^{シユンシユ} 推進^{シユンシユ}

【逸出】^{イツシュツ} はなれてる、にげだす。
 【逸民】^{イツミン} 遁世して人に知られぬ人。
 【逸材】^{イツサイ} まさされるうでまへと才智。
 【逸足】^{イツソク} はやあし、又迅く驅ける馬。
 【逸事】^{イツジ} 世上に知られぬ事柄。
 【逸物】^{イツブツ} 人・馬など特にすぐれて強すぐれて美しい。「いもの。
 【逸美】^{イツビ} はなれ馬、奔馬。
 【逸馬】^{イツバ} はなれ馬、奔馬。
 【逸品】^{イツピン} 二つと無き品、すぐれた品。
 【逸書】^{イツショ} ①散逸して世に知られぬ書 ②今の書經よりぬけてゐる文書。
 【逸散】^{イツサン} ひとすぢに走るさま。
 【逸群】^{イツケン} 多數の中からぬきんでると
 【逸遊】^{イツユ} 怠り遊ぶ。
 【逸話】^{イツワ} 世間の人の多く知らぬ話。
 【逸樂】^{イツラク} あそびたのしみ。
 【逸蕩】^{イツドウ} 我儘にして酒色にふけること
 【逸興】^{イツキョウ} 世俗にかけはなれたる風流文雅のたのしみ。
 遊逸^{ユイ} 優逸^{ユイ} 隱逸^{イン} 安逸^イ
 富逸^フ 逃逸^{トウ} 恣逸^シ 高逸^{コウ}
 亡逸^{ワウ} 焚逸^{ブン} 迅逸^{シン} 無逸^ム
 勞逸^{ラウ} 横逸^{コウ} 放逸^{フウ} 縱逸^{ジュウ}
 淫逸^{イン} 蕩逸^{ドウ} 秀逸^{シュウ} 卓逸^{チャク}
 奇逸^キ 超逸^{テウ} 狂逸^{キヤウ} 越逸^{エツ}

道 ^{クワン} 漢吳 にげる、のがる
 【同訓異義】のがる 道・逃・遁等の用法は一〇三四頁の逃を見よ。
逮 ^{ダイ} 漢タイ ①およぶ(追) ②およぼす(達) ③およぶ(追) ④およぼす(達) ⑤およぶ(追) ⑥およぼす(達)
 【同訓異義】およぶ 逮・及・追其他の用法は一七七頁の及を見よ。
 【逮夜】^{タイヤ} 忌日の前夜、追夜。
 【逮捕】^{タイポ} めしとる、犯罪者及び犯罪の嫌疑ある者を捕縛すること。
逵 ^キ 漢キ おほち(九達する道路) ①おほち(九達する道路) ②又車九輛をならべて通行し得る大道、都會の大通り
 九逵^{クウ} 大逵^{ダイ} 康逵^{カウ} 通逵^{ツウ}
透 ^{トウ} 漢吳 斜に行く貌
迸 ^{ヒョウ} 一〇三五頁の迸を見よ。
遁 ^{トン} 漢トン ①にげる、のがる、

にげかかれる、さける(避)たつ(絶)又それ等のこと ②めぐる(巡)しざる(遠) 【同訓異義】のがる 遁・逃・避等の用法は一〇三四頁の逃を見よ。
 【遁世】^{トンセイ} 世を見捨て、世を遁れる。
 【遁甲】^{トンカウ} 忍術の類にて巧みに人目をくらまし身をかくして吉を取り凶を避けるといふ術。
 【遁走】^{トンソウ} にげだす、のがれはしる。
 【遁辭】^{トンジ} いひぬけ、言ひのがれ。
遂 ^{ズイ} 漢ズイ ①つひにとぐ、しとげる、かなふ、をへる ②そだつ、生育 ③すすむ(進)ひきあげ用ゐる、前へ出る ④のび／＼したるさま ⑤ためらふ、ぐづぐづする ⑥もつげらにす(專) ⑦周代の田制に於ける小溝の稱 ⑧周代の行政區劃の名(王畿から百里以外の地)
 【同訓異義】つひに 「の意。
 【卒】はしまひに、或事をなし終りた
 【畢】は十が十まで皆な盡きすむ意。
 【終】は始の反對で時の終りを示す意
 【竟】はつまり、畢竟の意。
 【訖】は事の終りたることゝの意。
 【遂】は事をしとぐる意。

【遂古】スキコ おほむかし、上古。
 【遂行】スキカウ なしとげる。
 未遂 スキ 茂遂 スキ 生遂 セイ 成遂 セイ
 既遂 スキ 名遂 ナツ 事遂 トコ 功遂 トコ
 漢 グ 吳 ゴ

遇

【遇】(逢)ぶつかる、てくはす、たま
 くあふ(時)めく、時世にかなふ、又
 それ等のこと(も)もてなす、もてなし、
 取扱ふ(たま)偶(受)動の助動詞、
 らる(被)

【同訓異義】あふ
 【値】は逢に同じ。「よく合ふの意」
 【合】はびつたりと符を合せたる如く
 【晤】は而晤の意。
 【會】は總べてあつまる義。
 【逢】は兩方より行き逢ふの意。
 【遇】は期せずしてあふの意。
 【遭】は逢に同じ。「用せられる」
 【遇合】(ラ)ガフ 賢明なる君主に知られて舉
 恩遇 (ラ)オン 冷遇 (レ)イ 知遇 (ラ)イ 禮遇 (レ)イ
 殊遇 (ラ)シユ 寵遇 (ラ)ウ 遭遇 (ラ)ウ 親遇 (ラ)ウ
 會遇 (ラ)ウ 値遇 (ラ)ウ 厚遇 (ラ)ウ 善遇 (ラ)ウ
 接遇 (ラ)ウ 客遇 (ラ)ウ 崇遇 (ラ)ウ 待遇 (ラ)ウ

遊

【遊】(遊)あそぶ、たのしみ
 吳 ユ 漢 イウ 遊(遊)字

【遊】(遊)あそぶ、たのしみ
 無職で居る、ひまで居る、友として
 交る、所屬なく離れちる(あ)そばす、た
 のしみます(あ)そび、ながさみ、ひま(自
 説)を説きまはる、遊説(あ)もだち、朋友
 (あ)び(旅)遊と通じて用ゐる(今は
 遊はあ)よぐのみに用ふ)
 【遊人】(イ)ウジン 旅行者、あそびて、又は賭
 博を業とする人、あそびにん。
 【遊山】(イ)ウサン 山に出てあそぶこと、や
 まあそび(あ)そび(あ)そび(あ)そび、行樂。
 【遊子】(イ)ウシ たびと、旅客。
 【遊(遊)】(イ)ウク 遊獵に同じ(軍)總が或目
 的をもつて海上に徘徊すること。
 【遊民】(イ)ウミン 職業もなく遊びくらす人。
 【遊兵】(イ)ウヘイ 所屬部隊を定めず隨時隨所
 に適宜に救援せしめる爲に備へた兵。
 【遊君】(イ)ウケン うかれめ、遊女、女郎。
 【遊里】(イ)ウリ いろざと、遊郭。
 【遊歩】(イ)ウホ ぶらつく、そゞろ歩き(あ)そ
 ぶ(あ)そび(あ)そび(あ)そび、遊歩(あ)そび(あ)そび(あ)そび、
 或る物事の道に踏入る。「ざる金」
 【遊金】(イ)ウケン あそび(あ)そび(あ)そび(あ)そび、遊金(あ)そび(あ)そび(あ)そび、

【遊牧】(イ)ウボク 一定の住所なく水草を逐ひ
 牧畜を業として暮すこと。
 【遊俠】(イ)ウケフ 弱きものを助けるたるめに
 は一身をも忘れて國法など更に恐れぬ
 行爲をなすこと、を(と)こだて、又其人。
 【遊星】(イ)ウセイ 太陽の周圍を運行する星。
 【遊食】(イ)ウシヨク 職業なく遊びくらすこと
 【遊船】(イ)ウセン 遊山船、又船に乗つて遊ぶ。
 【遊宴】(イ)ウエン 酒盛りなどして遊び樂しむ
 【遊惰】(イ)ウダ なまけあそぶ。「とも書く」
 【遊郭】(イ)ウクワク 遊里に同じ(俗)俗に遊廓
 【遊意】(イ)ウイ 遊里に同じ(俗)俗に遊廓
 事に心を傾けること。
 【遊説】(イ)ウゼイ 一般民衆に自説を述べ是非
 利害をさとす(俗)俗に遊廓
 【遊學】(イ)ウガク 他郷に出て學問すること。
 【遊蕩】(イ)ウダウ 酒色におぼれる、だらうら。く。
 【遊歴】(イ)ウレキ 各地を巡りあるく。
 【遊離】(イ)ウリ 單體が他と化合せず存在
 する、又化合物が單體になる。
 【遊興】(イ)ウキョウ 酒宴などを開きて樂む(あ)そ
 【遊撃】(イ)ウゲキ 遊軍にて敵をう(あ)そび(あ)そび(あ)そび、
 【遊球】(イ)ウキウ 野球のシヨートストツプ、短選手。
 【遊戯】(イ)ウギ いたはむれ、あそび(あ)そび(あ)そび、
 れる(あ)そび(あ)そび(あ)そび、遊戯(あ)そび(あ)そび(あ)そび、

【遊藝】(イ)ウゲイ 藝術により一時心を樂ま
 しめること(あ)そび(あ)そび(あ)そび、遊藝(あ)そび(あ)そび(あ)そび、
 耳目を樂ませるわざ。
 【遊獵】(イ)ウリョウ 諸所を歩いて獵をする。
 【遊覽】(イ)ウラン あそびながめる、遊觀。
 【遊醴】(イ)ウレン 遊宴に同じ。
 【遊治郎】(イ)ウヂラウ 酒色におぼれる男。
 【遊撃隊】(イ)ウゲキタイ 部屬を定めずして臨機
 應變に味方を助けて敵を撃つ兵隊。
 優遊 (イ)ウウ 盤遊 (イ)バン 來遊 (イ)ライ 末遊 (イ)マツ
 交遊 (イ)カウ 佚遊 (イ)イツ 漫遊 (イ)マン 歡遊 (イ)カン
 出遊 (イ)シュツ 夜遊 (イ)ヤウ 同遊 (イ)ドウ 好遊 (イ)コウ
 客遊 (イ)カク 俗遊 (イ)ソク 山遊 (イ)サン 賓遊 (イ)ヒン
 群遊 (イ)グン 貧遊 (イ)ヒン 久遊 (イ)ク 舟遊 (イ)フネ
 漢 ウン 吳 オン (あ)そび(あ)そび(あ)そび、
 運(回)めぐる、回轉させる、又工
 夫する、はたらかす(あ)そび(あ)そび(あ)そび、
 (移)めぐる(あ)そび(あ)そび(あ)そび、
 土地の南北の稱(東西を廣といふ)
 【同訓異義】めぐる 運・繞・過其他の用
 法は八一五頁の繞を見よ。
 【運上】(ウン)ジョウ 徳川時代の各種の租税を
 いふ又單に船税。
 【運用】(ウン)ヨウ はたらかせ用ゐる。

【運行】(ウン)カウ めぐり行く。「凶禍福、運氣」
 【運命】(ウン)メイ 人の身の上をめぐり來る吉
 【運河】(ウン)カ 水運の便に供するために人
 工を以てきりひらきし河川。
 【運送】(ウン)ソウ 品物を運びおくること。
 【運座】(ウン)ザ 多人數が集まりて俳句を作
 り互に優劣の點をつける寄あひ。
 【運針】(ウン)シン 針のはこび、裁縫のしかた。
 【運動】(ウン)ドウ (あ)そび(あ)そび(あ)そび、
 養生のために體操散步等をする事
 (あ)そび(あ)そび(あ)そび、
 力によつて動く状態。
 【運筆】(ウン)ヒツ ふてづかひ。
 【運氣】(ウン)キ 運命に同じ。
 【運搬】(ウン)バン 運送に同じ。
 【運勢】(ウン)セイ まはりあはせ、運命の勢ひ。
 【運賃】(ウン)チン 運送人の受ける報酬。
 【運漕】(ウン)ソウ 船にて貨物をはこぶ。「用」
 【運算】(ウン)サン 數學にて所要の答を出す算
 【運輸】(ウン)シュ 運送に同じ。
 【運天儀】(ウン)テンギ 天
 體にかたどりて星
 の運行等を見るた
 めの器械。
 【運命論】(ウン)メイロン 治亂・吉凶・禍福等は
 皆自然の運により豫め定まつてゐるも



(儀)天運

遍

【遍】(遍)あまねし、遍・周。
 【同訓異義】あまねし 遍・周。
 徧其他の用法は一九五頁の
 周を見よ。
 【遍羅】(ヘ)ラ 硬鱗類の魚で體は
 側扁にして橢圓狀をなし鱗
 は滑かである。
 【過】(ク)ア 漢 吳 (あ)そび(あ)そび(あ)そび、
 超える、まさる(あ)そび(あ)そび(あ)そび、
 又すぎたること(あ)そび(あ)そび(あ)そび、



(羅)遍

過失、つみ、とが(一)あやまる、あやまつ(二)せむ、とがむ(三)とほる(通)へる(經)通過する(ト)たちきる、よぎる(ヲ)すぎさりし時、過去

【同訓異義】あやまる 過・誤・謬其他の用法は九六四頁の誤を見よ。

【過大】クワダイ おほきすぎる、大に過ぎる。

【過分】クワブン ①身分にすぎたること、過當 ②十分に満足であること。

【過口】クワグチ さきのひ、義日。「ぬ前の世。」

【過去】クワコ ①すぎ去りし時 ②未だ生れぬ時 ③あやまち、失策 ④民法に於ては過失を輕過失と重過失に分つ即ち普通人の加ふべき注意を爲さない事を輕過失と謂ひ善良な管理者の注意を爲すべき者が其注意を爲さない事を重過失と謂ふ ⑤刑法上過失は特別の場合に故意と同じく犯罪成立の一要素となる

【過半】クワハン 半分以上の意。

【過多】クワタ ①おほ過ぎる ②分に過ぎる

【過言】クワゴン いひすぎし、失言。

【過重】クワチュウ おもきにすぎること。

【過意】クワイ てぬかり、怠り、あやまち。

【過食】クワシヨク くひすぎ、たべすぎる。

【過度】クワド ①程度をこへる ②渡し場、わたり ③文章のすぢのうつりかはる所。

【過客】クワカク たびごと、通行する人。

【過般】クワハン さきごろ、このほど。

【過料】クワリウ 私法上に於ける公益的規定履行の爲めに違反者に加へる制裁にて一種の科罰であるが刑罰ではない。

【過敏】クワビン 感じがはげしい、神経などが過度にすぎること。

【過剰】クワジヨウ のこり、あまり、餘分。

【過勞】クワラウ 心配しすぎる、心を使ひすぎ、はたらき過ぎる。

【過渡】クワド ①わたしば、渡船場 ②舊時代より新時代にうつりかはること。

【過程】クワチ 物事のうつり進む次第。

【過當】クワタウ ①身分にすぎること ②戦争に味方よりも敵が割合多く死傷すること。

【過稱】クワシヨウ ほめすぎる、過褒。

【過誤】クワゴ まちがひ、あやまち。

【過激】クワゲキ 激しきにすぎること。

【過不及】クワフキフ すぎること、及ばぬこと。

【過不足】クワフクフ あまること、足らぬこと。

【過去帳】クワコチャウ 死者の俗名・法名及死去の年月日等をしるしたる帳面。

【過半数】クワハンシュウ 全數の半分以上の數。

【過渡期】クワドキ 事物が舊より新に移らんとして過渡の状態にある時期を云ふ。

【過激派】クワゲキハ 舊來の制度法律等を不

合理となし急激に改革せんとする一派、又その者。

【過大資本】クワダイシベン 株式會社の出資財産をその實價以上に見積りて資本金額を定めたる場合等をいふ。

優過クワイ 行過クワイ 改過クワイ 大過クワイ 小過クワイ 經過クワイ 罪過クワイ 白過クワイ

【違】クワイ 漢クワウ ①いとま、心のゆつくりせること ②あわてる(皇)おちつかぬ貌、又ひまなき貌

【違急】クワイキツ あわて急ぐ。

【違違】クワイクワイ 落ちつかざる貌。

【道】クワイ 漢クワウ 慣用音ダウ ①みち、みちすぢ、守り行ふべき條理 ②學問・技藝・禮樂・刑政等 ③方法、しかた、やりかた ④老子の教、道教 ⑤したがふ(順) ⑥行政上の區別にして唐代には天下を分ちて十道とせし稱 ⑦一篇の文章 ⑧いふ(言) ⑨よる(由)したがふ(導)から、より(從)をさむ(治) ⑩みちびく(導)

【同訓異義】より 道・從・自其他の用法は八五七頁の自を見よ。

【道人】ダウジン ①佛法に歸依する人々 ②有道之士、又道教を信じて長生不老の術を研究するもの。

【道士】ダウシ ①方術之士、道教を奉じて長生不死の術などを研究する者 ②道を修めたる士、君子。「る、又その人。」

【道化】ダウカ おどけた所作で人を笑はせしむる術 ①佛道を信じ悟をひらく心 ②善惡是非を判斷して正理につき従ふ心 ③老年となりて佛道に入りたる人。

【道中】ダウチュウ ①たびぢ ②遊女の道ゆき

【道交】ダウカウ 徳義心を以て交はる。

【道途】ダウト 道筋、みち、道塗。

【道具】ダウグ ①うつは、器具、又からくり ②僧侶の用ゐる器物。

【道服】ダウフク ①道士の著る服 ②中古貴人が外出の時應よけとして纏ひたる上著

【道念】ダウネン ①善惡を判じて正善につく心 ②さとりを開く心。

【道俗】ダウソク 僧侶と普通の人。

【道破】ダウハ いひつくす、いひやぶる。

【道家】ダウカ 道教を信奉せる學者。

【道教】ダウケウ もと黄帝・老子・莊子等の教を祖述する一種の教説なりしが後には一の宗教となり長生不死の術又は諸種の咒術などを行ふに至る。

【道理】ダウリ ①わけ、すぢみち ②人として守り行ふべき道。

【道話】ダウワ 心學者の説く説、又その記録

【道術】ダウジュツ ①道徳と學術 ②道教の方術

【道傍】ダウバウ みちばた、路傍。

【道程】ダウチヨウ みちのり、里程。

【道場】ダウチャウ ①佛道又は道義を修業するところ ②武藝の稽古をするところ。

【道塗】ダウト ①みち、みちすぢ。

【道歌】ダウカ 道徳の意味を含めたる歌。

【道徳】ダウトク ①老子の説きし一流の道義 ②人として守り行ふべき正しき道。

【道樂】ダウラク ①自分の職業以外の物事にふけること ②酒色にふけりおぼれる。

【道學】ダウガク ①宋の程子・朱子等の唱へたる儒教の學派 ②一般に儒教の學問 ③道教の學問をいふ。

【道明寺】ダウメイジ 米を炊ぎて乾かしたるもの、ほしいひ。「ならしめる神。」

【道祖神】ダウソジン 道路を守り旅行を安全に修めたる先生 ①感情を無視して事理に通ぜぬ者を嘲りて云ふ語。

【道聽塗説】ダウテイトセツ 道で聽いたことを直ぐ塗で話すほど淺薄なる人のこと。

人道ダウ 入道ニウ 上道ダウ 大道ダウ

山道ダウ 中道ダウ 孔道ダウ 王道ダウ
正道ダウ 左道ダウ 食道ダウ 神道ダウ
常道ダウ 古道ダウ 善道ダウ 直道ダウ
枉道ダウ 得道ダウ 馳道ダウ 問道ダウ
軌道ダウ 市道ダウ 樞道ダウ 祖道ダウ
黃道ダウ 赤道ダウ 轉道ダウ 運道ダウ
清道ダウ 御道ダウ 遠道ダウ 行道ダウ
父道ダウ 母道ダウ 陽道ダウ 達道ダウ
傳道ダウ 無道ダウ 斯道ダウ 交道ダウ
君道ダウ 孝道ダウ 遊道ダウ 帝道ダウ
故道ダウ 聖道ダウ 嘉道ダウ 誠道ダウ
政道ダウ 師道ダウ 佛道ダウ 雅道ダウ
法道ダウ 街道ダウ 教道ダウ 唱道ダウ

【達】ダツ 漢タツ ①いたる(著)およぶ(及) ②おくりつける、とどける(届) ③とほる(通) ④行きわたる(とほす、心の通りにする) ⑤世に知られる、あらはれる、さかえる ⑥人を擧用す ⑦さとの(覺)物事によく馴れる、又そのこと ⑧わがま、ほしいま、人員の複數を示すことば、だち、ら、ども ⑨官より申しわたす、又そのこと

【達人】ダツジン ①ひろく道理に精通せる人

【其藝術に精熟したる人。】
 【達見】タツケン 見識の高きこと、道理を十分にさとりたるかんがへ。
 【達材】タツサイ すぐれたる才能。
 【達孝】タツカウ 一般を通じてそれと認めらるゝ行、又その行ひある人。
 【達者】タツシャ ①廣く事理に達せし人 ②自由自在なること、又壯健であること。
 【達筆】タツヒツ 文字・繪畫・文章等を上手に書くこと、又その人。
 【達意】タツイ 意見を十分に述べること。
 【達識】タツシキ 事理をよく知りつくすこと。
 【達辯】タツベン 辯舌にたくみなること。
 【達觀】タツクワン ひろく見たす、見とほすこと。
 【達摩】タルマ ①佛教にて一切の法のこと ②天竺の僧にして支那に禪宗を創立せし人 ③達磨に象つた玩具 ④賣春婦 ⑤達摩と書くは誤り。
 曠達クワツツ 推達スツク 練達レンダツン 開達クワン
 任達ニンダツン 放達ハツツ 早達サウツツ 晩達バンダツン
 榮達エイダツン 敏達ミンダツン 高達カウツツ 閑達クワン
 口達クコウツツ 博達ハツツ 明達メイダツン 上達ジョウツツ
 燥達サウツツ 疏達ソウツツ 英達エイダツン 熱達ネツツ



(磨 達)

【違】
 倭達レユン 導達ダウツツ 超達テウツツ 顯達ケンツツ
 貫達クワンツツ 識達シキツツ 稱達ショウツツ 調達テウツツ
 朗達ラウツツ 通達ツウツツ 密達ミツツ 潤達ジュンツツ
 漢吳 ①ちがふ、もたがふ、もとの(悖)そむく(叛)②さる(去)さける(避)にげる(逃)遠ざかる、離れる③ちがひ、差異④よこしま(邪)
 【同訓異義】さる 違・去・距其他の用法は一七五頁の去を見よ。
 【同訓異義】たがふ 違・差・爽其他の用法は三三五頁の差を見よ。
 【違反】カハン 法律・規定・約束等にそむくこと。
 【違犯】カハン 法を犯したがふ。
 【違式】カシキ 一定の法式に違ふこと。
 【違言】カケン ①いひあひ、意見の反する言 ②道理に背きたる言 ③の病にいふ語
 【違例】カレイ ①従來の慣例に違ふ ②貴人規則又は法律にそむくこと
 【違法】カハフ 約束にそむく、食言。
 【違約】カヤク 違反に同じ。
 【違背】カハイ 違反に同じ。
 【違救】カチョウ 天子のおほせにそむく、違勅
 【違算】カサン 見込ちがひ、勘定ちがひ。
 【違憲】カケン ①國法に背く ②憲法に背く
 【違警罪】カケイザイ 輕き犯罪にて拘留又は

料りに當るもの。
 非違ヒ 乖違カライ 相違サウ 遁違トレ
 漢 ヒョク 吳 ヒキ
 【逼】
 慣用音 フク ヒツ
 【逼】はくど讀むは誤り①ちかづく、せまる、をかす(侵)②痛切なる感と與へる③強いて行はしめる、無理に勤める④つまる、おしつまる、手づまる、土地などがせままる
 【同訓異義】せまる
 【覺】は一所におしよする義。
 【薄】は迫に同じ。
 【迫】は急に追ひつめ攻めつめる意。
 【逼】は間近くつめ寄する義。
 【逼迫】ヒツパク ①さしせまる、切迫す ②きびしく催促す ③金融が切迫する。
 【逼塞】ヒツソク ①せまり塞がる ②落ぶれて世間へ出られぬ ③徳川時代武士に加へた刑罰の一にして門をとざして白晝の出入を禁じたること。
 【道】
 漢吳 ①うかゞふ(偵) ②國訓さすが(流石) ③テイ
 【逾】
 漢吳 ①こす、こる(過)わたる(渡)②ます、いよいる(逾)ユツツ 他日にまたがる。「上(愈)」

【遑月】ユヅツ 月をこえる。
 【遑】
 漢 アツ ①とどむ、やむ(止) ②とどめる ③とどまる、停止す
 【同訓異義】とどまる 遑・止・留其他の用法は五六頁の止を見よ。
 【遑止】アツレ 防ぎ止める。
 斷遑ダンツツ 抑遑ヨツツ 防遑フウツツ 禁遑キンツツ
 止遑チツツ 遮遑セツツ 鎮遑チンツツ 靜遑セイツツ
 漢カ ①とほし(遠)はるか ②ケ(遙)③焉んぞ、なんぞ
 【遐登】カトウ はるかにのぼる。
 【遐年】カネン ながいき、長命。
 【遐域】カキキ とほく離れた土地、又外國。
 【遐陬】カスウ とほき田舎、僻地。
 【遐福】カフク 廣遠なる幸福。
 【遐適】カジ 遠き所と近き所。
 【遑】
 漢 シツ ①讀む ②讀むは ③かたし(固)④あつまる(聚)⑤つく(盡)⑥つよし(勁)
 【遑逸】シウイツ 文筆の力のつよくすぐれた
 【遑勁】シウキイ 書畫の筆意又は文章の筆勢などに力のこもれること ①讀む ②讀むは誤り。
 【遑麗】シウレイ 書畫文章などの筆つかひの

【遑】
 漢吳 ①はるか、遠くへだる ②さまよふ、ぶらぶら歩く ③はるかに ④國訓かけはなれて、より以上に
 【遙曳】ユウエイ 長く垂れる、はるかにひく。
 【遙昔】ユウセキ 遠きむかし。
 【遙拜】ユウハイ 遙にをがむ、遠方より拜す。
 【遙望】ユウバウ はるかにのぞみ見る。
 【遙遙】ユウユウ 遠くへだるさま。
 【遙然】ユウゼン 前に同じ。
 【遙碧】ユウヘキ はるかなる青空。
 【遑】
 漢吳 ①にげる、のがる(遁) ②ゆづる(讓)③へりくだる(謙)④したがつふ(順)つよし(敬)
 【遜位】ソンキ 位をゆづる。「とりがする」
 【遜讓】ソンジヤウ へりくだりゆづる。
 【遜】
 漢 テイ ①かはるがはる、たがひに ②交互にす、

かたみになす④次へくと傳へ送る、又其車馬・人夫等⑤つぎば、しゆくば
 【同訓異義】かはる 遑・化・變其他の用法は九八〇頁の變を見よ。
 【遞次】テイジ しだいに、順次、順番。
 【遞加】テイカ 次第に増し加ふ。
 【遞相】テイシャウ 遞信大臣の別稱。
 【遞送】テイソウ ①つぎおくり、順々にとりつき送る ②しゆくつぎにて送る。
 【遞信】テイシン 通信を順次に送達すること
 【遞減】テイケン 次第にへらして少くする。
 【遞信省】テイシンセウ 郵便・電信・商船等に關する政務をつかさどる中央官廳。
 【遠】
 漢 エン ①とほし、おくぶかい、時間又は距離が長い、親しくない、うとい、かけはなれる、又それらのこと ②とほく、ながく ③おひのける、とほざける ④とほざかる、とほのく、はなれる
 【遠大】エンダイ こゝろざしの大なる貌。
 【遠方】エンバウ はるかかなた、とほき所。
 【遠由】エンユウ 古いいはれ、又とほい原因。
 【遠因】エンイン 間接の原因。
 【遠行】エンカウ 遠くへ出かける、遠征。
 【遠足】エンソク 運動の爲遠方へ出かける。

【遠志】エンシ ①遠大なる志を持つ。②遠大なる精神。③草の名、ひめはぎ。
 【遠近】エンキン 遠方と近所、をちこち。
 【遠來】エンライ 遠方より来る。
 【遠征】エンセイ 遠國を征め討つこと。
 【遠泳】エンエイ 遠く泳ぐこと。
 【遠郊】エンカウ 都から遠ざかつた田舎。
 【遠祖】エンソ とほきせんぞ。
 【遠流】エンリウ 遠方の島にながす。
 【遠島】エンタウ ①遠く離れた孤島。②徳川時代伊豆・薩摩の七島。肥後の天草・佐渡・壹岐・隱岐等に島流しにした刑。
 【遠航】エンカウ 遠洋航海に同じ。「する」。
 【遠乗】エンジャウ とほのり、乗馬にて遠出。
 【遠國】エンゴク 遠方にある國。
 【遠望】エンバウ 遠く見わたす、望遠。
 【遠戚】エンセキ 縁の遠き血族。
 【遠逝】エンセイ ①遠方に立去る。②死ぬこと。
 【遠略】エンリョク ①おくぶかき謀計。②遠方の土地を攻略する計略。
 【遠域】エンキキ とほく離れし土地。
 【遠隔】エンカク 遠くへたゝる。
 【遠路】エンロ 長い道中、遠い路。
 【遠雷】エンライ 遠方にて鳴る雷。
 【遠圖】エント 遠大なるはかりごと。
 【遠境】エンキキウ 遠域に同じ。

【遠慮】エンリョ ①將來の事を考へる、又深きかんがへ。②みえを飾つてひかへめにす、又弔意若しくは同情等を表す意味にて或事をさしひかへる。③徳川時代の武士の刑罰にして過寒の輕きもの。
 【遠謀】エンボウ 將來のはかりごと。
 【遠譚】エンタン 次に同じ。
 【遠竄】エンサン ①遠くの離れ島に島流しにする。②遠方へ逃げかくれる。
 【遠心力】エンシンリキョク 回轉する物體が其中心より遠ざからんとする力。
 【遠日點】エンジツテン 地球が其軌道を運行しつゝ太陽に最もとほく離れし時の位置。
 【遠近法】エンキンハフ 遠近の位置を畫上にあらはし看る者をして眼界のひろきを覺知せしめる畫法。
 【遠交近攻】エンリウキンコウ 一種の國策にして遠國と交り近國を攻める。
 【遠洋航海】エンヤウカウカイ 陸地を離れた遠くの大洋を船でわたること。
 奥遠アウエン 險遠ケンエン 明遠メイエン
 博遠ハクエン 荒遠カウエン 邊遠ヘンエン 沈遠シンエン
 英遠エイエン 隔遠カクエン 敬遠ケイエン 疎遠ソエン
 放遠ハウエン 幽遠ユウエン 遼遠リョウエン 永遠エイエン
 玄遠ケンエン 弘遠コウエン 潤遠ジュンエン 廣遠クワンエン
 久遠クウエン 長遠チャウエン 修遠シュエン 鄙遠ヒョウエン

【遣】ケン 漢吳 ①やる、はくる(送)おふ(送)離縁する、はらす(晴)もらす(漏)②つかはす、やる、さし立てる③しむ(使、令)せしむ④葬式の時君主より物を下賜せられること⑤國訓つかはす(與へる、してやる)つかふ【同訓異義】しむ 遣・令・使其他の用法は六二頁の令を見よ。
 【遣外】ケングワイ 人を外國に派遣すること
 【遣悶】ケンモン 氣をはらす、うさはらし。
 【遣情】ケンジヤウ こゝろをやる、氣ばらし。
 【遣唐使】ケンタウシ 王朝時代に我朝廷より唐朝へ遣はされし使者。
 斥遣セツケン 休遣キウケン 放遣ハウケン 派遣ヘンケン
 原遣ゲンケン 消遣セウケン 殷遣インケン 從遣ジュウケン
 發遣ハツケン 勞遣ラウケン 裝遣サウケン 罷遣ヘイケン
 【遣風】センフウ ソフウ むかひかせ。
 【遯源】ソゲン ソゲン 水源にさかのぼる。

十一畫

適

【適】テキ 漢セキ テキタク 吳チヤク シヤク 慣用音 テキ
 ①ゆく(行)おもむく(赴)いたる(至)歸す、とつぐ(嫁)②あてはまる、かなふ又自得する、任意③まさに、たま〜つねに(恒)④わづかに、たゞ⑤あとより、よつぎ(嫡)⑥もつぱら(專)其事に熱中す⑦驚く貌⑧せむ(適)
 【同訓異義】 たまたま 適・偶・會等の用法は九二頁の偶を見よ。
 【同訓異義】 まさに 適・正・政其他の用法は五五六頁の正を見よ。
 【同訓異義】 ゆく 適・之・往其他の用法は三六八頁の往を見よ。
 【適中】テキチュウ うまく中る、的中。
 【適切】テキセツ かなふ、よくあてはまる。
 【適合】テキガフ きちんとよくあてはまる。
 【適役】テキヤク 適當した役目、はまりやく。
 【適用】テキヨウ よくあてはめて用ゐると、法規を特定の場合に應用する【同訓異義】と書くは誤り。
 【適否】テキヒ あふとあはぬ。「まりやく」。
 【適任】テキニン 任務によく適當すると、は【適例】テキレイ よくかなひたる例。

【適法】テキハフ 法則によく適合すること。
 【適宜】テキギ ほどよし、宜しきにかなふ
 【適度】テキド 都合よく程にあふ。
 【適從】テキジュウ 身を落付けること。
 【適評】テキヒヤウ よくあてはまる批評。
 【適意】テキイ 心の通りになる、隨意。
 【適量】テキリヤウ ほどよき分量。
 【適當】テキタウ ほどよくあてはまる。
 【適應】テキオウ 其場合又は境遇によく適ふ
 【適歸】テキキ 身をおちつける、従ひよる。
 【適齡】テキレイ 規定の年齢。
 【適者生存】テキシャセイゾン 生物の形態・構造・習性等が周囲の境遇に最もよくかなふものは生存繁榮し之に反するものは遂に絶滅することの意。
 殷適インテキ 嗣適スイテキ 大適ダイテキ 順適ジュンテキ
 自適ジテキ 戲適キテキ 間適カンテキ 曠適クワンテキ
 和適ワテキ 均適クンテキ 佳適カテキ 妙適ミョウテキ
 觀適クワンテキ 快適クワイテキ 酣適カンテキ 清適セイテキ

遭

【遭】サウ 漢ソウ ①あふ(遇)②めぐらる③回数をあらはす語、たび(次)【同訓異義】 あふ 遭・遇・逢其他の用法は一〇四二頁の遇を見よ。
 【遭遇】サウウ 出合ふ、ぐはす。

遮

【遮】セ 漢シヤ ①とどめる、さへ(だつ(隔)たちふさがる)②この、これ(俗語の道に通ず)
 【遮回】セカウ 這回、このたび。
 【遮絶】セツツ さへぎりへだつ。
 【遮簡】セカン これ、このもの。
 【遮斷】セタン せきとめる、くひとめる。
 【遮莫】セモク よしや、そんなら、どうあらうと、まゝよ。

遲

【遲】チ 漢チ 吳ヂ ①おそし、にぶい(鈍)のろい②おそくなる、おくれる、又ゆるくす③ころほひ、ころ、其時④まつ(待)⑤そこで、すなはち【同訓異義】 まつ 遲・俟其他の用法は三六九頁の待を見よ。
 【遲久】チキウ ながく續くこと。
 【遲引】チイン ながびく、おくれる。
 【遲延】チエン 前に同じ。
 【遲日】チジツ 春の日、ひなが。
 【遲回】チクワイ ぶらつく、さまよふ、徘徊。
 【遲明】チメイ よあけ、黎明。

【遷】チヨク 規定の刻限におくれる。

【遷速】チヨク おそきとはやき。

【遷鈍】チヨク おろか、のろくしてにぶし。

【遷参】チヨク 定め時刻におくれる。

【遷著】チヨク 前に同じ。

【遷滞】チヨク 滞る、のびくになる。

【遷疑】チヨク ぐづぐづ、はきくせぬ。

【遷遅】チヨク ①のろきさま②ゆつたりと落つきてこせつかぬさま③のどかなるさま、日の長きさま。

【遷緩】チヨク のろし、おそし、ゆるし。

【遊】ガウ 漢ガウ あそぶ(遊) 吳ゴウ

【遊遊】ガウ ①あそぶ②活動するさま。

【遜】一〇四一頁の通を見よ。

【同訓異義】のがる 遜・逃・遁等の用法は一〇三四頁の通を見よ。

十二畫

【遷】ハツ 漢ハツ 俗字

【遷】ハツ 漢ハツ 俗字

【同訓異義】うつす 遷・徙・移等の用法は七五頁の通を見よ。

【遷化】センゲ ①人の死ぬこと②移り変わる

こと 僧侶の死ぬこと。

【遷延】センエン ①しりごみする、しりぞくこと②とどこぼる。

【遷幸】センカウ 天子が御座を御うつしにな

【遷客】センカク 罪を受けて他郷に流される

【遷宮】センクウ 神體をうつしまつる。

【遷座】センザ 神又は天子の御座を他へか

【遷御】センゴ 遷幸に同じ。「へ移す」

【遷請】センケウ しまながし、左遷。

【遷都】セント 都を他の地に移すこと。

【遷轉】センテン うつりかはる。

【遷】ハツ 漢ハツ 俗字

【同訓異義】したがふ 遷・徙・順其他の用法は一三三六頁の通を見よ。

【遷守】センシュ 遷奉に同じ。

【遷法】センポフ 法律規則等にしたがふ。

【遷奉】センポウ 服し守る。

【遷教】センケウ 教へにしたがふ。

【選】セン 漢セン 俗字

【選】セン 漢セン 俗字

【選】セン 漢セン 俗字

【選】セン 漢セン 俗字

えりとる②抜きえらびて任用す、又其者③しばらく(少時)④かぞふ(算)

【同訓異義】えらぶ 選・撰・擇其他の用法は四五〇頁の撰を見よ。「手の者」

【選手】センシュ えりぬき、又選抜された上

【選出】センシュツ えらび出す。

【選外】センガイ 選びにもれしもの。

【選良】センリヤウ ①物をえりぬく、又えりぬきのよき人②衆議院議員、代議士。

【選任】センニン 多数の中より選抜して其の職に就かしめる。「目、又其人」

【選者】センシャ 人物又は物事をえりぬく役

【選拔】センバツ えりぬく、選擇。

【選科】センカ 全學科中より特にえらびて學習する科目②撰科と書くは誤り。

【選歌】センカ 多くの歌の中よりよきものをえりぬく、又其歌。

【選擇】センタク えりとる、えらびだす②撰撰と書くは誤り。

【選舉】センギョ 多人數より適當の人物をえらびあげる、適任者を指定する②撰撰と書くは誤り。

【選鑽】センケン 鑽石をえりわける。

【選舉權】センギョケン 議員を選挙し得る權利

【選舉干渉】センギョカンセウ 政府の權力を以てその時の選舉に不法干渉をなして選舉

民の自由を拘束すること。

嘉選 セン 公選 セン 精選 セン 清選 セン

詳選 セン 少選 セン 簡選 セン 招選 セン

妙選 セン 察選 セン 徵選 セン 搜選 セン

當選 セン 別選 セン 拔選 セン 蒐選 セン

俊選 セン 殊選 セン 鄉選 セン 舉選 セン

漢吳 牛 慣用音 ユキ

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

【遺】ハツ 漢ハツ 俗字

定部 (十二畫) 遺

し新朝に仕へぬ者。

【遺老】キョウ ①生きのこれる老人②先帝の舊臣③亡國の舊臣。「前朝の臣」

【遺臣】キョウ 先代より仕へしけらい、又

【遺址】キョウ 昔ありし家又は城などの跡。

【遺利】キョウ 人がすておいて顧みぬ利益。

【遺忘】キョウ わすれる、忘却。

【遺志】キョウ 前人が果し得ずして残した志

【遺言】キョウ ①前人の残したる言②自己の死後財産其の他に付き或る効力を生ぜしめる爲めにする要式行爲。

【遺尿】キョウ いびたれ、ねせうべん。

【遺兒】キョウ ①父母に死別したる子供、わすれがたみ②すてご、棄兒。

【遺芳】キョウ 後世にのこる名譽、死後の譽

【遺物】キョウ かたみ、死者の残したる品。

【遺命】キョウ 死際に遺言して言附ける。

【遺恨】キョウ 忘れられぬうらみ。

【遺風】キョウ ①昔のなごり、餘風②速力のはやくき風③はやく奔る馬。

【遺香】キョウ うつり香、殘香。

【遺骨】キョウ 死せし人のほね。

【遺訓】キョウ 遺誡に同じ。

【遺烈】キョウ 前人の残せし壯なる事柄

【遺財】キョウ 死者の残し置きたる財産。

【遺脱】キョウ もれ、ぬけ、おち、遺漏。

【遺書】キョウ ①かきおき、遺言をかきし書②諸所に散りうせた書物③著述して後世にのこしたる書物。「るもの」

【遺俗】キョウ 昔の風俗で今日迄残つてゐ

【遺族】キョウ 主人に死なれて残れる家族

【遺產】キョウ 遺財に同じ。

【遺留】キョウ 残しとゞめる。

【遺著】キョウ 遺書の②に同じ。

【遺腹】キョウ 父の死後に於て生れし子。

【遺愛】キョウ ①古の情ある人のおもかげを有せる人②生前に愛したる品物にして後世にのこれるもの。

【遺業】キョウ 前人がのこした事業。

【遺傳】キョウ 祖先の體質が其子孫に傳はる

【遺棄】キョウ 人を置去り、又は棄てること。

【遺跡】キョウ ①昔事件のありし跡②残したる足跡、捨て、顧みぬことの喩③迹をのこす④昔の家や城のあと。

【遺誠】キョウ 後人にいましめの言葉のこす、又其ことば。「漏らす病氣」

【遺精】キョウ 睡眠中夢などを見て精液を

【遺漏】キョウ 遺脱に同じ。

【遺稿】キョウ 其人の生前に書残した詩文

【遺髮】キョウ かたみに残したかみの毛。

【遺德】キョウ ①前人の残した徳②もれた殘念に思ふ。「恵み」

【遺憾】キョウ 殘念に思ふ。「恵み」

【郊】

漢カウ ①みなか 郭外、さかひ(境) (周制にて國都を距ること五十里以内を近郊百里以内を遠郊といふ) ②町はづれ ③たんば、はら ④天地のまつり(支那にて冬至の時天子親ら南の郊外に至りて天を祭り夏至の時北の郊外に至りて地を祭りしこと) 又そのまつりを行ふこと

【郊外】カウグワイ 町續きの田舎、町はづれ。

【郊原】カウケン 平原の地、のはら。

【郊墟】カウキョ 田舎。

近郊カウ 四郊カウ 遠郊カウ 大郊カウ 農郊カウ 天郊カウ 荒郊カウ 芳郊カウ

【耶】 八三五頁の耶を見よ。

【郎】

漢吳 魯の地名 ①つかさ、役人、又官名(秦のとき宿衛を掌りしもの) 後に尙書を助けるものとなりてより侍郎といふ、我が國の次官に相當す ②をとこ(男) ③をつと、婦人が其夫を呼ぶ語 ④だんな、めしつかひが主人を呼ぶ語 ⑤男子の上

び名に添へて用ゐる語

【郎君】ラウケン ①わかさま、若旦那 ②新たに進士に及第せし者 ③婦が夫を呼ぶ語

【郎從】ラウジユウ 武家の家來、郎黨。

【郎等】ラウドウ 前に同じ。

【郎當】ラウタウ ①櫛を洗ふ具 ②疲れくたぶれた貌 ③衣服のゆつくりせる貌。

【郎黨】ラウタウ 郎從に同じ。

玉郎ラウヨク 漁郎ラウヨク 檀郎ラウタン 夜郎ラウヤ

女郎ラウヨウ 侍郎ラウジ 遊治郎ラウイウヤ

女郎ラウヨウ 漢ケン ①周以來の行政上の區劃の稱 ②國訓こほり(町村の上にある區劃の名)

【郡主】グンシュ 舊制にて諸王の女、唐にては太子の女、又明清にては親王の女。

【郡守】グンシユ 秦以來の官、一郡の太守。

【郡司】グンシ 郡内の政事を行ふつかさ。

【郡長】グンチャウ 郡制廢止前の郡の頭。

【郡制廢止】グンセイハイシ 廢藩置縣の後郡縣制度とし縣の下に郡を置きし制度。

【郡縣制度】グンケンシテイ 秦始皇帝に始りし制度、諸侯を廢し中央政府に於て天下の萬機を統一する政治。

【郤】 漢 エイ 誤り。地名(春秋時

代の楚國の都にして淫猥の風の盛なりし爲有名な所、今の湖北省江陵縣内)

【郤人】エイジン 卑俗な歌曲を巧みに歌ふ者

【郤曲】エイキョク ①はやりうた、いやしき音楽 ②今様歌の類。

【郤】 漢 ケキ ①人の姓 ②ひま(隙) 仲がよくない、不和、又すきま(間隙)

【部】

漢ホ 吳ブ ①くみぶわけ、分類 ②ぶわけを數へる語 ③やくしよ、つかさ ④すべる(統)

【部下】ブカ 配下、組下、てした。

【部分】ブブン ①わけ、くみ ②全體の一部。

【部局】ブキョク 事務を分ちたる其の各部。

【部門】ブモン 幾つかに分類した中の一つ

【部首】ブシュ 漢字の索引の頭字。「の類。

【部落】ブラク ①人家のあつまり、むらざと ②野蠻人の集る所。

【部署】ブショ ①わけ、てくばり、又そのと分類の種類。

【部類】ブルイ 分類の種類。

刑部ブルキ 工部ブルコウ 兵部ブルヘイ 禮部ブルレイ 戸部ブルコ 管部ブルイ 分部ブルン 郡部ブルン

【都人士】トジンシ みやこびと、都會人士。

【都府樓】トフロウ 節度府の高殿にして我國の古昔の太宰府に相當す。

京都キョウ 皇都クワウ 舊都キョウ 故都コト 大都タイ 帝都タイ 山都サン 首都シュ

【鄂】 漢吳 ①外部に見はれる貌 ②いひ争ふ貌 ③春秋時代の楚の地名(今の湖北省武昌縣内)

【鄂鄂】ガクガク 直言する貌。「稱せし語。

【鄂廣】ガクキョ 徳川時代露西亞人を譏つて

類を捕つて食する ④鷗の別名。

【都人士】トジンシ みやこびと、都會人士。

【都府樓】トフロウ 節度府の高殿にして我國の古昔の太宰府に相當す。

京都キョウ 皇都クワウ 舊都キョウ 故都コト 大都タイ 帝都タイ 山都サン 首都シュ

【鄂】 漢吳 ①外部に見はれる貌 ②いひ争ふ貌 ③春秋時代の楚の地名(今の湖北省武昌縣内)

【鄂鄂】ガクガク 直言する貌。「稱せし語。

【鄂廣】ガクキョ 徳川時代露西亞人を譏つて

類を捕つて食する ④鷗の別名。

【都人士】トジンシ みやこびと、都會人士。

【都府樓】トフロウ 節度府の高殿にして我國の古昔の太宰府に相當す。

京都キョウ 皇都クワウ 舊都キョウ 故都コト 大都タイ 帝都タイ 山都サン 首都シュ

【鄂】 漢吳 ①外部に見はれる貌 ②いひ争ふ貌 ③春秋時代の楚の地名(今の湖北省武昌縣内)

【鄂鄂】ガクガク 直言する貌。「稱せし語。

【鄂廣】ガクキョ 徳川時代露西亞人を譏つて

類を捕つて食する ④鷗の別名。

【都人士】トジンシ みやこびと、都會人士。

【都府樓】トフロウ 節度府の高殿にして我國の古昔の太宰府に相當す。

【郭】

漢吳 郭の外周を圍ふ壁、くるわ、そとぐるわ ②外まはり、かこひ、縁周 ③國訓くるわ(色里、遊里)

【郭公】クワクコウ ①かんこどり ②ほととぎす

【郵】

漢イウ ①傳達を呉ウ 取次ぐた

めに設置した飛脚の發着所、しゆくば、しゆくつぎ ②とがむ(尤) ③とが(罪過)

④政府にて營む文書物品の運送制度、又其文書物品の類

【郵券】イウケン 郵便切手、支那では郵票。

【郵便】イウピン 書信又は一定の物品を請取人に配達する官營事業、又其手紙類。

【郵送】イウソウ ①郵便にておくり届けること ②郵便にておくりとけること。

【郵書】イウシヨ 郵便にて送る手紙。

【郵稅】イウセイ 郵便物託送の手数料金。

【郵遞】イウタイ ①うまつぎば、しゆくば、郵便 ②九畫

【都】

漢ト ①宮城のみやこ(周制にては諸侯の一族及卿大夫の封邑をもいふ) ②みやこす、都を

稱で邑より大なるもの ②みやびやか(上品) ③嘆美の語、あゝをる(居) 其地位に居る ④すぶ(統) すべをさめる (治) すべて、ことごとく(悉)

【同訓異義】 すべて 都 凡 渾 其他の用法は六一一頁の渾を見よ。

【都下】トカ みやこのうち。

【都市】トシ 都會、まち。

【都匠】トシヤウ 治水の官の名 ④今俗に大工のかしら、棟梁などに用ふ。

【都門】トシモン 都の入口、又都のうち。

【都邑】トシイフ みやことみなか。

【都統】トシトウ すべをさめる。

【都城】トシヤウ ①都會にある城 ②城のあるまち、みやこ。「美はしきこと。

【都雅】トシヤ 姿又はふるまひの上品にして

【都會】トシエ 繁華なる都市、みやこ。

【都督】トシトク 統率す、すべたす、大將

【都鄙】トシヒ まちとみなか。

【都合】ツガフ ①總て、總計 ②やりくりする、工面して

【都鳥】トシトリ ①涉禽類の一種で背部は黒く腹部は純白、常に海や河邊に棲んで介類や蟲



置きて庶政を分掌せしめ天子と治道を議したる官田舎の老人、村の長老。

【郷里】^{キヤウリ} ①ふるさと、故郷②むらざと、郷邑③同郷の人。

【郷民】^{キヤウミン} 故郷の人々。

【郷邑】^{キヤウイフ} 村ごと、郷里。

【郷信】^{キヤウシン} くにもとのたより、家信。

【郷背】^{キヤウハイ} つくこと、去ること。

【郷俗】^{キヤウゾク} 故郷の風習、さとの習ひ。

【郷音】^{キヤウオン} くになまり、國言葉。

【郷校】^{キヤウカウ} 周制にて六箇村にある學校、轉じて田舎の學校。

【郷望】^{キヤウワウ} 郷里における人望。

【郷貫】^{キヤウクワン} 生國の戸籍、本籍、原籍。

【郷歌】^{キヤウカ} ふなかうた、ひなうた。

【郷國】^{キヤウコク} ふるさと、故郷。

【郷夢】^{キヤウム} 故郷のことを見る夢。

【郷閭】^{キヤウリョ} むらざと、田舎。「案内者」

【郷導】^{キヤウダウ} みちしるべ、あんない、又

【郷學】^{キヤウガク} ①郷校に同じ②學問に志す

【郷黨】^{キヤウタウ} ①むらざと②自分の生地

【郷關】^{キヤウクワン} くにもと、ふるさと、郷里

【郷塾】^{キヤウジュク} 田舎の學校、村里の學校。

【郷社】^{キヤウシャ} 社格が府縣社に次ぐ神社。

【郷先生】^{キヤウウセンシ} 老官吏の職を辭して郷里で教育をつかさどる者。

【郷夫子】^{キヤウフツシ} 村夫子、田舎の學校の先生。

【郷土藝術】^{キヤウドクイニユツ} 田園生活に取材してその地方色を發揮したる藝術。

【異郷】^{キヤウイ} 殊郷^{キヤウシュ} 故郷^{キヤウコウ} 舊郷^{キヤウキウ} 帝郷^{キヤウテイ} 思郷^{キヤウシ} 他郷^{キヤウタ} 遠郷^{キヤウエン} 寒郷^{キヤウカン} 水郷^{キヤウスイ} 醉郷^{キヤウスイ} 家郷^{キヤウカ} 白雲郷^{キヤウハクウン} 溫柔郷^{キヤウウ}

【鄙】^ヒ 漢吳 ①ひな、か田舎、又風俗などのひなびたること②いやしむ、みさげる、きたない、心がいやしい、又いやしとす③いやしい、いやしきもの④自分のことに冠していふ謙辭

【同訓異義】 ①いやし 鄙・卑賤其他の用法は九九八頁の賤を見よ。

【鄙人】^{ヒジン} ①ひななかももの②賤しき者。

【鄙夫】^{ヒフ} 利益を貪る人、心の卑しき人。

【鄙吝】^{ヒリン} 心のいやしい卑劣な人。

【鄙近】^{ヒキン} 卑しくあさはか、又俗なこと

【鄙俚】^{ヒリン} 言語風俗のいやしいこと。

【鄙心】^{ヒシン} いやしきこころ。

【鄙事】^{ヒジ} いやしき事、つまらぬ事業。

【鄙陋】^{ヒロウ} ①いやしい、見識學問などが

浅い①風俗がひなびて居る。

【鄙猥】^{ヒロイ} 卑しくしてみだらなり、猥褻

【鄙語】^{ヒゴ} 下世話、世俗のことば。

【鄙諺】^{ヒゲン} 前に同じ。

【鄙薄】^{ヒハク} ①見識などが淺はかでない②いやしい、いやしみかろんず。

【鄙懷】^{ヒクワイ} いやしきおもひ、自分の心。

【愚鄙】^{ヒグ} 微鄙^{ヒビ} 廉鄙^{ヒレン} 樸鄙^{ヒボク} 邊鄙^{ヒベン} 卑鄙^{ヒヒ} 郊鄙^{ヒカウ} 味鄙^{ヒマイ} 縣鄙^{ヒケン} 貪鄙^{ヒコン} 西鄙^{ヒセイ} 北鄙^{ヒホク}

【鄭】^{テイ} 漢 ①春秋國の名(今の河南省新鄭縣内の地)②隋末に王世充の建てたる國の名

【鄭重】^{テイチュウ} ①しばしば②しんせつ、ていねい③丁重と書くは誤り。

【鄭聲】^{テイセイ} 猥褻なる音樂、淫聲。

【鄆】^{タン} 漢吳 鄆郡は戰國時代の趙の都の名

【鄆】^{タン} 一一一〇頁の隣を見よ。

【鄆】^{タン} 漢 地名(三國の時魏の河南省臨漳縣内)

酉部

【酉】^ウ 漢 イウ ①みのるゆ(老)②あく(飽)③とり、十二支の第十位、季節にては仲秋、方角にては西方、時刻にては午後六時より八時迄に配當する④國訓ひよみのとり(漢字畫上左旁にある時の稱、とりへん)

【酉市】^{ウイチ} 毎年十一月中の酉の日大鷲神社で行ふ市、とりのみち、この日に繰起を祝ふ商家にては熊手を競ふて買ふ。

【酉】^ウ 漢 シウ ①ほこ、の矛②かしら、をさ、野蠻人などの部落のかしら③酒を司る長官④をはる(終)しとげる⑤まさる、すぐる

【酋長】^{シウチャウ} ①蠻人の長②盜賊等の長

【酋渠】^{シウキョ} 前に同じ。



酌部

【酌】^{シヤク} 漢 テイ ①ふ、大いに酒に

【酌】^{シヤク} 漢 シヤク 吳 サク ①さけ(酒)②くむ、酒をつぐ、しゃくをする、又酒を飲む、さかもり③水をしゃくふ、すくふ(掬)④みとる、彼此照合して取捨す

【同訓異義】 くむ 酌・波・斟其他の用法は五八一頁の波を見よ。

【酌婦】^{シヤクフ} 料理店にて酒の酌をする女

【酌量】^{シヤクリヤウ} 事情を察して適宜に手かぎんすること④酌量減刑。

佳酌^{シヤク} 抱酌^{シヤク} 清酌^{シヤク} 斟酌^{シヤク} 參酌^{シヤク} 品酌^{シヤク} 觥酌^{シヤク} 獨酌^{シヤク} 盃酌^{シヤク} 樽酌^{シヤク} 對酌^{シヤク} 晚酌^{シヤク}

【配】^{ハイ} 漢 ハイ ①ならぶ

【配】^{ハイ} 吳 ハイ ①(排)あふ

(合)つむになる、夫婦になる②ならべる、あはす、對にする③他の神佛を合はせ祀る④夫婦、つれあひ⑤わかつかばる、まくばる、わりあてる、諸方に及ぼす⑥ながす(流)鳥ながし、又それ等のこと⑦従へる、つける

【配下】^{ハイカ} した、部下、けらい。

【配分】^{ハイブン} くばりわかつかつ、分配。

【配布】^{ハイフ} くばる、くばりしく。

【配付】^{ハイフ} くばる、まくばる。

【配合】^{ハイガフ} ①彼と是とを取合せる②夫婦にする、めあはす。「又その兵士。

【配兵】^{ハイヘイ} 兵士を要所にくばりあてる

【配色】^{ハイシキ} いろどり、色のとり合せ。

【配所】^{ハイショ} 鳥ながしとなりし地。

【配流】^{ハイリウ} 配謫に同じ。

【配船】^{ハイセン} 汽船會社が其船舶を貨客の狀態によつて適當に配置すること。

【配島】^{ハイタウ} しまながし、流竄。

【配偶】^{ハイグウ} つれあひ、夫婦。

【配備】^{ハイビ} 手くばりして用意す。

【配當】^{ハイタウ} ①わりあてる、又わりまへ②出資者に利益を配當すること。

【配達】^{ハイタツ} 物品をくばりとける。

【配置】^{ハイチ} 必要に応じてくばりおく。

【配慮】^{ハイリ} 心づかひ、心をくばること。

【配耦】^{ハイグ} 配偶に同じ。「程よくす。

【配劑】^{ハイザイ} ①藥を調合す②つきまぜて

【配膳】^{ハイテン} 膳部を配ること。

【配謫】^{ハイタク} 鳥流しにする、配流。

【配偶者】^{ハイグウシャ} 法律上正式の婚姻を爲して夫婦となつた者双方をいふ故に夫

の配偶者は妻で妻の配偶者は夫。

【配當落】ハイタクオチ 銀行會社等にて株主に配當すべき利益なきこと。

【配當病者】ハイタクビヤウシヤ 財界の好況時代に輩出する無定見なる偽購的實業家。

【流配】ハイ 差配ハイ 匹配ハイ 分配ハイ

【酒】シユク 酒のきよめ、酒の勢ひ。

【酒力】シユク 酒のきよめ、酒の勢ひ。

【酒戸】シユク 酒を飲む分量。

【酒仙】シユセン 大酒を飲み世事に構はぬ人。

【酒色】シユシヨク ①さけと女 ②酒を飲みて其酔の顔色にあらはれること。

【酒肉】シユク ①さけと肉 ②酒を飲むこと。

【酒狂】シユキヤウ 酒に酔ひて心の亂れると。

【酒毒】シユドク 飲酒より起る毒、酒精中毒。

【酒肴】シユカウ ①さけと肴 ②飲み合ふ。

【酒杯】シユハイ ①さかづき ②慶事等に酒を飲む器。

【酒食】シユシヨク ①さけとめし ②酒と食物。

【酒保】シユホ ①さかやの雇人 ②酒を造る者。

【酒客】シユカク ①さけのみ、さけを好む人。

【酒席】シユセキ 酒を飲む座敷。

【酒氣】シユキ 酒の臭ひ、酒に酔ひし臭氣。

【酒船】シユセン 酒ぶね、もろみ酒を搾る桶。

【酒痕】シユコン ①さけのしみ。

【酒量】シユリヤウ 酒を飲む分量。

【酒尊】シユソン さかだる、酒樽。

【酒禁】シユキン 酒をたつ、飲酒を禁ず。

【酒肆】シユシ 酒を飲む店、酒場。

【酒暈】シユウン 酒を飲みて顔色が赤くなる。

【酒肆】シユシ さかや、酒店。

【酒旗】シユキ ①さかや ②酒屋の看板の旗。

【酒精】シユセイ 酒類の主成分をなす液體。

【酒標】シユヘウ 昔酒屋の軒下につるして看板にせしもの。

【酒樓】シユロウ お茶屋。

【料理屋】シユリヤウ お茶屋。

【酒興】シユキョウ 酒に酔ひし面白味、酒の味。

【酒槽】シユサウ 酒船に同じ。「上の駄み」。

【酒戦】シユセン 飲酒を競ふこと。

【酒錢】シユセン さかだ、さかて。

【酒癖】シユヘキ 酒の上の悪癖。

【酒亂】シユラン 酒狂に同じ。

【酒饌】シユセン 酒と食物。

【酒風漢】シユフウカン 酒に中毒せし中氣の人。

【酒精計】シユセイケイ ア ルコールを含む液に浮かしてその濃度を測る器械。



(標酒)



(計精酒)

【酒石酸】シユセキサン 澄明の結晶體にして水に溶け易く、酸味甚だ強き藥品。

【酒池肉林】シユチニクリン 豪遊を形容せし語。

【酒囊飯袋】シユナウバンタイ 無智無能にして遊食を事とする者を罵りし語。

【飲酒】シユイン 樽酒シユン 好酒シユウ

【醴酒】シユレイ 杯酒シユイ 鷓酒シユウ

【澄酒】シユテイ 美酒シユイ 別酒シユベツ

【荒酒】シユワウ 醜酒シユウ 珍酒シユン

【醇酒】シユジュン 中酒シユチュウ 祭酒シユサイ

【文酒】シユブン 濁酒シユダク 天酒シユテン

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】シユ 漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【酎】漢カン ①たけなは、酒宴の最中の時、又物事のさかり過ぎてまだ衰へぬ時、酒を飲み機嫌よき貌。風景がのび／＼して爽快なる貌。花の開き盛んなるさま。

【同訓異義】たけなは 酎・關等の用法は一〇九七頁の關を見よ。

【酎臥】カンゴウ 十分にねむる、熟睡。

【酎醉】カンスキ 甚しくゑふ、泥酔。

【酎嬉】カンキヤ 酒を十分に飲みて楽しむ。

【酎戰】カンスン 戦の眞盛り、又盛んに戦ふ。

【酎興】カンキョウ 酒を飲みて大いに楽しむ。

【酎縱】カシヨウ 酒に酔ひて態度が亂れる。

【酎醋】漢ソサク ①す、酸味。味がすい、すみ。②むくゆ、主人に返杯する(主人が客に返杯するを酬といふ)。

【同訓異義】むくゆ 酎・報・酬等の用法は二三七頁の報を見よ。

【酢醬草】サクシヤウサウ 草の名、かたばみ。

【酎】漢コ ①ひとよさげ、一夜づを賣る。②かふ(買)酒を買ふ。



(草醬酢)

【同訓異義】かふ 酎・沽・買其他の用法は九九三頁の買を見よ。

【酥】漢ソ 牛又羊の乳にて製した。吳スる食料、ミルクの類。

【奠】二六五頁の奠を見よ。

【酬】漢シウ 俗字。吳シウ。むくゆ、主人が客に杯をかへす、轉じて報ず、かへす、謝禮す、又手紙などで返事をする。②むくい、返事、かへす。

【同訓異義】むくゆ 酬・報・酢等の用法は二三七頁の報を見よ。

【酬和】シウワ 詩文などを作りて應答する。

【酬唱】シウシヤウ 互に詩詞を作り唱へる。

【酬答】シウタフ 酬和に同じ。

【酬酬】シウシウ 厚酬シウウ 勳酬シウウ 應酬シウウ

【醕】漢メイ ①ゑふ、酒に酔ふ。②吳ミヤウ あまざけ、甘酒、醴。

【醕酢】ノイタイ 甚しく酒にゑふ。

【醕漿】ラクシヤウ 乳を煮つめた飲料。

【醕酪】ラクソウ 牛羊の乳を精製したる食品。

【醕】漢ダンチン ①ふける、酒種の毒鳥(鳩に通ず)。

【醕】吳トンジン に溺れる。①一種の毒鳥(鳩に通ず)。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

【醕】漢チウ ①濃き酒、三度繰返してかもした醇酒。

酸

【酸】漢 吳 ①す、すい
の總稱②すし、すつばい③いたむ、かな
しむ(哀)④いたまし、つらい⑤酸素の略
【酸化】サンクワ 酸素と他物とが化合して別
種のものとなる作用。

【酸毒】サンクワ 人をむごく苦める。

【酸性】サンセイ 酸味を有し青色試験紙を赤
色に變じ鹽基と化合して鹽を造る等の

【酸素】サン 非金屬元素の一。「性質」。

【酸敗】サンバイ くるること。「性質」。

【酸寒】サンカン ①身にしみこたへる意②貧
乏にてつらきこと③みじめ、あはれ。

【酸痛】サンクワ かなしみいたむ。

【酸鼻】サンビ すすりなく、悲しみいたむ。

【酸漿】サンシヤウ 多年
生の草、ほろづき。

【酸類】サンルキ 硫酸・
硝酸・酒石酸など
の如く酸性あるも
の、總稱。

【酸模】スカンボ すいば
ともいふ、蓼科の
草にして莖と葉と
に酸味あり葉は食
用に供する。



(模 酸)

(漿 酸)

【酸化作用】サンクワヤウ 酸化に同じ。

【酸水素管】サンクワツツ
酸水素管を發生せし
むるに用ふる特別構
造の装置。

【酸素吸入】サンクワフ
病氣を治療する爲め
液體酸素をすひこむこと。

辛酸 芳酸 微酸 漆酸
悲酸 硫酸 梅酸 寒酸

【醜】漢 ト 吳 ツ ①にこりざけ
ろみざけ②もと、酒のもと

【醇】漢 カウ ①わく、酒の出来る
【醇母】カウ 酒のもと。



(管素水酸)

【醇化】ジュンクワ ①懇切なる教の感化②雜
駁なる知識を組織的に整へる、又感興
ある實體より藝術上無用の分子を去り
て本性を發揮すること。「らぬ」。

【醇朴】ジュンボク 人情あつくして表面を飾
【醇厚】ジュンコウ 人情風俗があつい。

【醇酒】ジュンシユ よきさけ、芳醇。

【醇醪】ジュンラウ よきにごり酒。

【醇謹】ジュンジン 善良にして謹みあること

【醇醴】ジュンレイ よき酒とあまざけ。

【醉】漢 吳

①ふふ、酒にふふ、舟車其他すべて物
にふふ、物事に心を奪はれる、まどふ
(惑)まよふ(迷)②ふはす、まよはす③
ふひ、まよひ

【醉人】スチジン 酒にふひし人、醉客。

【醉狂】スチキヤウ 酒にふひ狂ふ④ものずき

【醉臥】スチワ 酒に酔ひてねる。「れる」。

【醉倒】スチタウ 酔ひ潰れる、酒にふひて倒

【醉眼】スチガン 酒にふひし時の目付。

【醉態】スチタイ 酒に酔ひたる貌。

【醉飽】スチハウ 充分に酒にふひ食にあきる

【醉歌】スチカ 酒にふひて詩歌をうたふ。

【醉漢】スチカン 醉人に同じ。「なき貌」。

【醉夢】スチム 酔ひてゆめみる、たわいも

【醉罵】スチバ 酒の勢にてのゝしること。
【醉類】スチルキ 酒にふひし時のかほつき。
【醉生夢死】スチセイムシ 何の爲すところもな
くして徒らに一を生を送る。

【醜】漢 ラン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 オン ①ほしがき②桃の
す(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

【醜】漢 エン アン ①醜につける
(醜)又其漬

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醜】漢 テ 醜醜は①牛酪
の②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、
すみたる酒④すぐれたる人物

【醃】 漢吳 ①しゝびしほ(乾肉をカキ ぎざみて麴・鹽・酒等に漬けしもの)今のしほからの類。②刑罰として人體を鹽づけにせしもの又それ等のこと。③にる(烹)

十一畫

【醫】 漢吳 ①但医は別字なるも我國にては一般に俗字として用ひらる。②病氣を治療する學問技術

【醫】 漢吳 ①但医は別字なるも我國にては一般に俗字として用ひらる。②病氣を治療する學問技術

【同訓異義】 いゆる 醫・痊・愈其他の用法は六九九頁の痊を見よ。

【醫方】 漢 醫術に同じ。
 【醫伯】 漢 醫者の美稱。
 【醫院】 漢 病氣を治療する所。
 【醫界】 漢 醫者のなにか。
 【醫師】 漢 ①周代の官名にして醫者の長。②人の疾病を診断治療を業とする者。
 【醫術】 漢 病氣を治療する法。
 【醫藥】 漢 醫術にてなほすこと。
 【醫藥】 漢 醫術と藥品。「ふ機械」
 【醫療機械】 漢 病者の治療用につか
 高醫 大醫 疾醫 獸醫

【醬】 漢 ①豆・米などをねかして鹽をまぜたる食料。②みそ。③したち



(蝦 醬)

【醬】 漢 ①豆・米などをねかして鹽をまぜたる食料。②みそ。③したち

【醃】 漢 ①す、すつばい(酸)

【醃】 漢 ①す、すつばい(酸)

【醃】 漢 ①す、すつばい(酸)

【醃】 漢 ①す、すつばい(酸)

【醃】 漢 ①す、すつばい(酸)

十三畫

【醃】 漢 ①す、すつばい(酸)

【醃】 漢 ①す、すつばい(酸)

【醃】 漢 ①す、すつばい(酸)

【醃】 漢 ①す、すつばい(酸)

十六畫

【醃】 漢 ①す、すつばい(酸)

【醃】 二九七頁の宴を見よ。

十七畫

【釀】 漢 ①かもし、酒をつくる、かまへる(樽)②さけ(酒)をつくる、かまへる(樽)③さけ(酒)をつくる。

十八畫

【釀】 漢 ①かもし、酒をつくる、かまへる(樽)②さけ(酒)をつくる、かまへる(樽)③さけ(酒)をつくる。

【釀】 漢 ①かもし、酒をつくる、かまへる(樽)②さけ(酒)をつくる、かまへる(樽)③さけ(酒)をつくる。

十九畫

【釀】 漢 ①かもし、酒をつくる、かまへる(樽)②さけ(酒)をつくる、かまへる(樽)③さけ(酒)をつくる。

采部

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

一畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

二畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

三畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

四畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

五畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

六畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

七畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

八畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

九畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

十畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

十一畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

十二畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

十三畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

十四畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

十五畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

十六畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

十七畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

十八畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

十九畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

二十畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

二十一畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

二十二畫

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【采】 漢 ①わかる

【重望】チユウバウ 盛んなる人氣、多數より受ける尊敬や人望。「座蒲團を重ねる。」
 【重柵】チユウシツ ①重ね蒲團、厚い敷物。②重病に同じ。
 【重婚】チユウコン ①かさねて結婚する。②配偶者ある者が重ねて他の者と結婚する。
 【重曹】チユウソウ 重炭酸曹達の略。「餘る負擔」
 【重荷】チユウカ ①重き荷物、おもに②身に重きけが、ふかて、重創。
 【重傷】チユウウキ 幾重にもめぐらした傷み。
 【重罪】チユウザイ ①重科に同じ。②舊刑法の死刑・有期及無期徒刑。有期及無期徒刑・重懲役・重禁獄・輕禁獄などをいふ。
 【重懲】チユウテイ 病の非常に重いこと。
 【重縁】チユウエン ①親類同士にて縁を結ぶこと。②二重のえんぐみ。
 【重箱】チユウバコ 車のかさなりたる物を入るゝ處、轉じて木製のぬり箱にして主として食物を入れてもちあるくもの。
 【重點】チユウテン 槓杆にて動かさんとする物體のかゝる點。
 【重職】チユウシヨク 重き役目、又其人。
 【重鎮】チユウヂン 兵權を握り要害の地に據りて守る者、一方のおさへとなるもの。
 【重襲】チユウシユ ①かさねる、かさなる。②器具などを幾重にも包む。

【重體】チユウタイ 病の重くなること。
 【重箱主義】チユウバコシユイ 極めて微少なることを尊重實行する主義。
 【重門擊柝】チユウモンキツク 幾重にも門を設けて、拍子木をうつて警戒すること。
 【重儀節會】チユウギセツエ 昔重陽の日朝廷から多くの臣下に菊の酒を賜はつた儀式。
 【重炭酸曹達】チユウタンサンサウダ 白色粉狀の醫藥にて重曹と略稱す。
 持重チヨウ 深重シン 威重キ 雅重ガ
 嚴重ゲン 志重シ 端重タン 寬重クワン
 厚重コウ 倚重イ 苛重カ 輕重ケイ
 後重コウ 輻重フク 後重コウ 質重シツ
 墨重シツ 沈重シン 數重スウ 積重セキ

【厘】 一七二頁の厘を見よ。

四畫

【野・野】ノ 古「野」漢ヤ 吳エ ①の、のはら、郊外、町はづれ、はたけ。②かささらざる貌、ひなびてゐること、禮儀作法などに馴れぬこと。③民間、しもく。④星のやどり。⑤未開なること。⑥分に過ぎたる希望。【同訓異義】 いやし 野・卑・賤其他の用法は九九八頁の賤を見よ。
 【野人】ヤジン ①むなかももの、いやしき人。②質朴にして誠意ある人。③一般人、庶民。④野蠻人。⑤農夫、ひやくしやう。
 【野干】ヤカン 狐の類、又狐の異名。
 【野火】ヤヒ 野原の雜草を燃やす火、のび。
 【野心】ヤシン ①田園生活を望みて樂しむ心。②人をも害するが如き恐ろしき心に過ぎたる望、又其たくらみ。
 【野牛】ヤウ 野生の牛、パツファロー。
 【野花】ヤクワ 野芳に同じ。「男子の謙辭」。
 【野史】ヤシ 野乘に同じ。「男子の謙辭」。
 【野生】ヤセイ ①動植物が自生すること。②野合。ヤガフ。なれあひ、正當なる手續によらずして夫婦になる、又年齢の非常に相違せるもの、結婚なりともいふ。
 【野外】ヤグワイ のはら、郊外。「謙辭」。
 【野老】ヤラウ ①野翁。②老夫が自分を言ふ。
 【野羊】ヤヤウ 偶蹄類に屬する反芻獸で形體は羊に似てやゝ大きき頭上に二本の角を有し右は左巻左は右巻になり牡は咽喉部に長鬣を有し毛は織物のに用ひ革は手袋・靴等の材料となり肉は食用に供す。


【野性】ヤセイ ①馴れ親まぬ性質。②いやしき性質。③田園生活をたのしむ心。
 【野芳】ヤハフ 野原に咲きにほふ花。
 【野卑】ヤヒ 野鄙に同じ。
 【野柄】ヤナフ ①田舎坊主。②僧侶の謙稱。
 【野亭】ヤテイ 田舎の休息所。
 【野郎】ヤラウ 男子をのゝしりていふ語。
 【野乘】ヤジヤウ 民間にて選述せし歴史。
 【野翁】ヤウウ むなかおやぢ、田叟。
 【野球】ヤキウ 遊戯の一、ベースボール。
 【野宿】ヤシユク のじゆく、屋外にて夜をすごすこと。「又馬の一種」。
 【野馬】ヤバ ①かげらち、陽炎。②野飼の馬、野生の梅。「もしろみ」。
 【野梅】ヤバイ 野生の梅。「もしろみ」。
 【野情】ヤジヤウ ①田舎人の心情。②田舎のおお。③野原のこみち。「の草」。
 【野菜】ヤサイ あをももの、田畑に植ゑる食用。④風俗又は心情のいやしきこと。⑤むなか、郊外。
 【野趣】ヤシユ 郊外のおもしろみ。
 【野暮】ヤボ ①世情に通ぜず不粹なること。②禮儀作法などかなはぬこと。
 【野豬】ヤチウ 野獸の名、むのしよ。
 【野戰】ヤセン 平地にてなす戰爭。
 【野營】ヤエイ 軍隊などが野原に宿ること。
 【野獸】ヤジュウ 山野に棲息するけもの。

【野醜】ヤチウ ぢぎげ、むなかぢぎげ。
 【野蠻】ヤバン ①文化がひらけぬと、又其國及人民の禮儀にかなはぬ、無作法。
 【野立】ノダチ 貴人が山野に車馬をとめて
 【野晒】ノゼラシ されからべ、どくろ。「休む」。
 【野菊】ノギク 山野に自生する菊。
 【野蒜】ノビル 百合科の多年生草本で地下の鱗莖から細長い葉を出し花莖は葉間から出て夏の頃頂上に白色の小花を開き葉と鱗莖とを食用にする。

 【野木瓜】ヤボクワ むべともいふ、ときはあけび、初夏に花を開き雌雄兩花ある、上古砂糖のなかつた時代には菓子と言ひて毎歲晩秋近江國より朝廷に獻じて頗る珍重せられたといふ。

 【野外劇】ヤグワイゲク 自然の風景を背景とし野外にて演ずる劇。「る群衆」。
 【野次馬】ヤジマ 傍から騒ぎ又はけしかけ
 【野戰砲】ヤセンハウ 山野の戦ひに用ゐる大砲
 【野狐禪】ヤコケン 禪學を修めて未だ其奥義

に達せぬ者を嘲り言ふ。
 【野太刀】ノダチ 野を逍遙するとき帯びた鞘卷の短刀。
 【野牡丹】ノボタン 臺灣琉球等に生ずる常綠灌木で卵形の葉を有し美花を開く。
 【野床人】ノトコヒト 獵師の異名。
 【野薔薇】ノイバラ 薔薇科の落葉灌木で莖の高さは三四尺ばかり枝に刺が多く葉は羽狀複葉をなし各小葉は橢圓形で鋸齒を有し初夏の頃香氣のある白色又は帯紅色の五瓣花が咲き紅い大豆位の果實を結ぶ、のばら。

 【野風仙】ツリフネサウ 花は紅紫色にして莖梢より細き花柄を垂れて舟を釣りし如き形をなすが故に此名あり。

 【野人獻芹】ヤジンケンシン 人に物を贈るときへりくだつて云ふ語。「假設戰」。
 【野外演習】ヤグワイエンシユ 軍隊が野原で行ふ
 【野外飛行】ヤグワイヒコウ 一定の飛行場を中

【野戦病院】ヤセシキヤウケン 戦時後方に假設して傷病者を治療するところ。

- 大野 ヤマノ
- 四野 ヤシノ
- 中野 ナカノ
- 草野 クサノ
- 鷹野 タカノ
- 原野 ハラノ
- 桑野 クワノ
- 質野 シツノ
- 山野 ヤマノ
- 田野 イノ
- 郊野 コウノ
- 涼野 リョウノ
- 平野 ヒラノ

【黒】 一一九一頁の黒を見よ。

五畫

【量】

【量】 リヤウ 漢吳 ①ます、をはかる標準器②かさ(容積・軽重・長短・多少などの數)③心がら、さまへ、りやうけん④はかる(輕重・大小・長短・多少等をはかる)かんがへる、思案する、計ふ、加減する、おしはかる、推測、豫想

【同訓異義】 はかる 量・圖・計其他の用法は九五三頁の計を見よ。

【量目】 リヤウモク ばかりめ、はかりの分量。

【量計】 リヤウケイ 多少をはかること。

【量度】 リヤウド 量度。

【量器】 リヤウキ 物の分量を計る道具、ます。

【量衡】 リヤウコウ ますとはかり。

- 器量 リヤウリヤウ 才量 リヤウ
- 大量 リヤウリヤウ 本量 リヤウ
- 氣量 リヤウリヤウ 分量 リヤウ
- 遠量 リヤウリヤウ 殊量 リヤウ
- 思量 リヤウリヤウ 比量 リヤウ
- 局量 リヤウリヤウ 斗量 リヤウ
- 測量 リヤウリヤウ 考量 リヤウ
- 榘量 リヤウリヤウ 榘量 リヤウ
- 酒量 リヤウリヤウ 弘量 リヤウ
- 識量 リヤウリヤウ 雅量 リヤウ
- 度量 リヤウリヤウ 德量 リヤウ
- 數量 リヤウリヤウ 商量 リヤウ
- 斛量 リヤウリヤウ 裁量 リヤウ
- 無量 リヤウリヤウ 偉量 リヤウ

【童】 七六八頁の童を見よ。

六畫

【裏】 九三六頁の裏を見よ。

七畫

【墨】 二四一頁の墨を見よ。

【野】 二四〇頁の野を見よ。

十一畫

【釐】

【釐】 リン 漢吳 ①小數の(一)の百分の一、尺度の單位(分の十分一)目方の單位(分の十分一)錢高の單位(昔の分の十分一にして今の錢の十分一)②わづか(僅)すこし③をさむ(治)ふたつ(雙)④ひもろぎ(祭のとき神)

金部

【金】

【金】 キン 漢キン ①かね(金の鑛物の總稱)かなもの、鑛物製の器物、ぜに(貨幣)はもの(双物)②わうごん、かね、黄金色、こんじき③ほご。かなな等の武器④金にて造りたる樂器⑤或物の上に冠して貴重なる意味を示す語、又極めて固き意味を示す語、又美しき意を示す語⑥數字の下に添へ圓又は兩と等しく用ゐる數詞⑦つぐむ(禁)【金力】 キンリキ 金錢の力、金の威光。【金刀】 キンタウ 支那古代の貨幣、その形の刀に似るよりいふ⑧黄金造りの小刀又は剪刀の類。【金鶏】 キンケイ 神武天皇が長髓彦を征伐され時其御弓の末にとまつた黄金色の鶏

【金口】 キンコウ ①貴重な言語、又他人の言語の敬稱②口をつぐむ、沈黙③佛の説きし教④エジプト煙草、又は舶來高級煙草の別名⑤洋酒の瓶の口に金の貼紙をしたもの、別名。

【金子】 キンシ かね、金錢。

【金丹】 キンタン 道士が金石を煉つて作りし藥にて長生不死の效驗ありといふ。

【金天】 キンテン 秋の空、秋昊。「石文」。

【金文】 キンブン ①金泥にてかきし文字②金【金玉】 キンギョウ ①こがねとたま②貴重なもの、又大切にする。「力のつづく所」。

【金穴】 キンケツ ①おぼがねもち②無限の財

【金甲】 キンカウ ①黄金造りのよろひ②金革

【金主】 キンシュ ①金錢の所有主②きんかた資本又は費用を出す人。

【金打】 キンチヤウ 昔武士が約束を守る證として刀の刃又は鐔等を打合せしこと、女子は鏡と鏡とを打合せ。「がねの札」。

【金札】 キンサツ ①貨幣に代用する證券②【金色】 キンシキ ①黄金いろ②佛身の色。

【金言】 キンゴン 訓誡となるべき言。

【金利】 キンリ 元金に對する利子の金。

【金坑】 キンカウ かなやま、金山。

【金波】 キンハ ①月光に映じ金色に見える

波②つきかげ、月の光③酒の異名。

【金券】 キンケン ①金札②天子より賜はる文書、黄金の札に記したるよりいふ。

【金帛】 キンパク 黄金と絹帛。

【金的】 キンシキ 徑一寸四分の金色板の中央に徑三分許の丸を描きし射術的的。

【金杯】 キンハイ こがね製のさかづき。

【金肥】 キンヒ 天然肥料の對、過燐酸石灰。窒素・硫酸アンモニア等の人造肥料。

【金泥】 キンヂイ 金粉を膠でといたもの、書畫をかくに用ゐる。

【金柑】 キンカン 柑橘類の一種。

【金風】 キンフウ 秋の風、商風。

【金屋】 キンヤウ 立派なる家屋、金殿。

【金星】 キンセイ 太陽系中の第二遊星、よひのみやうじやう、太白星。

【金沙】 キンシャ きんぶん、黄金のこな。

【金庫】 キンコ ①かねぐら②貴重品を納め火災盜難等を防ぐ特製の箱③政府の金を藏する所。「植物の花粉」。

【金粉】 キンコン ①金砂②おしろいの美稱③【金氣】 キンキ 秋の氣。

【金員】 キンギン かね、金子。

【金魚】 キンギョ ①黄金にて魚の形に作りし袋にして君主より國家の功勞者に下賜せられしもの②魚の名、鮒の變種。

【金貨】 キンカウ 黄金にて鑄造せし通用貨幣

【金蛇】 キンダ ①蛇の一種②電光の異名。

【金銀】 キンギン こがねづくりの簪。

【金策】 キンサツ ①こがねづくりの札②黄金造りの杖③金錢を調達する方法。

【金絲】 キンシ ①黄金の絲②金絲を細くよりたるものにして刺繍などに用ゐる。

【金牌】 キンパイ 黄金製の札、黄金のメダル。

【金葩】 キンパ 黄金色の花、主として菊花。

【金殿】 キンテン 金屋に同じ。

【金塊】 キンクワイ 黄金のかたまり。

【金鼓】 キンコ 軍中に用ゐる鐘と太鼓。

【金閣】 キンカク 金屋に同じ。

【金箔】 キンパク 黄金を薄く打展したもの。

【金碧】 キンペキ 金色と青色、美しい色彩。

【金瘡】 キンサウ きりきず、刀きず。

【金髮】 キンパツ 褐色にしてつやある毛髮、主に西洋婦人の髪をいふ。「美しい鞍」。

【金鞍】 キンアン 黄金にて飾りし馬のくら、又

【金融】 キンユウ かねまはり、金錢の運用。

【金籠】 キンロ 金のし

【金鏡】 キンキョウ 金のし

【金城】 キンシヤウ 名古屋

【金錢】 キンゼン ①貨幣として強制通用力あるもの②金貨、かね、ぜに、貨幣。



【金諾】キンダク かはらぬ約束。
 【金環】キンクワン 黄金のゆびわ、きんゆびわ
 【金蘭】キンラン 交友の堅きこと金をも断ず
 べく其美なること蘭の芳香を放つが如
 しの意より極めて親密な交りをいふ
 【金額】キンガク きんだか、かねだか。
 【金闕】キンケツ ①道教にて天帝の居る所
 天子の宮居 ②金銀にて飾り立てし門。
 【金繡】キンシウ 金糸などを用ひしぬひと
 【金簪】キンサン 金釵に同じ。 「の箱」
 【金櫃】キンク 金銀・貴重品を入れる特製
 【金屬】キンゾク かね類の總稱。
 【金鐵】キンテツ ①てつ、くろがね、極めて
 堅き物事の形容 ②鐵製の刑具。
 【金權】キンケン 金力と權力、又金の威光。
 【金鏝】キンゼツ ①黄金製の毛ぬき ②かんだ
 し、首飾の類。
 【金欄】キンラン 横にひら金の糸を織りて地
 となし模様を絹糸にて現した織物。
 【金神】キンジン 陰陽家が祭る神にて其居る
 方角に對して物事をなすことを忌む。
 【金剛】コンガウ ①金剛石の略 ②無明を照破
 する智慧、堅固にして破れぬ佛果 ③金
 剛砂の略 ④金剛神の略 ⑤俳優の許に奉
 公づとめする者、又金剛草履の略。
 【金頭】カナガシラ 硬鱗類の近海魚で形はは

うぼうに類し頭部は鐵兜状
 をしてゐる。
 【金石文】キンシキブン 金や石の上
 にほりつけられたる古代の
 文字文章。
 【金石聲】キンシキノコエ 詩文が立
 派にして金玉を撃つ如き響ありとの意
 【金石交】キンシキカウ 極めてかたい交り。
 【金字塔】キンジツタ 埃及のピラミッドが金
 字形に似たるよりいふ。 「祝賀の式」
 【金婚式】キンコンシキ 結婚後五十年目に行ふ
 【金魚草】キンギョウクサ 玄
 參科の多年生草本
 で高さ二三尺夏の
 頃大形の紅紫白等
 の花を開き觀賞用として栽培する。
 【金絲酒】キンシシユ たまご酒の異名。
 【金葉集】キンエフシツ 和歌集十卷よりなり崇
 德帝の御代白河院の宣旨を以て選ばれ
 したもの。
 【金絲桃】キンシタウ び
 ようやなぎ、金絲
 桃科の落葉小灌木
 にして山谷に自生
 し枝條垂れて金絲の如き莖ありて美麗
 【金絲雀】キンシシヤク 小鳥の一、かなりや。



(頭金)



(草魚金)



(桃絲金)

【金盡花】キンセンクワ 菊の一種、常春花。
 【金蓮歩】キンレンボ 美人の歩く形容。
 【金時鯛】キンシキダイ 鯛の
 一種で形體はまだひ
 に類似し口は上に向
 ひ眼は大きく體の背
 部は赤く腹部は銀色
 を呈し身長は一尺五
 六寸で暖地の海に産する。
 【金解禁】キンカイキン 金輸出禁止解除の略、
 法規を以て金の輸出を禁止してあつた
 のを解除すること。
 【金翅鳥】キンシチウ 佛教で云ふ怪鳥翅の先
 と先と相距ること三百六十六里あつて
 龍をとつて食ふといふ鳥。
 【金覆輪】キンフクリン 黄金又は金巻繪にて細
 く縁をとつたもの
 【金風花】キンボウワ 山
 野に自生し毛茸多
 く黄花を開く有毒
 草本、馬の足がた。
 【金米糖】キンベイタウ 葡
 萄牙語の Confaisos の宛字、菓子的一種
 【金剛力】コンガウリキ 二王の如き大力。
 【金剛石】コンガウシキ ダイヤモンド。
 【金剛砂】コンガウサ 石槌を粉末にしたる赤



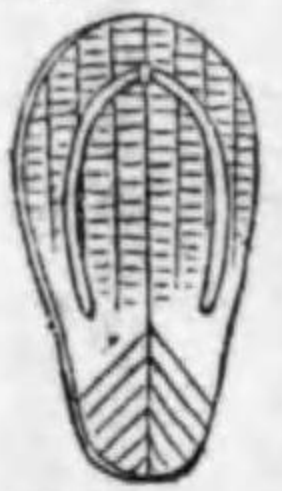
(鯛時金)



(花風金)

【金剛流】コンガウリウ 金剛善觀の創めたる能
 【金剛杵】コンガウシ 佛具の一にして獨鈷・
 三鈷・五鈷の總稱。
 【金剛界】コンガウカイ 眞言宗の教理によつて
 智慧の一面より見たる世界觀。
 【金剛神】コンガウジン 二王に同じ。
 【金毘羅】コンピラ 天竺の靈鷲山の神。
 【金剛鑽】コンガウザン 金剛石の屑粉。
 【金輪際】コンリンザイ どうしても、いつかな
 等の意。 「詔書」
 【金券玉册】キンケンヨク 天子より賜はる
 【金枝玉葉】キンシキヨク ①美しき雲を美麗
 なる草木に喩へし語 ②皇族。
 【金科玉條】キンコヨク ①大切なる法律
 ②緊要なる箇條。
 【金城鐵壁】キンシキテツベキ 極めて堅固な城
 【金貨本位】キンカホホ 金貨を本位貨幣に
 其他の貨幣を補助貨幣とする制度。
 【金烏玉兔】キンウヨク 日と月。
 【金祿公債】キンロクコウサイ 明治維新の際華族
 及士族が舊幕時代より受けてゐた俸祿
 を公債證書として下附せられしもの。
 【金融逼迫】キンニウヒツパク 資本の需要が供給
 より多きこと、かねづまり。
 【金瓶無缺】キンポウムケツ 黄金の瓶のむきず

なること、外侮をうけしことなき完全
 無缺なる國家に喩へていふ語。
 【金鶏勳章】キンケイコンショウ 金鶏にかたどりた
 る勳章にして軍功拔群の者に授與する
 ものをいひ功一級より功七級に分たる
 【金屬元素】キンゾクエレメント 金・銀・銅・鐵など
 の如く金屬性を有する元素の總稱。
 【金剛不壞】コンガウフエ 體性・力用・功德など
 の堅固にしてやぶれざること。
 【金剛夜叉】コンガウヤシヤ 五大明王の一にし
 て北方を守る神。
 【金剛草履】コンガウソリ
 普通の形よりも大
 きく藁で造つた草
 履、金剛と略稱す。
 【金單本位制】キンタンホンホク 金貨を唯一の
 本位貨幣とし之にのみ法貨たる資格を
 與ふる制度。
 【金錢登錄器】キンゼントクキ 自動的に現金
 出納の登錄をなす
 器械で會計上複雑
 な帳簿記入により
 て生ずる誤謬と違
 算とを防ぎ使用人
 の不正行爲を絶対に不可能ならしめ取
 引を敏活にし顧客に不便ならしめる



(履草剛金)



(器錄登錢金)

ことを目的とし頗る進歩した装置器。
 亡金キョウ 上金ウシキ 元金ゲン 手金テ
 白金ハク 代金ダイ 好金コウ 合金ゴウ
 治金チ 利金リ 私金シ 投金トウ
 赤金セキ 青金セイ 返金ヘン 泥金デ
 受金ウケ 美金メイ 南金ナン 屑金セツ
 借金シヤク 洋金ヨウ 純金ジュン 黄金オウゴン
 銷金シウ 罰金バツ 醜金ウシウ 銅金ドウ
 貯金チヨ 千金チン 現金ケン 砂金サ
 【釘】クワシ 漢テイ 釘クワシ 吳チヤウ 釘クワシ 金物の
 一釘を打ちつける
 【釘付】クワシツケ 釘にて打ちつけること
 物價の相場の変動せぬさま。
 朽釘クサヅメ 竹釘タケヅメ 拔釘ヒキヅメ 金釘キンヅメ
 撞釘ツキヅメ 裝釘マシヅメ 銅釘ドウヅメ 銀釘ギンヅメ
 【釜】カマ 漢フ 釜カマ 吳ホ 釜カマ
 ①かま、金屬製の厨具 ②樹目の名、支
 那にて六斗四升(我國の約五六升)
 【釜敷】カマシ 釜を置く時下に敷くもの。
 【釜中魚】カマナカウイ ①かまの中の魚、永
 く生きられぬ譬 ②極めて貧しきこと。

【針】**鍼** 本 針

漢吳 針は金製にして、ぬいばり、うちばり(今は主として前者に針を用ゐる後者に鍼を用ゐる)又針の形せるもの

【針灸】**シヤウ** 針術で灸をすること。【針砭】**シヤウ** 醫療用のはり(針は金屬製のはり、砭は石ばり)。

【針路】**シヤウ** 磁石の針の示す方位、船舶の進むべき道筋。【方向】**シヤウ** むき。

【針鼠】**ハリスズ** 哺乳動物の食蟲類に屬し體の長さ五六寸ばかり口は尖つて鋭く全身炭褐色を呈し白い斑のある鋭い中空の毛を有して敵を

防ぎ夜間出で、小獸や蟲を捕食する。【針葉樹】**シヤウ** 松の如き細葉樹木。

【針猪魚】**シヤウ** 海魚の一、さより。【針小棒大】**シヤウ** おほげき、針程の事を棒ほどに大きくいふこと。

【縫針】**シヤウ** 懸針。【釣針】**シヤウ** 釣針。【短針】**シヤウ** 懸針。【長針】**シヤウ** 釣針。【磨針】**シヤウ** 磨針。



(鼠針)

【釣】**釣** 俗 釣 釣

【註】きんと讀むは誤り。つる、釣をす、魚を釣上る、もとめる、おびきだす。つりばり、又つり。國訓つる(ぶらさげる)垂れる、懸垂)つり(つりせん、刺錢)。



(籠釣)

【釣舟】**シヤウ** つりをする舟、つりぶね。【釣竿】**シヤウ** 魚釣用の細き竹、つりざを。【釣魚】**シヤウ** つり、魚をつること。【釣瓶】**シヤウ** 井水を汲上げる桶、つるべ。【釣鉤】**シヤウ** つりばり、釣針。【釣臺】**シヤウ** 釣の爲め設けし小高き所。【釣手】**シヤウ** 魚をつる人。【物をつりさ】**シヤウ** 魚をつる人。【物をつりさ】**シヤウ** 魚をつる人。【釣合】**シヤウ** 池に魚を飼ひ置き料金を取りて釣り遊ばしめるところ。【釣桶】**シヤウ** 桶をつるして干したものを、つるしがき。【釣部】**シヤウ** 釣つたり卸したりするや。【釣橋】**シヤウ** 必要あるときにかけ必要なときはつりあげておく橋。【橋げた】**シヤウ** なく上より支へつりて保たせたる橋。【釣籠】**シヤウ** おつり。【釣籠】**シヤウ** おつり。【釣籠】**シヤウ** おつり。【釣籠】**シヤウ** おつり。

らす、にぶくする、にぶくなる

【鈍才】**シヤウ** にぶき才智、おろかなる者。【鈍刀】**シヤウ** なまくらがたな。

【鈍兵】**シヤウ** 軍氣の振はぬこと。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。

【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。

【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。

【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。

【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。

【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。

【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。

【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。【鈍器】**シヤウ** 愚者を嘲ること。

【鈔】**抄** 通 鈔 鈔

漢サウ ①かすむ(取)②かきうつす、ぬきがき、うつしとる。③さつ、紙幣。政府より發行する受取證、官符。

【鈔引】**シヤウ** ぬきがきす、又そのもの。【鈔略】**シヤウ** かすめ取る。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。

【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。

【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。

【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。

【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。

【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。

【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。

【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。【鈔票】**シヤウ** さつ、紙幣。

【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴

漢レイ ①すゝの物の鳴る音。②りん。【鈴蟲】**シヤウ** 直翅類の昆蟲で全身黒褐色を呈し頭は小さく腹部は大きく雄蟲は秋の夜草叢で鈴の音色にて鳴く。【鈴蘭】**シヤウ** 蘭科植物の一、山野に自生して可憐な合瓣花を開き詩人などに愛好せられる。



(蟲鈴)

【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。

【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。

【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。

【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。

【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。

【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。【鈴】**鈴** 俗 鈴 鈴。

【銃擊】ゴウガク 鐵砲をうちかける。
 【銃獵】ゴウリョク 鐵砲にて鳥獸をうちとる。
 小銃ビョウ 短銃ビョウ 拳銃ケン 獵銃リョウ
 漢 トウ ①金屬の

銅にて皿の如く造りし鳴り物。
 【銅拍子】ドウビヤク 一種の佛
 具で眞鍮にて作り二箇を
 以て一對となし各其外側
 の中央に紐を通し其紐を
 指に挟み拍ち合はして鳴
 らすもの。
 【銅色人種】ドウシヨクジンシュ 亞米利加の土人
 の種族。
 【銅器時代】ドウキジイ 人類が銅器を主とし
 赤銅セキ 青銅セイ 探銅ソウ 紫銅シ
 廢銅ハイ 鍊銅レン 鑄銅チウ



【銘酒】メイリュ 格別の釀法にてつくり特別
 の銘ある酒。「るもの」。
 【銘誄】メイリキ 死者の功德などを記述した
 【銘誌】メイシ 墓石にしるす文辭。
 【銘旗】メイキ 弔らひの時使ふ死者の官位
 姓名を記した旗。「ぬ」。
 【銘肌鏤骨】メイキカクコウ 深く恩を感じて忘れ
 刀銘タウ 刻銘コウ 碑銘ハイ 鼎銘メイ
 篆銘ゼン 篆銘ゼン 鏡銘キョウ 鑑銘カン

【銅】ドウ 銅を産出する鐵山。
 【銅匠】ドウシヤウ 銅器をつくる職工。
 【銅版】ドウバン 銅を版木としたる印刷版。
 【銅鼓】ドウコ あかぐねの陣太鼓。
 【銅鉢】ドウハチ 僧侶が勸行
 の時に鳴らす銅製の鈴
 【銅青】ドウセイ 銅のさび、
 綠青。
 【銅臭】ドウシウ 貨財を以て
 官位を得た人を賤しめ嘲りていふ語。
 【銅貨】ドウカ 主に銅にて造つた補助貨幣
 【銅壺】ドウコ ①漏刻 ②火器に取りつけ湯
 をわかす鐵又は銅製の壺。
 【銅牌】ドウハイ 銅のふだ、又銅メダル。
 【銅像】ドウゾウ 銅にて作りし肖像。
 【銅錢】ドウセン 銅にて鑄
 造せし貨幣。
 【銅鏡】ドウキョウ あかぐ
 ねの鐵石。
 【銅鑼】ドウラ ドラ、紫



(鉢 銅)

【銑】セイ 漢 吳 飲食物を温める
 器。エウ テウ 具、てうし ①すき、
 ②か(刈) ③銑子は儀式の酒を盛る器、
 轉じて燭徳利
 【銑子】セイシ 字解の ①に同じ。
 【銑】セン 漢 セン ①すき(鋤) ②するど
 吳 ソンシ(銳) ③魚を突きま
 して捕へる漁具、もり(稽) やす
 【銑刀】センタウ きれ味よき刀。
 【銑戈】センカウ するどきほこ。
 【銑銳】センエイ するどい。
 【銑鋼】センカウ よくきれるはがね。

【銘】メイ 漢 貝 吳 ミヤウ
 慣用音メイ
 ①鐘などに鑄込み又は石牌に刻みたる
 文章 ②刻文を記す ③文體の一 ④記憶す
 る、深く覺込む ⑤製作者が其製品に己
 の名を記したるもの、落款 ⑥葬式の時に
 死者の官位姓名等を記した旗 ⑦いまし
 めの詞 ⑧特製物に冠せしめる語
 【銘仙】メイセン より絲で織つたあらし絹布
 【銘柄】メイカウ ①市場に建てる品物の一つ
 一つの稱 ②商品の商標。
 【銘茶】メイチャ 特に名をつけたよい茶。
 【銘記】メイキ ふかく心にとめる。「れぬ」。
 【銘肝】メイカン 膽心の中にしみこんでわす

【銖】シュ 漢 吳 ①はかり(權衡) ②はか
 物をしらべて官に任ず
 【銖衡】センカウ ①はかり、權衡 ②人物を調
 べる、又其役目 ③論衡と書くは誤り。
 【銖】ジュ 漢 シュ ①めかた
 兩の二十四分の一 ②小數の名、専ら利
 率に用ふ(一割の十分の一、分) ③すこ
 し、わづか ④にぶし(鈍) ⑤朱に作る、
 舊貨幣の一分の四分の一
 【銖分】シュブン こまかにわけること。

七畫

【銑】セイ 漢 吳 飲食物を温める
 器。エウ テウ 具、てうし ①すき、
 ②か(刈) ③銑子は儀式の酒を盛る器、
 轉じて燭徳利
 【銑子】セイシ 字解の ①に同じ。
 【銑】セン 漢 セン ①すき(鋤) ②するど
 吳 ソンシ(銳) ③魚を突きま
 して捕へる漁具、もり(稽) やす
 【銑刀】センタウ きれ味よき刀。
 【銑戈】センカウ するどきほこ。
 【銑銳】センエイ するどい。
 【銑鋼】センカウ よくきれるはがね。

【銳】エイ 漢 エイ タイ
 ①するどし、はげし(劇)さとし、つよ
 し(強)はやし(早)先が尖つて細い、よ
 くねれて居る ②するどくす ③ほさき、
 きつきき、尖端、はげしくす ④するど
 き武器、よくねれて強き兵士 ⑤ちひさ
 し(小)こまかい(細) ⑥ほこ(矛)
 【銳口】エイコウ すぐれた辯舌。「き角度」。
 【銳角】エイカク 鈍角の對、九十度より小
 【銳兵】エイヘイ 銳き武器、又はつよき軍隊。
 【銳利】エイリ 銳くてよくきれる、又其の
 【銳卒】エイソツ よくねれて強き兵。「刃物」。
 【銳氣】エイキ するどく元氣なる氣象。
 【銳將】エイシャウ するどき大將。
 【銳敏】エイミン かしこし、するどくさとし。
 【銳意】エイイ 心をはげまし熱心になる。
 【銳鋒】エイホウ 勢の銳きさま。
 豪銳ガウ 勇銳ユウ 銑銳セン 精銳セイ
 勁銳キョウ 盛銳セイ 利銳リ 細銳サイ
 果銳クワ 明銳メイ 聰銳ソウ 敏銳ミン
 圓銳エン 輕銳ケイ 猛銳メイ 剛銳コウ
 圓銳エン 輕銳ケイ 猛銳メイ 剛銳コウ

【銖】シュ 漢 吳 ①はかり(權衡) ②はか
 物をしらべて官に任ず
 【銖衡】センカウ ①はかり、權衡 ②人物を調
 べる、又其役目 ③論衡と書くは誤り。
 【銖】ジュ 漢 シュ ①めかた
 兩の二十四分の一 ②小數の名、専ら利
 率に用ふ(一割の十分の一、分) ③すこ
 し、わづか ④にぶし(鈍) ⑤朱に作る、
 舊貨幣の一分の四分の一
 【銖分】シュブン こまかにわけること。

【銖】シュ 漢 吳 ①はかり(權衡) ②はか
 物をしらべて官に任ず
 【銖衡】センカウ ①はかり、權衡 ②人物を調
 べる、又其役目 ③論衡と書くは誤り。
 【銖】ジュ 漢 シュ ①めかた
 兩の二十四分の一 ②小數の名、専ら利
 率に用ふ(一割の十分の一、分) ③すこ
 し、わづか ④にぶし(鈍) ⑤朱に作る、
 舊貨幣の一分の四分の一
 【銖分】シュブン こまかにわけること。

【銖】シュ 漢 吳 ①はかり(權衡) ②はか
 物をしらべて官に任ず
 【銖衡】センカウ ①はかり、權衡 ②人物を調
 べる、又其役目 ③論衡と書くは誤り。
 【銖】ジュ 漢 シュ ①めかた
 兩の二十四分の一 ②小數の名、専ら利
 率に用ふ(一割の十分の一、分) ③すこ
 し、わづか ④にぶし(鈍) ⑤朱に作る、
 舊貨幣の一分の四分の一
 【銖分】シュブン こまかにわけること。

【銖】シュ 漢 吳 ①はかり(權衡) ②はか
 物をしらべて官に任ず
 【銖衡】センカウ ①はかり、權衡 ②人物を調
 べる、又其役目 ③論衡と書くは誤り。
 【銖】ジュ 漢 シュ ①めかた
 兩の二十四分の一 ②小數の名、専ら利
 率に用ふ(一割の十分の一、分) ③すこ
 し、わづか ④にぶし(鈍) ⑤朱に作る、
 舊貨幣の一分の四分の一
 【銖分】シュブン こまかにわけること。

【銖】シュ 漢 吳 ①はかり(權衡) ②はか
 物をしらべて官に任ず
 【銖衡】センカウ ①はかり、權衡 ②人物を調
 べる、又其役目 ③論衡と書くは誤り。
 【銖】ジュ 漢 シュ ①めかた
 兩の二十四分の一 ②小數の名、専ら利
 率に用ふ(一割の十分の一、分) ③すこ
 し、わづか ④にぶし(鈍) ⑤朱に作る、
 舊貨幣の一分の四分の一
 【銖分】シュブン こまかにわけること。

【銖】シュ 漢 吳 ①はかり(權衡) ②はか
 物をしらべて官に任ず
 【銖衡】センカウ ①はかり、權衡 ②人物を調
 べる、又其役目 ③論衡と書くは誤り。
 【銖】ジュ 漢 シュ ①めかた
 兩の二十四分の一 ②小數の名、専ら利
 率に用ふ(一割の十分の一、分) ③すこ
 し、わづか ④にぶし(鈍) ⑤朱に作る、
 舊貨幣の一分の四分の一
 【銖分】シュブン こまかにわけること。

【銖】シュ 漢 吳 ①はかり(權衡) ②はか
 物をしらべて官に任ず
 【銖衡】センカウ ①はかり、權衡 ②人物を調
 べる、又其役目 ③論衡と書くは誤り。
 【銖】ジュ 漢 シュ ①めかた
 兩の二十四分の一 ②小數の名、専ら利
 率に用ふ(一割の十分の一、分) ③すこ
 し、わづか ④にぶし(鈍) ⑤朱に作る、
 舊貨幣の一分の四分の一
 【銖分】シュブン こまかにわけること。

【銖】シュ 漢 吳 ①はかり(權衡) ②はか
 物をしらべて官に任ず
 【銖衡】センカウ ①はかり、權衡 ②人物を調
 べる、又其役目 ③論衡と書くは誤り。
 【銖】ジュ 漢 シュ ①めかた
 兩の二十四分の一 ②小數の名、専ら利
 率に用ふ(一割の十分の一、分) ③すこ
 し、わづか ④にぶし(鈍) ⑤朱に作る、
 舊貨幣の一分の四分の一
 【銖分】シュブン こまかにわけること。

【銖】シュ 漢 吳 ①はかり(權衡) ②はか
 物をしらべて官に任ず
 【銖衡】センカウ ①はかり、權衡 ②人物を調
 べる、又其役目 ③論衡と書くは誤り。
 【銖】ジュ 漢 シュ ①めかた
 兩の二十四分の一 ②小數の名、専ら利
 率に用ふ(一割の十分の一、分) ③すこ
 し、わづか ④にぶし(鈍) ⑤朱に作る、
 舊貨幣の一分の四分の一
 【銖分】シュブン こまかにわけること。

【銖】シュ 漢 吳 ①はかり(權衡) ②はか
 物をしらべて官に任ず
 【銖衡】センカウ ①はかり、權衡 ②人物を調
 べる、又其役目 ③論衡と書くは誤り。
 【銖】ジュ 漢 シュ ①めかた
 兩の二十四分の一 ②小數の名、専ら利
 率に用ふ(一割の十分の一、分) ③すこ
 し、わづか ④にぶし(鈍) ⑤朱に作る、
 舊貨幣の一分の四分の一
 【銖分】シュブン こまかにわけること。

【銖】シュ 漢 吳 ①はかり(權衡) ②はか
 物をしらべて官に任ず
 【銖衡】センカウ ①はかり、權衡 ②人物を調
 べる、又其役目 ③論衡と書くは誤り。
 【銖】ジュ 漢 シュ ①めかた
 兩の二十四分の一 ②小數の名、専ら利
 率に用ふ(一割の十分の一、分) ③すこ
 し、わづか ④にぶし(鈍) ⑤朱に作る、
 舊貨幣の一分の四分の一
 【銖分】シュブン こまかにわけること。

【銖】シュ 漢 吳 ①はかり(權衡) ②はか
 物をしらべて官に任ず
 【銖衡】センカウ ①はかり、權衡 ②人物を調
 べる、又其役目 ③論衡と書くは誤り。
 【銖】ジュ 漢 シュ ①めかた
 兩の二十四分の一 ②小數の名、専ら利
 率に用ふ(一割の十分の一、分) ③すこ
 し、わづか ④にぶし(鈍) ⑤朱に作る、
 舊貨幣の一分の四分の一
 【銖分】シュブン こまかにわけること。

【鋒芒】ホウバウ ①鋒鋸に同じ。②わづかなる鋭く盛んにおこるさま。

【鋒鋸】ホウバウ 鋒芒に同じ。①刀のきつさき。②議論の激しき矢おもて。③鋭き氣象。

【利鋒】リホウ 筆鋒。①筆の先鋒。②先鋒。③軍鋒。④戦鋒。

【鋤】シヨ 漢シヨ 吳シヨ 慣用音シヨ ①すき(鋤)田の草を除き土をおこす農具。②すく、ほろぼす。③害草をすきとる。④悪人をほろぼし國土を定める。

【鋤犁】シヨリ すき、又耕作すること。

【鋤簾】シヨレン 竹を編み先端に金具をつけ水底を浚渫する工具。



(鋤 簾)

【鋤鏽】シヨシヨ 漢シヨ ①さびる、鐵の錆。②さび、さびて出来た物。

【鋤鋸】シヨシヨ 漢シヨ ①さび、さびて出来た物。②さび、さびて出来た物。

【鋤鋸】シヨシヨ 漢シヨ ①さび、さびて出来た物。②さび、さびて出来た物。

【鋤鋸】シヨシヨ 漢シヨ ①さび、さびて出来た物。②さび、さびて出来た物。

【鋪】ホ 漢ホ ①舖の俗。ふるは非なるも我が國では一般に俗字として用ひられてゐる。②門の環の金具。③しく(布ならべる)並つらねる、又つらなる(連ならぶ)やむ(病)みせ(店)。

【鋪叙】ホシヨ 漢シヨ ①しきのべる。②みせ、店舗。

【鋪席】ホセキ 漢シヨ ①むしろを敷く。②しき連ねる、敷陳。

【鋪裝】ホサウ 漢シヨ ①道路に石煉瓦等を敷詰める。②びやう(釘の一種)にして頭大きく打ちつけて物を固め又飾とするもの。

【鋪首】ホシユ 漢シヨ ①門につける釘かくし。

【鋪面】ホメン 漢シヨ ①みせ、店舗。

【鋪陳】ホチン 漢シヨ ①しき連ねる、敷陳。

【鋪裝】ホサウ 漢シヨ ①道路に石煉瓦等を敷詰める。②びやう(釘の一種)にして頭大きく打ちつけて物を固め又飾とするもの。

【鋪首】ホシユ 漢シヨ ①門につける釘かくし。

【鋪面】ホメン 漢シヨ ①みせ、店舗。

【鋪陳】ホチン 漢シヨ ①しき連ねる、敷陳。

【鋪裝】ホサウ 漢シヨ ①道路に石煉瓦等を敷詰める。②びやう(釘の一種)にして頭大きく打ちつけて物を固め又飾とするもの。

【鋪首】ホシユ 漢シヨ ①門につける釘かくし。

【鋪面】ホメン 漢シヨ ①みせ、店舗。

【鋪陳】ホチン 漢シヨ ①しき連ねる、敷陳。

【鋪裝】ホサウ 漢シヨ ①道路に石煉瓦等を敷詰める。②びやう(釘の一種)にして頭大きく打ちつけて物を固め又飾とするもの。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【錠】テイ 漢テイ ①たか祭具の一日銀貨の名稱。②じやう、じやうまへ、又一片のひらた塊に製したる藥の稱。

【鋼】カウ 漢吳 はがね、ねに存する鐵石にして硬度高く酸類に侵す。①鋼玉。②大理石又は花崗石等の中に存する鐵石にして硬度高く酸類に侵す。

【鋼版】カウハバン 印刷機械の一、磨寫版。

【鋼線砲】カウセンハウ 大砲の一種にして砲身の内外部に無數の鋼線をまきつけて砲彈の力を増加せしめしもの。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。

【鋼索】カウソウ 鋼索を張りつめた軍艦の力。



(錠)



(錦 旗)



(錦 旗)

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【錦】キン 漢キン ①織物のしきもの。②天子又は皇室の御旗。

【鑛】セシユツ 官位を削られる。

【鑛】漢 クワン わ、かなわ

【鑛】漢 タク おほす、昔教令を

【鑛】吳 ダク ふれる時鳴らしたるもの、大鈴

【鑛】似て中に舌を有し

【鑛】漢 吳 タウ 漢 サウ 銀鑛はく

【鑛】重くて持ち難い鼓の音(三足ある鑛)國訓こじり(鑛)こて(鑛)



【鑄】漢 吳 シュ 慣用音 吳 ス

【鑄】いる、金屬をとかし型に流し込みて器

【鑄】物を作る、轉じて人才を鍛へ養ふ

【鑄】鑄造 シユザウ 金器をつくりいる。

【鑄】鑄型 シユケイ いものゝかた、いがた。

【鑄】鑄鐵 シユテツ いもの用の鐵材。

【鑄】鑄貨 シユカワ 鑄造せる貨幣、又貨幣を鑄

【鑄】造する、金貨、銀貨、銅貨。

【鑄】鑄錢 シユセン ぜにをい、又そのぜに。

【鑄】改鑄 シユカイ 私鑄 シユシ 私鑄 治鑄 シユチ 造鑄 シユゾウ

【鑒】漢 カン 吳 ケン 漢 カン 吳 ケン

【鑒】てほん、模範、めき、めがね、をし、

【鑒】いましめ(かん)がみる、のつとる、か

【鑒】みに映し観る、手本とする、人を見て我

【鑒】身のいましめとす、かんがへる(考)又

【鑒】それらのこと 「者に下附する札。

【鑒】鑒札 カンサツ 官より認可の證として營業

【鑒】鑒戒 カンカイ てほん、いましめ。

【鑒】鑒定 カンテイ 學識經驗を有する者が特別

【鑒】の智識に依つて事物の判断を爲すこと

【鑒】鑒識 カンシキ 物事の善惡優劣等を見わけ

【鑒】る、又其力。

【鑒】鑒賞 カンショウ 物の美醜を鑑別して味ふ

【鑒】鑒銘 カンメイ かゞみとすべき銘文。

【鑒】鑒賞批判 カンショウヒパン 内容の價值作者の

【鑒】着眼などを鑑賞して批評する文藝批評

【鑒】高鑑 カウカン 古鑑 コカン 龜鑑 ケン 前鑑 ぜん

【鑒】明鑑 メイカン 精鑑 セイカン 皇鑑 コウカン 深鑑 じん

【鑒】鑒鑑 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑒】鑒鑒 カンカン 漢 吳 かま、かなへ、無足

【鑛】漢 吳 シヤウ 鑛物を産出する山。

【鑛】鑛夫 シヤウ カネほり、坑夫。

【鑛】鑛石 シヤウセキ 岩石中に雜り又は單獨に

【鑛】結晶して地中より産出する金屬塊。

【鑛】鑛毒 シヤウドク 鑛山の採鑛又は製煉など

【鑛】の時に發生する毒。

【鑛】鑛泉 シヤウセン 鑛物質を含有する湧水。

【鑛】鑛脈 シヤウミヤク 地中にある鑛物の道筋。

【鑛】鑛區 シヤウク 政府より鑛物の採掘を許さ

【鑛】れたる一定の地域。

【鑛】鑛石落 シヤウセキトドレ

【鑛】鑛石をその採掘

【鑛】場から下位の坑

【鑛】道に落下して車

【鑛】に横込む便利のため設ける装置。

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし



(落石鑛)

【鑛】て強き貌

【鑛】鑛金 シヤウキン トうるはしい黄金(鑛)金を

【鑛】とかすこと 注意(鑛)れきんと讀むは誤り

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。



(子 鑛)

【鑛】漢 吳 シヤウ 鑛物を産出する山。

【鑛】鑛夫 シヤウ カネほり、坑夫。

【鑛】鑛石 シヤウセキ 岩石中に雜り又は單獨に

【鑛】結晶して地中より産出する金屬塊。

【鑛】鑛毒 シヤウドク 鑛山の採鑛又は製煉など

【鑛】の時に發生する毒。

【鑛】鑛泉 シヤウセン 鑛物質を含有する湧水。

【鑛】鑛脈 シヤウミヤク 地中にある鑛物の道筋。

【鑛】鑛區 シヤウク 政府より鑛物の採掘を許さ

【鑛】れたる一定の地域。

【鑛】鑛石落 シヤウセキトドレ

【鑛】鑛石をその採掘

【鑛】場から下位の坑

【鑛】道に落下して車

【鑛】に横込む便利のため設ける装置。

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】鑛質 シヤウシツ 漢 シツ かなし

【鑛】漢 サク サウ

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【鑛】鑛鑛 シヤウキヤク ひかりあきらかなる貌。

【門跡】モシヤキ 宇多天皇が剃髮して仁和寺に入らせ給ひしを御門の跡と稱してより法親王の住職として居給ふ寺院の稱となる。日本願寺の俗稱。

【門閥】モンバツ 家がら、門地。する物、表札。【門標】モンベリ 姓名などを書きて門に標示。【門閥】モンエツ 門地に同じ。【門資】モンシ 前に同じ。【門衛】モンエイ もんばん、門者。【門鑑】モンカン 門を出入する許可證。【門松】カドマツ 新年を祝して戸々の門頭にたてかざる松。「ちがひ、無關係者。【門外漢】モンダウイカン 門外の男子、はたけ。【門徒宗】モントシユウ 俗に一向宗のこと。【一門】モンイチ 私門。【里門】モンリ 權門。【師門】モンシ 寒門。【旌門】モンシ 牙門。【天門】モンテン 高門。【黃門】モンワウ 橋門。【名門】モンメイ 盛門。【突門】モンツツ 師門。【勳門】モンコン 興門。【鐵門】モンテツ 素門。【邑門】モンイフ 桑門。【出門】モンシュツ 沙門。【風門】モンフウ 水門。

【門】漢サン 門をとざす横の棒、吳セン くわんぬき。【一畫】

【閃】漢吳 一ひらめく、又ひらめらんと見える。身をかはし避ける貌。【閃光】センクワウ びかんとひらめく光。【閃電】センデン いなづま、いなびかり。【閃影】モンエイ ひらめくかげ。【三畫】

【閉】漢ヘイ 一とざす、とづ、とちる、ふさぐ、しめる。かくす、おほふ、しまる、ふさがる、又それ等のこと。やめる、事を終へる、すます。かぎのあな、かぎあな。ゆだめ。【同訓異義】とづ。【封】はとちむの意。【杜】はとちてたふさぐの意。【緘】は糸で袋の口をとづる如く封束するの意。【鎖】は錠をおろす、鍵をかけるの意。

【閉】漢ヘイ 一とざす、とづ、とちる、ふさぐ、しめる。かくす、おほふ、しまる、ふさがる、又それ等のこと。やめる、事を終へる、すます。かぎのあな、かぎあな。ゆだめ。【同訓異義】とづ。【封】はとちむの意。【杜】はとちてたふさぐの意。【緘】は糸で袋の口をとづる如く封束するの意。【鎖】は錠をおろす、鍵をかけるの意。

【閉】は門をとざす、戸をしめるの意。【闔】は両びらきのとびらをとざす意。【閉口】ヘイコウ 口を利かぬ、ものをいはぬ。返答につまる、又屈服する、弱りきる、ひらにあやまる。【閉門】ヘイモン 門をしめる。徳川時代士人に對する刑罰。【閉店】ヘイテン 店をしまふ、商賣をやめる。【閉息】ヘイシツ いきをこらす、極めて静かなる貌。「の成立を解く。【閉會】ヘイクワイ 集會をやめる、散會、議會。【閉鎖】ヘイサ ちふさぐ。【閉塞船】ヘイサクセン 敵艦の出動をふせぐ爲に其港口などに沈める船。【閉戸先生】ヘイコウセンセイ 門を閉ちて世の中と絶ち讀書のみに耽ける人のこと、もと三國時代の孫敬のあだ名。【開閉】ヘイヘイ 開閉。【凍閉】ヘイトウ 凝閉。【掩閉】ヘイエン 蔽閉。【禁閉】ヘイキン 重閉。【閉】漢吳 一もん、村の門。むら、とりまく垣。【問】國字 一つかへる、さしきはりがある、とどこほる(滯)

ふさがりつまる、食物がもたれる、胸がつまる。つかへ、さしきはり。【問】二〇五頁の問を見よ。【四畫】

【開】漢吳 一ひらく、カイ 一ひろがる、あける、又ひろげる、あく。口さとる、啓發する。一はじめ、おこす、又はじまる、おこる。一のびる、のべる。一道が出来る、通ずる、新たに田畑をつくる、花がさく、文明になる。一數學にて乗根を求めること。一國訓ひらく(良くなる、發展する、集會などを閉ぢる)ひらける(かたくなでない、さばけてゐる)【同訓異義】ひらく

【啓】は知らぬことを教へらるゝの意。【廓】は小さき物を大きく廣げるの意。【拓】は次第におしてのけひらくの意。【披】は兩方へかけわけける意。【排】は手にておしあけおしのける意。【發】は開に同じ、但開は緩、發は急。【辟】は開に同じ。【開】は門戸をあけるの意。【關】は門をあけ、又土地を開くの意。【開】は知れぬことを明白にするの意。

【開口】カイクウ 一ものを言ふ、くちをひらく。【開山】カイサン 一新たに寺をつくる、又一宗一派の祖師、開基。或事を創始した人。【開化】カイカク 一人智又は物事がひらけす。【開拓】カイタク 荒地をひらくこと、土地を生産的に利用すること、開墾。【開明】カイメイ 文物人智等が開け進むこと。【開卷】カイワン 一書物のあけはじめの所。【開始】カイシ 一或る事柄の始まること。【開放】カイハツ 一罪をゆるしにがす。門戸などをあけはなす、轉じて外國人の出入を自由にすること。一東縛制裁等を除き人民一般に自由を與へること。【開門】カイモン 門戸を開く。【開封】カイフウ 手紙等の封を切り開くこと。【開城】カイジョウ 城を敵に明け渡す。【開缺】カイケツ 官吏が其職を去ること。

【開展】カイテン 一ひろげること。のべること。【開眼】カイガン 一佛道の眞理をさとる。佛像を造つたとき僧の行ふ儀式。【開陳】カイチン 申しひらき、申し述べる。【開帳】カイチャウ 厨子をひらき公衆に佛像を拜ませること。【開票】カイヒョウ 投票數を調べて投票の結果を見るため投票函をひらくこと。【開通】カイツウ 一ひらくとほる、開き通す。【開閉】カイヘイ あけたて、開くと閉ぢる。【開港】カイコウ 一港を開く。港をひらき外國との貿易を許す、又其港。【開設】カイセツ 物事を始めまうける。【開基】カイキ 一或物事をはじめ。【開始】カイキ 一或物事をはじめ。【開國】カイコク 一國土を建てはじめ。【開發】カイハツ 一封を切りひらく。知識をひらかせる。荒地をひらく。【開催】カイサイ 集會などを催すこと。【開落】カイラク 花の咲く事と散ること。【開運】カイウン 幸運に向ふ。「を開始する。【開業】カイゲツ 一仕事を始める。【開説】カイセツ 申し上げる。【開戦】カイセン 戦争を始める、又戦争がは

【關家】カウカ うちゅう、全家、舉家。

【關國】カウコク 一國残らず、舉國。

【關關】カウヘキ とちるとひらく。

【關】漢 チン ①うかゞふ(覬)②頭 吳 トン を出す貌③突き入る

【關入】チンニラ あばれこむ、もぐりこむ、 不意に乗り込む。

【關】一一六九頁の關を見よ。

十一畫

【關】漢 クワン ワン 吳 ケン エン

【關】漢 クワン ワン 吳 ケン エン

【關】漢 クワン ワン 吳 ケン エン

【關】漢 クワン ワン 吳 ケン エン

【關】漢 クワン ワン 吳 ケン エン

【關】漢 クワン ワン 吳 ケン エン

【關】漢 クワン ワン 吳 ケン エン

【關】漢 クワン ワン 吳 ケン エン

合ふ義。

【與】は預に同じ。

【關】は氣にかゝるの意。

【預】はその事に立ちまじる義。

【關心】クワンシン こゝろにかゝる、心配。

【關白】クワンハク 天下の政治をあづかりき

く、又其職の人。

【關中】クワンチュウ 今の陝西省。

【關西】クワンセイ 支那にては函谷關以西の地、日本にては近江國逢坂山以西の地。

【關東】クワントウ 支那にては函谷關以東の山東地方、又遼東一帯の地方をもいふ。日本にてはもと近江國逢坂山以東の地方、後世に至り相模國箱根山以東の地方、關八州。

【關門】クワンモン ①せきしよ、地境の門②

【關係】クワンケイ ①かゝりあふ②男女が情

【關涉】クワンセツ 其事に關係する、干涉。

【關稅】クワンゼイ 輸出入品に課する税金。

【關與】クワンユ 其事にたづさはる、相談に

のる、關係する。「事のかなめ。

【關鍵】クワンケン ①くわんぬきとかぎ②物

【關節】クワンケツ ①骨のつぎめ②要路の人

【關聯】クワンレン 關係する、かゝりあふ。

【關鎗】クワンヤク くわんぬきと銃前。「じ。

【關東八州】クワントウハチシュウ 關東の①②③④⑤⑥⑦⑧に同

【關稅同盟】クワンゼイドウメイ 數國が條約を結

びその經濟區域を一括して他國との通

商に對して同一の關稅を課する同盟。

三關クワン 内關クワン 五關クワン 天關クワン

司關クワン 古關クワン 門關クワン 武關クワン

海關クワン 荒關クワン 荊關クワン 間關クワン

距離クワン 陽關クワン 塞關クワン 鄉關クワン

榆關クワン 輕關クワン 機關クワン 儒關クワン

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

【關】漢 吳 のぞく(窺)うかゞ

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

阜(左)部

【防寒具】バウカンダ 寒氣を防ぐ用具の總稱

【防腐劑】バウフザイ 物の腐敗を防ぐ薬

【防風林】バウフウリン 風除の林。「を」を防ぐ法令

【防穀令】バウコクレイ 穀物の輸出若くは輸入

【過防】バウツ 猜防バウツ 法防バウツ 豫防バウツ

【隄防】バウツ 邊防バウツ 重防バウツ 關防バウツ

【阮】漢 アイ アク ①ふさがる

②けはしくせまき所 (塞)くるし

む日通路の塞がる土地(く)くるしみ(苦)

【阮〇坑】漢 吳 カウ ①あな(坑)

おとして殺す、あたにす(を)か(阜)

漢 吳 ゲン ①周代の

の甘肅省涇州の地) ②人の姓

【阱】漢 吳 セイ おとしあな(阱)

二三二頁の址を見よ。

【陞】漢 吳 ア フク

慣用音オ

①をか(口)よる(倚)たのむ(へ)つらふお

もねる(く)ま、曲隅(むね)棟(のき)櫓

【阿】漢 吳 ア フク

慣用音オ

①をか(口)よる(倚)たのむ(へ)つらふお

もねる(く)ま、曲隅(むね)棟(のき)櫓

【梵語】ア音のあて字①發聲の語又人

を呼ぶ時に親しみの意をあらはして上

につける語②阿難は佛弟子の名③女の

名に冠する敬稱

【阿父】アフ ①伯叔父を親しみて呼ぶ語

父を親しみて呼ぶ稱。「性の藥品

【阿片】アヘン けしの實の汁で製した麻酔

【阿兄】アケイ 自分の兄。「親しみて呼ぶ

【阿母】アボ ①母を親しみて呼ぶ稱②乳母を

【阿世】アセイ 世人におもねりへつらふ

【阿呆】アハウ たわけ、おろか、癡愚

【阿附】アフ へつらひしたがふこと

【阿伽】アカ 佛にたてまつる水、闍伽

【阿那】アナ たをやか、しなやか

【阿蒙】アモウ こどもの意

【阿漕】アコウ ①際限なく食りとる②古歌

【阿爺】アヤ 父を親しみて呼ぶ稱

【阿鼻】アビ 八大地獄の一、無間地獄

【阿諛】アユ おべつかを言ふ、へつらふ

【阿羅】アラ 深海の岩礁間に棲

む海魚で體は側扁で口は大

きく長さ三尺に達するもの

がある

【阿羅漢】アラク ①むすめ②漢の

武帝が望みたる女子の名③

美人又は藝者などをさしていふ語

【阿羅漢】アラク 佛敎

信者が其道を知り盡して到達する極

位、又其に達せし人

【阿列布】オリーブ 木犀

科の常綠喬木で地

中海の沿岸に産し

幹は一丈にあまり

葉は淡綠色で長楕

圓形をなし春白い花を開き果實からオ

リーブ油をつくり、枝は平和と充實の

徴象として用ひらる、オリーブ、橄欖

【阿房宮】アハウキウ 秦の始皇帝の建てたる

宮殿の名

【阿房鳥】アハウドリ 信

天翁ともいふ、南

海に棲む游禽類に

屬する鳥で體は大

きく翼は長く嘴端

は鉤状をなし前三趾は蹠を有す體色は

翼と尾とが白く他は黒色を呈し産卵期

には孤島に群居する

【阿修羅】アシュラ 争鬪を好む印度の鬼神

【阿堵物】アトブツ ①あつもの物、これ②錢の別名

【阿彌陀】アミダ 西

方淨土の佛陀②あ

みだくじ

【阿羅漢】アラク 佛敎

信者が其道を知り盡して到達する極

位、又其に達せし人

【阿彌陀】アミダ 佛敎

信者が其道を知り盡して到達する極

位、又其に達せし人

【阿萬餉】オマンガノ 徳川幕府時代に江戸市

中に流行せし一種

の餉賣、なまめか

しき女装をなし、

聲色・身振ともに

女に扮したりし者

【阿房陀羅經】アホダラキョウ 小さい木魚を叩

いて早口に滑稽なことを語り歩いて錢

を乞ふもの

【陀】漢 タ

【陀〇】漢 タ

【陀字】漢 タ

①土地の高低ある貌②梵語「ダ」音のあ

て字

【陀羅尼】ダラニ ①衆徳を兼ね備へること

沙陀ガ 伽陀ガ 佛陀ガ 首陀ガ

韋陀ガ 曼陀ガ 闍陀ガ 樂陀ガ

頭陀ガ 彌陀ガ 阿彌陀ガ

【附】漢 フ

【付】漢 フ

①つく、ちかづく、親しむ、よりつく、つ

きしたがふ②加へる、ます、つけたす

よせる、わたす、あはせまつる(合祀)

【同訓異義】つく

【付】はつけわたすの意

【傳】は附に同じ

【即】は直ちにそれにつくの意

【就】は從ひ近づくの意

【粘】は糊にてねばりつけるの意

【著】はびつたりとつくの意

【附】はつけるの意、附屬

【附子】フシ 毒草の一、ぶす、とりかぶと

【附加】フカ 附益に同じ。「用をする細則

【附則】フツク 主たる法規に附屬し補充作

【附言】フゲン つけ足していふことば

【附近】フキン あたり、もより、近邊

【附和】フワフワ 一定の意見なくかるくし

く他人の言説に賛成すること

【附託】フタク あづける、まかせ

【附益】フエキ つけたす、ましかへ

【附帶】フタイ つき添ふ、つきともなふ

【附與】フイ さづける、あたへ

【附會】フクワイ こじつける、こじつけ

【附著】フチャク つく、ねばりつく

【附箋】フセシ はりがみ、つけふだ

【附録】フロク ①主たる文書に附屬したる

記録②新聞雜誌などの號外としてつけ

加へた紙面又は記事等。「所屬、從屬

【附屬】フゾク つきしたがふ、その部下、又

【附加税】フカヘイ 他の税金に對し一定の割

合を以て附加徴收する税金

【附帯犯】フタイハン 或犯罪に附帯せるもの

として裁判する犯罪

【下附】カカ 比附カカ 内附カカ

【來附】ライ 依附ライ 和附ライ

【肺附】ハイ 承附ハイ 長附ハイ

【便附】ベン 送附ベン 倚附ベン

【寄附】キ 疏附キ 高附キ

【懷附】ワイ 歸附ワイ 新附ワイ

【阻】漢 ショ ①けはし(險)又その

しむ(苦)②は(阻)③(阻)④(阻)⑤(阻)⑥(阻)

だてる(隔)⑦(阻)⑧(阻)⑨(阻)⑩(阻)⑪(阻)

(恃)己の力などをほこりたのむ⑫(阻)

て、だてる(隔)

【同訓異義】なやむ 阻・惱・悞其他の用

法は四〇一頁の欄を見よ

【同訓異義】へだつ 阻・隔・障其他の用

法は一〇八頁の欄を見よ

【阻止】ソレ さまたげ止める、くひとめる

【阻害】ソガイ 妨げ害す

【阻隔】ソカク 距離の甚だ遠きこと

【阻礙】ソガイ じやまする、へだて妨げる

【阻礙】ソガイ 險阻ソガイ 深阻ソガイ

【阻礙】ソガイ 疑阻ソガイ 妨阻ソガイ

【阻礙】ソガイ 天阻ソガイ 猜阻ソガイ

【阻礙】ソガイ 漢 吳 ①つみ(隄)②ため

【阻礙】ソガイ ヒ ハ いけ(貯水池)③さか



(餉萬阿)



(羅阿)



(陀彌阿)



(鳥房阿)



(布列阿)

はしとりさる、のぞく、のける、きよめる、はらふ。①新たに官職を授ける。②わりさん、除法。

【除日】チヨジツ おほみそか、おぼつごもり。

【除月】チヨゲツ 十二月の異名。

【除去】チヨキヨ 除きさる。

【除外】チヨダワイ 一般の規定より取りのける。

【除地】チヨチ 神社佛閣などの境内の免租地。

【除名】チヨノイ ①仲間よりとりのける。②組合員たる資格を剥奪する。

【除服】チヨフク いみあけ、喪服をぬぐ。

【除夜】チヨヤ ①節分の前夜。②おほみそかの夜。③冬至の前夜。

【除隊】チヨタイ 現役兵が服役を免除される。

【除籍】チヨセキ 戸籍より其名をのぞき去る。

【除目】チモク 官吏を任免せし報告書。昔大臣以外の官位を進級せし公事。①書よもくと讀むは誤り。

【除幕式】チヨマクシキ 銅像等の建物工事が竣工せし時始めて其上蓋を取除く儀式。

【陝】セシ(狭) 漢吳 ①地名(今の河南省の)

【陝】セシ(狭) 漢吳 ①地名(今の河南省の)

【陞】シヨウ 漢ケイ ①山脈の切目、山所。②さか(陞)かまどぎはの鍋釜などを載せる所。

【陞】シヨウ 漢ケイ ①山脈の切目、山所。

【陞任】シヨウニン 官職をのぼせ進める。

【陞叙】シヨウシヨ 勳位をのぼせす。

【陞等】シヨウトウ 官等をのぼせる。

【陞進】シヨウシン 地位がのぼりす。

【陟】シヨク 漢チヨク ①讀むは吳り。②のぼる、其地位につく、高きにあがる。

【陟】シヨク 漢チヨク ①讀むは吳り。

【陟】シヨク 漢チヨク ①讀むは吳り。

【陟】シヨク 漢チヨク ①讀むは吳り。

【陪】ハイベ 漢ハイ 吳ベ ①主に付き従ふ、おとも、隨伴、又其者。②たすく(助)かさね(重)かさなる。

【陪】ハイベ 漢ハイ 吳ベ ①主に付き従ふ。

【陪】ハイベ 漢ハイ 吳ベ ①主に付き従ふ。

【陪】ハイベ 漢ハイ 吳ベ ①主に付き従ふ。

【陪侍】ハイベシ 君主の側にはべる。

【陪食】ハイベシヨク 貴人の御側に侍りて食事を共にすること、伴食。又その人。

【陪乘】ハイベシヤウ 貴人の御供をして車にのり。

【陪席】ハイベシキ 上位の人と同席すること。

【陪從】ハイベシヨウ おとも、又とも人。未だ昇殿を許されぬ樂人。「與すること」。

【陪審】ハイベシリン 刑事訴訟の審理に人民が參與すること。

【陪觀】ハイベシワン 貴人の御供をして共に物を見ること。

【陰】イン 漢イン ①易學上の語(陽の對にして靜・閉・下・伏・藏・柔・後・地・女・臣・夜・月などの消極性又は女性の意味を有す)。

【陰】イン 漢イン ①易學上の語(陽の對にして靜・閉・下・伏・藏・柔・後・地・女・臣・夜・月などの消極性又は女性の意味を有す)。

【陰】イン 漢イン ①易學上の語(陽の對にして靜・閉・下・伏・藏・柔・後・地・女・臣・夜・月などの消極性又は女性の意味を有す)。

【陰】イン 漢イン ①易學上の語(陽の對にして靜・閉・下・伏・藏・柔・後・地・女・臣・夜・月などの消極性又は女性の意味を有す)。

【陰】イン 漢イン ①易學上の語(陽の對にして靜・閉・下・伏・藏・柔・後・地・女・臣・夜・月などの消極性又は女性の意味を有す)。

【陰】イン 漢イン ①易學上の語(陽の對にして靜・閉・下・伏・藏・柔・後・地・女・臣・夜・月などの消極性又は女性の意味を有す)。

【陰】イン 漢イン ①易學上の語(陽の對にして靜・閉・下・伏・藏・柔・後・地・女・臣・夜・月などの消極性又は女性の意味を有す)。

【陰】イン 漢イン ①易學上の語(陽の對にして靜・閉・下・伏・藏・柔・後・地・女・臣・夜・月などの消極性又は女性の意味を有す)。

②後宮の女官が天子に進御すること。

【陰府】インフ 地獄の閻魔大王の座。

【陰風】インフウ 冷たき風、又冷やかなる風。

【陰門】インモン 女子の陰部。

【陰柔】インジウ 表面柔順にして腹が黒い。

【陰計】インケイ 陰謀に同じ。

【陰約】インヤク 秘密にて約束す、又其約束。

【陰陰】インイン 曇るさま、又暗き貌。

【陰森】インシン うすぐらく物さびしい。

【陰極】インキョク 電氣又は磁氣の消極。

【陰部】インブ 男女の生殖器。

【陰莖】インキョウ 男子の生殖器。

【陰密】インミツ 心の奥底の知れぬこと。

【陰陽】インヤウ 陰と陽、消極と積極。

【陰雲】インウン あまぐも、雨をふくむ雲。

【陰痿】インシ 男子生殖器の無力なること。

【陰曆】インレキ 太陰曆の略語。

【陰德】イントク ①世間に知られぬ善行。②地の徳、婦徳又婦道。

【陰霖】インリン 空がくもりて雨の降ること。

【陰謀】インボウ 秘密のたくらみ。

【陰險】インケン 内心に悪心を抱く。

【陰燐】インリン おにび、鬼火、陰火。

【陰翳】インエイ 薄暗きかげ、又くもり。

【陰濕】インシツ ①秋の蟲がま、蟬蟻。②じめじめ、濕氣あること。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。



(線射放格陰)

封じた所にして今の河南省開封府以東から安徽省亳州地方に至る地。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

【陳】チン 漢チン ①ならべぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する。

開陳 カイ チン 鋪陳 カン
鋪陳 カン 羅陳 ラン 列陳 レツ 雙陳 シュウ
方陳 ハウ チン 部陳 ブ 圓陳 ユン 營陳 ヨウ
漢 ハン 吳 ウ
 ①をか、さゝぎ(天子の御墓)②しのぐ(凌)あなどる(侮)をかす(侵)③次第に衰へ傾く
 ④土地が次第に低くなる

を造る(衰)しく思ふ、気が寒く(よ)るこぶ(悦)⑤陶器を造る如く人を教へ導く(馬)を走らせる貌⑥人名(舜の臣)⑦和らぎ樂しむ貌⑧列をなして進む貌。
陶工 タウ コウ ①陶はせとものを焼く、治は金屬を鑄る②物を作りなして處置する③人才を養成して其性格をきたへる
陶陶 タウ タウ ①和樂のさま②並びゆくさま③馬を走らすさま。「もの。」

陸 リク 漢 リク 吳 ロク の現はれてゐる廣き土地、歩行又は車馬などにて交通し得る地②をどる(跳)③體文等には六の代用として用ひらる④碌に通ず⑤連續する貌⑥凹凸高低のなきこと

陵夷 リョウ イ をか、次第に低くなつて終に平地となる如く物事が段々衰頽する
陵虐 リョウ ケツ あなどりいぢめる。
陵辱 リョウ ジョク 侮りはづかしめる。
陵域 リョウ イキ 御陵の地さかひ。
陵墓 リョウ ボ 天子又皇族のお墓。
陵駕 リョウ カ 人をしのぎこえる。
陵谷之變 リョウ コク ノ ヘン 高き岡が變じて深き谷となり又谷が變じて岸となる意、世事の變遷のきはまりなき形容。
陵雲之志 リョウウンノシ ①雲をしのぐ程の志②世俗に超脱する心③高き位置に上り進まんとする心。

陶 タウ 漢 タウ 吳 トウ ①すまもの、すま、せともの②せともの
陶器 タウ キ ヤキもの、せともの、すま
陶然 タウゼン 心地よく酒などに酔ふ貌。
陷 カン 漢 カン 吳 ケン ①おとしあな、人を欺く計略②おちいる、くづされる、やぶられる、はまる
陷没 カン ボツ おちいる、攻め落さる。
陷阱 カン セイ ①獸などを捕へる爲に掘る穴、おとしあな②人を欺く手段。
陷穽 カン セイ 前に同じ。
陷溺 カン ナク ①穴に落ち水におぼれる②虐げ苦しめる③酒色にふける。
陷落 カン ラク ①城がおちいる②自然の變化により土地が俄かに低くなる③おちこむ、はまりこむ。

陸地 リクヂ ぐが、をか、くがぢ。
陸兵 リクヘイ 陸上の兵士、陸軍の兵。
陸相 リクシヤウ 陸軍大臣の別稱。「軍隊」
陸軍 リクグン 陸上の軍隊、又陸戦に當る
陸海 リクカイ ①くがとらみ②陸地にして大海の如く産物に富む地。
陸稻 リクタク をかば、畑に植ゑつける稻。
陸産 リクサン 陸地に生ずる産物。
陸棲 リクセイ 地上に生息する、又その物。
陸路 リクロ ぐがぢ、陸上の道。
陸運 リクウン 陸路にて物をはこぶこと。
陸戦 リクセン 陸上の戦争。
陸難 リクナン ①光りかぢやきてまばゆく見えるさま②入り亂れて雜れるさま。
陸絨 リクジュウ つながり續く貌。
陸陸 リクロク ぐづ／＼せる貌。

陶 タウ 漢 タウ 吳 トウ ①すまもの、すま、せともの②せともの
陶器 タウ キ ヤキもの、せともの、すま
陶然 タウゼン 心地よく酒などに酔ふ貌。
陷 カン 漢 カン 吳 ケン ①おとしあな、人を欺く計略②おちいる、くづされる、やぶられる、はまる
陷没 カン ボツ おちいる、攻め落さる。
陷阱 カン セイ ①獸などを捕へる爲に掘る穴、おとしあな②人を欺く手段。
陷穽 カン セイ 前に同じ。
陷溺 カン ナク ①穴に落ち水におぼれる②虐げ苦しめる③酒色にふける。
陷落 カン ラク ①城がおちいる②自然の變化により土地が俄かに低くなる③おちこむ、はまりこむ。

陸 リク 漢 リク 吳 ロク の現はれてゐる廣き土地、歩行又は車馬などにて交通し得る地②をどる(跳)③體文等には六の代用として用ひらる④碌に通ず⑤連續する貌⑥凹凸高低のなきこと

陸地 リクヂ ぐが、をか、くがぢ。
陸兵 リクヘイ 陸上の兵士、陸軍の兵。
陸相 リクシヤウ 陸軍大臣の別稱。「軍隊」
陸軍 リクグン 陸上の軍隊、又陸戦に當る
陸海 リクカイ ①くがとらみ②陸地にして大海の如く産物に富む地。
陸稻 リクタク をかば、畑に植ゑつける稻。
陸産 リクサン 陸地に生ずる産物。
陸棲 リクセイ 地上に生息する、又その物。
陸路 リクロ ぐがぢ、陸上の道。
陸運 リクウン 陸路にて物をはこぶこと。
陸戦 リクセン 陸上の戦争。
陸難 リクナン ①光りかぢやきてまばゆく見えるさま②入り亂れて雜れるさま。
陸絨 リクジュウ つながり續く貌。
陸陸 リクロク ぐづ／＼せる貌。

陸海軍 リクカイグン 陸軍と海軍。
海陸 カイ リク 水陸 リクキ 廣陸 リクワウ 蕪陸 リクワン
西陸 セイ リク 雙陸 シュウロク 北陸 ホクリク
漢 ハン ソウ 吳 ス ①すま(陶)②慣用音スウ 正月の異名
地名(孔子の生れし所)
陬 ソウ 陰曆正月の異名。
陬邑 ソウ イ かつたひなか、へんぴ。
陬僻 ソウ ヒキ 遠い片田舎。

陽言 ヤウゲン 表面をいつはつていふ。
陽炎 ヤウエン かげろふ、遊絲。
陽鳥 ヤウニョウ 日の異名
陽氣 ヤウキ ①萬物が將に動かんとし又生ぜんとする氣②氣のはしやくこと③時候、氣候。
陽春 ヤウシュン ①春の時節②春の陽氣が萬物を發育することにちなみ恩澤仁惠等に喩へ用ゐる語③高尚な音曲の名。
陽報 ヤウハウ あらにはに來るむくひ。
陽報 ヤウハク 積極の意、又電氣の陽の極
陽曆 ヤウレキ 太陽曆の略。
陽德 ヤウタク 萬物を生長發達せしめる徳
陽親 ヤウシン うはへのみのしたしみ。
陽明學 ヤウメイガク 明の王陽明の唱へたる知行合一を主とする學問。
開陽 カイ ヤウ 晩陽 ヤウバン 春陽 ヤウシュン 重陽 ヤウチュウ
天陽 テン ヤウ 精陽 ヤウセイ 斜陽 ヤウシャヤウ
悠陽 ユウ ヤウ 類陽 ヤウライ 太陽 ヤウタイ 朝陽 ヤウチャウ
夕陽 セキ ヤウ 青陽 ヤウセイ 昭陽 ヤウシャウ 極陽 ヤウキョク
秋陽シュウ ヤウ 炎陽 ヤウエン 孟陽 ヤウマウ 仲陽 ヤウチュウ
九陽クウ ヤウ 山陽 ヤウサン 陰陽 ヤウイン 端陽 ヤウタン

隆 リウ 漢 リウ 吳 ル ①たかし(主に中央の高きにいふ)位又身分が尊い②さかんなり(盛)さかんにす③たかめる、たかくす④たつとぶ
同訓異義 たかし 隆・崇 高其他の用法は一六五頁の高を見よ。
隆車 リウシャ 大きくして高き車。
隆昌 リウシャウ 隆盛に同じ。
隆起 リウキ ①たかし、又たかまる。大なるめぐみ、大恩。
隆恩 リウオン 盛んなると、又榮えると。
隆盛 リウセイ 盛んなると、又榮えると。
隆隆 リウリウ ①聲の大なる貌②勢ひの盛んなるさま。「へること。」
隆替 リウタイ 時勢の盛んなること、衰
隆運 リウウン 盛んなる運勢。
隆鼻 リウビ たい鼻。
隆準 リウジュン 鼻柱の能く通つた人相
隆興 リウキョウ 物事が盛んにおこる、又物事の盛んなること。



(鳥陽)

陽 ヤウ 漢 ヤウ 吳 ヨウ ①易學上のにして動・開・上・現・剛・前・天・男・君・晝・日など積極性又は男性の意味をあらはすもの②ひ、太陽③ひなた(日向)④きた(北)川の北⑤みなみ(南)山の南⑥明かなる貌⑦得意なる貌⑧うはべだけ、あらはに⑨男子の生殖器⑩十月の異稱⑪電氣又磁氣の積極
同訓異義 いつはる 陽・偽・詐其他の用法は九八頁の高を見よ。
陽木 ヤウボク 春夏の候に生茂する樹木。
陽月 ヤウゲツ 陽曆十月の異名。

隅 コ 漢 グ 吳 コ ①すま、慣用音グウ はて、は

隅 コ 漢 グ 吳 コ ①すま、慣用音グウ はて、は

【隆額】リョウガク 天子の御額、龍額。
【隈】クマ 漢ワイ ①くま、水曲、水が岸に曲り入る所又山がまがり入り込む所 ②國訓くま(物の陰の闇き所、わだかまり、くもり氣、色が相接觸する所、光と影と接合する所、役者の顔の色どり)



【隊】タイ 漢タイ ツキ ①くみ(伍)くみあひ、兵士のくみ、數多の人の整列するもの ②おとす(墜)おとす ③前に同じ ④軍隊の隊列。
【隊長】タイチヤウ 軍隊の長、團體の長。
【隊列】タイレイ 列つ、ならび。「る商人」
【隊商】タイシャウ 隊を組みつて沙漠を往來す
武隊 大隊 小隊 中隊
伏隊 伍隊 兵隊 歩隊
軍隊 後隊 馬隊 陣隊
部隊 全隊 前隊 騎隊

【階】カイ 漢吳 ①きだはし、はしご ②物事の案内手引 ③梯子をかける ④物事のこごち、はじまり ⑤官等の順序 ⑥樓の層を數へる語
【階上】カイジヤウ 二階の上。
【階位】カイイ 官職などの等級。
【階序】カイジヨ ①きざはし、だん ②差別。
【階級】カイキヤウ ①あがりだん ②しな、だん。
【階段】カイダン だんばしご、はしごだん。
【階梯】カイテイ ①はしご、だん ②いごち、てびき ③階梯と書くは誤り。
【階級意識】カイキヤウイシキ 有産者と無産者との生活を區別する社會的意識。
【階級闘争】カイキヤウドウサウ 有産者と無産者との社會生活上のあらそひ。
土階 文階 武階 位階

【隍】ウワウ 漢ウウ エイ 城のからぼり
【隋】スイ 漢タ ヌキ ①おつ(墜) ②朝の名、初め隋といひ文帝楊堅が南北朝を混一するに及び隋と改め四帝三十九年を経て唐に禪りしもの)
【隄】テイ 二三七頁の堤を見よ、

てわける ①傳染病患者を別所にうつし置き他に傳染することを防ぐこと。

【隕】イン 漢イン オン ①おとす(墜落)おつ、うしなふ(喪)そこなふ(損) ②たふす(殞)たふる、命を失ふ ③はじ(幅)ひろさ、まるみ(員)
【同訓異義】 おつる 隕・墜・落其他の用法は八九一頁の落を見よ。
【隕石】インシキ 空中より落ち来る石、流星の地に落ちくるもの。
【隗】クワイ 漢クワイ ①たかし(高)慣用音 クワイ ②人名
【隘】アイ 漢アイ アク ①けはし(險) ②せまし(狭)せまききたなし、心がせまい ③ふさぎ
【同訓異義】 せまし 隘・狹・窄其他の用法は六三三頁の狹を見よ。
【隘巷】アイカウ せまきちまた。「護境兵」
【隘勇】アイユウ 臺灣にて土人より募集した

【隙】キキ 漢ケキ 吳キヤク 慣用音ゲキ ①注 ②俗に隙に作るは非なるも一般に俗字として用ひらる ③すき、ひま、あな(穴)てすき、あはひ ④なかつたがひ
【隙地】キキチ 空き地。
【隙間】キキカン ①すき、すま。 ②決隙 ③寸隙
【隙】キキ 二三九頁の塙を見よ。

【際】サイ 漢サイ ①しほ、吳サウをり、まぎは、其場合、あひだ、あはひ、あひめ ②まじはり ③かぎり、きは、はて ④であふ、其機会にあふ
【際涯】サイヤイ ①し、はて。 ②であふ。
【際會】サイクワイ ちやうどあふ、たま ③際限 ④サイゲン ⑤はて、かぎり、きはみ。
【際物】サイモノ 入用のまぎはにのみ賣る品物、ばあたりもの。
雲際 天際 交際 涯際
海際 水際 分際 邊際

【隔】カク 漢カク ①へだつ、しきる、ふさぎ(塞) ②うとんず、親しまぬ ③へだる、遠ざかる、うとい ④へだて、へだより、又それ等のこと ⑤すてに(已)
【同訓異義】 へだつ
【間】カク ①はすきまをこしらへる義。
【阻】カク ①は山川や道路等の隔たるに用ふ ②はさ、へへだつる義。
【障】カク ①は中しきりを入れるの意。
【隔月】カクゲツ ①月おき、なか一月おき。 ②一日おき、なか一日おき。
【隔心】カクシン ①隔意に同じ。
【隔世】カクセ ①遠き時代、又別な世の中。
【隔地】カクチ ①隔りたる土地、地をへだつ。
【隔年】カクネン ①年をへだつ、年が違ふ ②一年おき、なか一年おきのこと。
【隔夜】カクヤ ①ひとばんおき。「おく」
【隔週】カクシュ ①一週間おき、なか一週間を遠くかけはなれる。「けぬ」
【隔意】カクイ ①うちとけぬ心、心がうちとかはりばん。
【隔障】カクザウ ①とぼざけへだてる、へだ

【障】ショウ 漢ショウ ①ふさぎ ②吳サウ ③(塞) さふ(支)おほふ、へだつ ④さかひ、へだて、しきり ⑤まもり、とりて ⑥さはる、さはり、じやま、つかへる ⑦あぜみち、つつみ(隄) ⑧屏風、ついたて
【同訓異義】 へだつ 障・隔・阻其他の用法は一一〇八頁の隔を見よ。
【障子】ショウジ ①建具の一、からかみ、ふすま ②あかり障子。
【障泥】ショウヂ ①馬具の一、銜と馬の脇腹との間に垂れて泥の附著を防ぐもの、あふり。
【障碍】ショウガイ ①じやま、さまたげ ②障害と書くは誤り。
【障蔽】ショウヘイ ①さふ、おほひ、又おほふ。
【障圍】ショウイ ①かこひ、かこむ。
【障壁】ショウヘキ ①障塞 ②しきりのかべ。
【障碍物】ショウガイブツ ①さまたげ遮るもの
【障泥烏賊】ショウヂウサイ ①烏賊の一種、その周辺に肉の縁あること恰も馬具の障泥に似たるよりこの名あり之れを乾



してスルメとなすとさば頗る美味。
 守障^{シユ} 屏障^{ヘイ} 保障^ホ 步障^{シヤウ}
 肉障^{ニク} 堤障^{テイ} 藩障^{ハン} 土障^ド
 邊障^{ヘン} 堡障^{ハウ} 罪障^{サイ} 業障^{ゴフ}

十二畫

【隣】^{リン} 漢吳
 【鄰】^{リン}
 【隣】^{リン}

となり、連接せる物事又は所、きんじよ、ちかく、又つれとなりす、となる、連接す周代の行政区劃の名にして五家の稱車のとゞるく音の形容【隣比】^{リンヒ} となり、ちかく【接近】^{チキン} ちかく、又きんじよ。
 【隣交】^{リンカウ} 近いところとの交際。
 【隣家】^{リンカ} となりのいへ。
 【隣保】^{リンボ} きんじよの家、又其人。
 【隣陸】^{リンボク} ちかづきしたしむこと。

【墮】^ト 漢
 【頽】^ト 漢
 【頽】^ト 漢

は誤りくづす(頽)くづる、又其ひびき柔順なる貌(頽)つかる(疲)やむ(病)【墮】^ト 二四一頁の墮を見よ。
 【墮】^ト 二四二頁の墮を見よ。

十三畫

【隨】^{ズイ} 漢
 【隨】^{ズイ} 漢
 【隨】^{ズイ} 漢

易の卦の名
 【同訓異義】したがふ 隨・從・順其他の用法は一三六頁の順を見よ。【隨一】^{ズイ} 多くもの、内第一に位す【隨分】^{ズイブン} ずこぶる、よほど、なかなか【あたりまへ】、無論【身分相當】^{ズイブン} 【隨手】^{ズイシュ} つかいて、後からすぐに【手あたりしだい】、手の動くまゝに。【隨行】^{ズイコウ} 隨從に同じ。
 【隨身】^{ズイシン} 一つき
 まとふ、又とも、と
 もびと【護衛兵】
 攝政關白などの護衛として朝廷より賜はりし供人。
 【隨伴】^{ズイバン} 同伴す、同道す、つれだつ。
 【隨時】^{ズイジ} をり、その時どき【時にしたがひて適宜にする】
 【隨從】^{ズイジュウ} おとも、隨行、附き従ふ。【隨處】^{ズイチュ} こ、かしこ、到る所。



(身隨)

【隨喜】^{ズイキ} 喜びて信仰する。
 【隨筆】^{ズイヒツ} 筆の進むにまかせて書き記したるもの、漫筆、漫録。
 【隨意】^{ズイイ} 氣まかせ、心のまゝ。
 【隨德寺】^{ズイタクジ} かけおち、逐電【從事】の仕事を捨て、逃げる事。
 【隨意契約】^{ズイイケイヤク} 請負工事・物品の購入の際等に公入札の手續によらず自由の相手を選びて取引する契約。
 伴隨^{ズイバン} 委隨^{ズイイ} 迎隨^{ズイグイ} 追隨^{ズイツイ} 續隨^{ズイジツ} 夫唱婦隨^{フカウフズイ}

【險】^{ケン} 漢吳
 【峻】^{ケン}
 【峻】^{ケン}

けはし(險)あぶない(危)腹がくろい又それ等のこと【きはどし】、冒險である【不時の難儀】
 【險阻】^{ケンソ} 平易でない、けはしい。
 【險要】^{ケンヤウ} けはしく要害よき土地。
 【險峻】^{ケンケン} 峻しくして高し。
 【險惡】^{ケンアク} 道がけはしい、又形勢がよく【險道】^{ケンダウ} けはしき道。「ない。前に同じ。
 【險難】^{ケンナン} けんなん、あぶない。
 姦險^{ケンケン} 窮險^{クウケン} 峻險^{ケンケン} 天險^{テンケン} 絶險^{ケツケン} 阻險^{ソケン} 夷險^{イケン} 隘險^{アイケン}

危險^{ケン} 屯險^{チュン} 艱險^{ケン} 冒險^{ケン}
 輕險^{ケイケン} 浮險^{フケン} 奇險^{キケン} 猜險^{サイケン}
 【隧】^{スイ} 漢
 【隧】^{スイ} 漢

トンネル、地中をくりぬいて造りたる道【まるぶ(轉)】
 【隧路】^{スイロ} あなみち、隧道。「誤り。
 【隧道】^{スイダウ} トンネル 隧 隧道と書くは

十四畫

【隱】^{イン} 漢
 【隱】^{イン} 漢
 【隱】^{イン} 漢

かくす、おぼふ(蔽)かばふ、秘密にす、外部に現さぬ【かくる(匿)】にげかかれる、世をすてる、世間に遠ざかる、又その人【隱事】、秘密【かくれたる所】、奥ぶかき道理【あはれむ、いたむ】なぞ【謎】^メ くるしむ(困)【かき、低き牆】^{カキ} による(寄)もたれる(凭)【おもくし】^{オモクシ} き貌、又盛大なるさま【やすらか(安)】^{ヤスラカ} おだやか(穩)
 【同訓異義】^{ドウクニイギ} かくる
 【匿】^{イン} はにげ隠れるの意。
 【潛】^{イン} は水底にひそみ隠れるの義。
 【秘】^ヒ はひめかくすの義。
 【藏】^{サウ} は物を收めて蓄ふるの義。

【隱】^{イン} はかくれて見えぬ意。
 【同訓異義】^{ドウクニイギ} いたむ 隱・傷・悼其他の用法は三九二頁の悼を見よ。
 【隱士】^{インシ} 隱者に同じ。
 【隱地】^{インヂ} ①おんでん、官府の帳面につけおちて脱税の土地【隱居すべき所】
 【隱宅】^{インタク} ①隱居せし人の住宅、隱居所【妾宅】。
 【隱忍】^{インニン} 心に藏して忍ぶ、表に現は【隱私】^{インシ} ないしよごと、秘事、秘密。
 【隱見】^{インケン} 隱顯に同じ。
 【隱居】^{インキョ} ①世に出ぬ、世事と關係を絶つ、世にかくれる【戸主が自由意志により一定の條件の下に戸主たる地位より身を退くこと】。
 【隱者】^{インジャ} 世を見すてたる人、隱士。
 【隱約】^{インヤク} ①しかとわからぬ【くるしみてなんぎする】意味がおくぶかい。
 【隱退】^{インタイ} 世間より身をひく、世事に【隱栖】^{インセイ} かくれすむ。「關係せぬ。
 【隱棲】^{インセイ} ①秘しかくす【めあかし、隠棲】^{インセイ} 隱栖に同じ。「探偵。
 【隱然】^{インゼン} おもくしき貌。
 【隱遁】^{イントン} 世事をさげのがれる、隱世。
 【隱微】^{インビ} ①かくれてよく表はれぬこと【人の氣づかぬ微妙なる所】。

【隱語】^{インゴ} など、謎。
 【隱徳】^{イントク} 人に知られぬ善行。
 【隱匿】^{インソク} 虚言を以て財産をかくす。
 【隱慝】^{インソク} かくれたる悪事。
 【隱蔽】^{インペイ} かくしおぼふ。
 【隱顯】^{インケン} 隠れること、あらはれること、又かくすとあらはす。
 【隱坊】^{インボウ} ①はかもり、墓守【火葬】。
 【隱君子】^{インクニシ} ①世をのがれたる賢者【菊の異名】。
 【隱花植物】^{インカワクブツ} 雌雄兩蕊を有して花なく、胞子を生じて繁殖する植物。
 逸隱^{イツイン} 箱隱^{コウイン} 退隱^{タイイン} 民隱^{ミンイン}
 幽隱^{ユウイン} 蔽隱^{ヘイイン} 逃隱^{トウイン} 伏隱^{フツイン}
 陰隱^{インイン} 秘隱^{ヒイン} 深隱^{シンイン} 側隱^{ソクイン}
 卑隱^{ヒイン} 吏隱^{リイン} 痛隱^{ツウイン} 姦隱^{ケンイン}

【躋】^{セイ} 漢
 【躋】^{セイ} 漢
 【躋】^{セイ} 漢

【躋】^{セイ} 漢
 【躋】^{セイ} 漢
 【躋】^{セイ} 漢

【隴】^{リョウ} 漢
 【壠】^{リョウ} 漢
 【壠】^{リョウ} 漢

【雅遊】ガイク 詩文などを作り又雅樂などを弄ぶ遊び、風流なるあそび。○ふだんに交際を好むこと。「の別名」

【雅號】ガガウ 文人墨客等の用ゐる文藝上の別名。

【雅趣】ガシユ 雅致に同じ。

【雅樂】ガラク 雅曲に同じ。

【雅懷】ガクワイ 風流なる懐ひ。「にかける」

【雅鑒】ガカン 人の見ることの敬語、お目

高雅ガウ 方雅ハツ 詳雅シヤツ 典雅ガン

端雅ガン 妍雅ガン 古雅コ 清雅セイ

敦雅ト 都雅ト 和雅ワ 温雅ラン

寛雅クワン 淡雅タン 麗雅レイ 儒雅ジュ

風雅フウ 文雅ブン 舒雅ジュ 博雅ハク

【集】

漢 シフ あつまつま 吳 ジフ る、つど

ふ、より合ふ。○そるふ(揃)なる(成)○あつむ、あはす。○をさめる(治)やすんず(耕)○とりて、國境の城壁。○詩文を集めたるもの

【同訓異義】 あつまる 集・聚・纂其他の用法は八三六頁の聚を見よ。

【集中】 シフチュウ 詩文集等の篇の中にあつめる、まんなかに寄り集まる。

【集古】 シフコ 古き物事を集めて新らしき

【集成】 シフセイ 古き物事を集めて新らしき

完全なる一つのものに纏める。【集注】 シフチュウ 一つ所にあつめる、一所に集まる。○集註に同じ。

【集配】 シフハイ 集めること、くばること。【集註】 シフチュウ 諸家の註釋を集めたもの

【集會】 シフクワイ 多人数の集り。「そのこと

【集散】 シフサン 集めると散らす、あつまる

【集輯】 シフシツ 材料等を蒐集する。「とちる

【集議】 シフギ 集まりて相談する。

【集團】 シフダン 集まりて相談する。

【集權】 シフケン 権力を一所にあつめ行ふ。

烏集ウ 雲集ウン 懷集クワイ 收集シウ

安集アン 詩集シ 歌集カ 雨集ウ

霧集ム 群集グン 叢集ソウ 和集ワ

構集コウ 句集ク 招集ショウ 召集ショウ

【雇】

漢 コ 鳩の一種 吳 ク やとふ、

賃金を出して人を使ふ、人をたのみつかふ。○やとひ、又やとはれし人。○國訓やとひ(官署・會社などにて定員以外に使用する人員)

【雇人】 コジン 一定の報酬を受け他人の爲に精神的又は肉體的の勞務に服する者

【雇兵】 コヘイ 給金を出して雇ひし兵士。

【雇使】 コシ 雇ひ使ふこと。

【雇從】 コジユウ ともびと、おとも。【雇員】 コキン 雇はれし人。【雇傭】 コヨウ 賃金を出して人を雇ふ。【雇聘】 コヘイ 禮を以て人を迎ふ。【雇傭契約】 コヨウケイヤク 一方は勞役に服し他方は之れに對する報酬を拂ふことを約する契約。

【推】 五三四頁の推を見よ。

【焦】 六三九頁の焦を見よ。

【雉】

漢 チ 野禽の一、尺度の名(一丈四方を堵、三堵を雉といひ主として城の牆をはかるにいふ)

○かき(城牆)○牛の鼻繩

【雉鳩】 キジバト 鳩の一種で頭・頸は葡萄鼠色にて背部は赤茶色と黒色とをまじへ腹部は炭黒色で胸部は赤茶色。



(雉鳩)

【雉】 漢セン 吳ゼン 漢セン 吳ゼン 漢セン シュン 漢セン シュン 漢セン シュン 漢セン シュン

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ



(牛)

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

と○すぐる(傑)又其人○人の姓

【雌】 漢吳 ①めん、めす、め(主) ②に鳥類の女性) ③にぶ

い、よわい、め、しい、又其もの○おとる(劣)まける 「かどみ居る」

【雌伏】 シフク 人の下に立つ、低き位置にとる

【雌雄】 シユウ ①めすとをす ②かちまけ

【雌黃】 シクワウ 砒素と硫黄より成生せし一種の黄土にして薬用又は顔料に供す。

【雌藥】 シズキ 完全なものは子房・花柱・柱頭の三部から成り

花の中央にあつて

果實を結び種子を生ずるもの。

【雍】 漢 ヨウ ①むつま ②じい(陸)

やはらぐ。○おほふ、ふさぐ。○天子の學校(地名支那九州の一、今の陝西・甘肅・青海地方)

【雍言】 ヨウゲン おだやかなる言葉。

【携】 四四八頁の携を見よ。

【確】 七三五頁の確を見よ。

【稚】 七五五頁の稚を見よ。

【六畫】

【奪】 二六六頁の奪を見よ。

【截】 四一六頁の截を見よ。

【維】 八〇四頁の維を見よ。

【翟】 八二九頁の翟を見よ。

【雕】 漢吳 ①わし(鶯の大き) ②玉を彫刻する又一般に彫刻すること

【彫】 テウ 玉を彫刻すること

【彫琢】 テウタク 玉をきざみ、かく。○詩文等を構想作成すること。

【彫鏤】 テウロウ 彫りちりばむ。

【彫刻家】 テウコクカ 彫りもの師。

【奮】 一一一七頁の奮を見よ。

【奮】 二六六頁の奮を見よ。

【錐】 一〇八二頁の錐を見よ。

【霍】 一一二三頁の霍を見よ。

【九畫】

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙】 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ 漢サウ 吳ソウ

【雙眼】サウガン 前に同じ。
 【雙棲】サウセイ ①ならびすむ。夫婦の共同。
 【雙親】サウシン ①ふたおや、父と母。「生活」。
 【雙翼】サウヨク ①左右のつばさ。
 【雙璧】サウヘキ ①一對の玉、轉じて兩々相並びて美しいもの。
 【雙子葉】サウシニフ ①種子が發芽する時二枚の葉を出す植物。
 【雙眼鏡】サウガンキヤウ ①二つの短き望遠鏡を並べて組みたて同時に兩眼にて見ることが得るめがね。



(葉子雙)

【雛】ス 漢吳。俗音スウ。もと雛の子の稱、後弘く鳥の子の意。味に用ふ、ひな、ひよこ。ひながた、原物を縮少して作る模形。鳥の名、鳳凰の類。小兒、こども、一人前にならぬ者。國訓ひな(てく、人形)。

【雜巾】ザフキ 掃除用の布。
 【雜木】ザフボク 種々の樹木のまじる立木。
 【雜仕】ザフシ 雜用を勤める人の古稱。
 【荒雜】ザフワ 參雜ザフ。
 【濫雜】ザフラン 繁雜ザフ。
 【塵雜】ザフジン 混雜ザフ。
 【卑雜】ザフヒ 煩雜ザフ。
 【粗雜】ザフソウ 糾雜ザフ。
 【雜形】ザフケイ 書式ひながた。
 【雜妓】ザフキ 小妓、半玉。
 【雜僧】ザフソウ 僧、小僧、半僧。
 【雜祭】ザフサツ 三月三日の節句の行事。
 【雜・雜】ザフ 漢吳。俗音スウ。もと雛の子の稱、後弘く鳥の子の意。味に用ふ、ひな、ひよこ。ひながた、原物を縮少して作る模形。鳥の名、鳳凰の類。小兒、こども、一人前にならぬ者。國訓ひな(てく、人形)。

漢サフ 吳ゾフ 慣用音ザフ。ザフ。①まじはる、まじる、はさまる、いりくむ、みだれる(亂)又それ等のさま。まじふ、はさまる、煩はしい、こまかい(細)【雜用】ザフヨウ ①こまかいした用事。こまかい費用。②又民間の史傳小説類。【雜史】ザフシ ①一事一時を記録せしもの。【雜品】ザフピン ①こまかいした品物。文體の一、細かい事柄を考究證明するもの。【雜考】ザフカウ 種々の事柄を考究證明するもの。【雜多】ザフタ ①しゆん、さまん。【文書】。【雜色】ザフシキ ①いりまじる色。しもべ奴隷の類。昔藏人所に附屬して雜役に服せし者の稱、又走り使の仲間。【雜言】ザフゴン ①せけんばなし、雜談。いりまじる言つて罵る、あくたれぐち。【雜魚】ザフイロ ①いりまじつた小魚類。【雜役】ザフヤク ①こまかいしき様々の仕事。【雜居】ザフキョ ①いりまじりる。外國人が内地人にまじり住む。「歌俳句など。【雜詠】ザフエイ いろ／＼の物事を詠じた詩。【雜念】ザフネン 種々雜多なるかんがへ。【雜答】ザフダツ 多數の人がこみあふ、ひとごみ。【雜路】ザフロ 諸種のことを書き記して集む。【雜草】ザフサウ 各種の草、又作物以外の草。

【雜書】ザフショ ①何くれとなく色々書き載せた書物。分類のむつかしき書物。【雜記】ザフキ ①世に知れぬ事柄などを記録したもの。色々を記したるもの。【雜務】ザフム 雑多のこまかいせる務め。【雜貨】ザフカウ 種々の商品、いろ／＼の貨物、特に小間物類のこと。【雜報】ザフバウ いろ／＼の事件の報知。【雜稅】ザフゼイ 各種のこまかい税金。【雜話】ザフワ ともやまの話、せけん話し。【雜殺】ザフコク 五穀以外の穀物。【雜業】ザフコウ 一定せざるさまん／＼の仕事。【雜感】ザフカン 各種各様のかんじ。【雜誌】ザフシ ①雜多なる物事を書きのせた冊子。定期に發行する冊子。【雜種】ザフシュ ①さまん／＼の種類。異種族の間に生れたるもの、あひのこ。異種族を罵りていふ語。【雜駁】ザフバク 雜多にして纏まらざること。【雜說】ザフセツ 雜多なる事柄をときあかす又その文章。「たるかきもの。【雜錄】ザフロク いろ／＼のこを取り集めたるもの。【雜聞】ザフワン 人が込合ひて騒がしき説。【雜談】ザフダン 雜話に同じ。【雜纂】ザフサン ①折にふれて種々書き集めたるもの。雜家に同じ。

【雞】ケイ 漢吳。家禽の一、には殺したる雞の脛骨又は眼を占ふ法。
 【雞公】ケイコウ 牡のにはとり。
 【雞母】ケイボ 牝のにはとり。
 【雞合】ケイガフ 雞をあはせ開はすこと、とりあはせ、けあはせ、獸合、闘雞。
 【雞卵】ケイラン 雞のたまご。
 【雞林】ケイリン ①もとは新羅の別稱、後世にては朝鮮全體の稱、雞林八道。
 【雞盲】ケイマウ 夜あけがた、とりめ。
 【雞明】ケイメイ 夜あけがた、曉天。
 【雞姦】ケイカン 男子を姦すること、男色。
 【雞冠】ケイクワン ①雞のとさか。草の一種、莖の高さ二三尺、黃・白・赤等の花が咲く、雞頭。にはとりの毛にて飾つた冠。
 【雞鳴】ケイメイ ①雞のなき聲。あかつき、天明。②戈の一名。

天明。②戈の一名。
 【雞頭】ケイトウ 草の一種、雞のとさかに似た花をつけるよりこの名あり。
 【雞冠石】ケイクワンシキ 砒素の硫化物にして顔料又は花火に用ゐる。
 【雞卵主義】ケイランシユイ 國家が健全に發達する要件を雞卵の形にたとへて言つた語で中流階級が最も大きく上流階級が之につき下層階級は微弱であらねばならぬとの説。
 水雞ケイスイ 火雞ケイカ 天雞ケイテン 伏雞ケイフク
 竹雞ケイチク 牝雞ケイヒン 卑雞ケイヒ 食雞ケイシキョウ
 軍雞ケイジン 家雞ケイカ 豚雞ケイテン 野雞ケイヤ
 辟雞ケイヘキ 鳩雞ケイコウ 群雞ケイグン 雞雞ケイキキ
 漢ケイ 吳ケイ ①めぐり、回轉。②崑崙は子規の異名。地名。漢代の郡名にして今の四川省寧遠府。

【離】リ 漢吳。離はなる、かる、わかれる、絶える、去る、とほざかる、不和になる。かゝる、あふ(遇)つ(著)ならぶ(兩)つらぬ(陳)つらなる(わ)かつ(分)雲の長くつゞく貌。しげる(茂)徳が實つて垂れるさま。①避ける、親しまぬ、散りはなれる。②易の卦の名。藥草の名、せんきゆう。たちきる、取りきる。
 【離心】リシン ①そむきはなる心。
 【離合】リガフ ①はなれると逢ふ。
 【離別】リベツ ①人と遠くはなれてわかれる。②夫婦の縁をきる。
 【離杯】リハイ ①別れのさかづき、別杯。
 【離坂】リハン ①はなれそむく。
 【離宮】リキョウ ①宮城外に設けたる御殿。
 【離婚】リコン ①夫婦のえんをきる、離縁。
 【離散】リサン ①ちり／＼ばら／＼になる。
 【離間】リカン ①人のなかをさきはなす。
 【離陸】リリク ①陸地を離れる。②出帆、又飛行機・飛行船の出發。
 【離愁】リシウ ①人と別れる悲しみ。
 【離落】リラク ①はなれ去る、はなれおちる。
 【離縁】リエン ①夫婦又は養子等の縁をきる。
 【離隔】リカク ①離れ隔たる、離しへだてる。

【離】リ 漢吳。離はなる、かる、わかれる、絶える、去る、とほざかる、不和になる。かゝる、あふ(遇)つ(著)ならぶ(兩)つらぬ(陳)つらなる(わ)かつ(分)雲の長くつゞく貌。しげる(茂)徳が實つて垂れるさま。①避ける、親しまぬ、散りはなれる。②易の卦の名。藥草の名、せんきゆう。たちきる、取りきる。
 【離心】リシン ①そむきはなる心。
 【離合】リガフ ①はなれると逢ふ。
 【離別】リベツ ①人と遠くはなれてわかれる。②夫婦の縁をきる。
 【離杯】リハイ ①別れのさかづき、別杯。
 【離坂】リハン ①はなれそむく。
 【離宮】リキョウ ①宮城外に設けたる御殿。
 【離婚】リコン ①夫婦のえんをきる、離縁。
 【離散】リサン ①ちり／＼ばら／＼になる。
 【離間】リカン ①人のなかをさきはなす。
 【離陸】リリク ①陸地を離れる。②出帆、又飛行機・飛行船の出發。
 【離愁】リシウ ①人と別れる悲しみ。
 【離落】リラク ①はなれ去る、はなれおちる。
 【離縁】リエン ①夫婦又は養子等の縁をきる。
 【離隔】リカク ①離れ隔たる、離しへだてる。

【離礎】リセウ 暗礎にのりあげたる船艦がそこをはなれて浮ぶこと。
 【離籍】リセキ 戸籍面から名籍を省き去る
 【離群索居】リグンソクキョ 知人朋友と離れられるになりて獨居すること。
 合離ガフ 乖離リクワイ 陸離リク 別離ベツ

難

【難】ナン 漢ダン ①かたし、
 ②又そのこと③かたしとす、かたんず
 ④うれ(愛)わざはひ、心配⑤いくさ
 ⑥せむ(責)なじる、さがめる⑦せむべき
 ⑧欠点、おちど⑨ふせぐ(防)はむ⑩互に相敵すること⑪木の葉の茂るさま
 ⑫はむかる

【難工】ナンコウ むづかしい工事。
 【難句】ナンコ 難解の文字を使つた文句、
 又解釋しにくき文句。「しめ練磨する。
 【難行】ナンギョウ 佛道修行のため身心を苦
 【難所】ナンジヨ 通行し難いところ。
 【難局】ナンキョク きりぬけるに至難な場合
 【難治】ナンヂ ①をさめにくい②病氣が全癒
 【難事】ナンジ ①むづかしき事柄。「しにくい
 【難易】ナンイ ①むづかしきこと、たやすき
 こと②【註】なんえきと讀むは誤り。
 【難物】ナンブツ もてあまし物、むづかしや。
 【難破】ナンパ 難船に同じ。

【難處】ナンジヨ 難所に同じ。
 【難訓】ナンクン 漢字の訓の讀みにくいもの
 【難船】ナンセン 船舶が進行中に海上の災害
 のために針路を誤り又は暗礁等にのり
 あげて破損覆すること。
 【難産】ナンサン 出産の重いこと。
 【難問】ナンモン ①むづかしき問題、又難しき
 事をたづねる。
 【難詰】ナンキョ 缺點を非難してなじる。
 【難解】ナンカイ わかりにくきこと。
 【難儀】ナンギ ①たへがたきこと、むづか
 しきこと②まづしいこと、貧困。
 【難澁】ナンジツ さゝはりありて行きしづる
 こと、むづかしきこと。
 【難題】ナンダイ ①むづかしき問題②出来ぬ
 ことを強ひて人にいひがゝりする。
 【難關】ナンクワン ①通過するにむづかしい
 又關所②きりぬけにくき場合、又は位
 地③困しみなやむ。「がたき要害の地。
 【難攻不落】ナンコウワラク 攻めにく、陥落し
 難難ナン 奇難ナン 危難ナン 急難ナン
 多難ナン 阻難ナン 險難ナン 憂難ナン
 外難ナン 論難ナン 辯難ナン 患難ナン
 寇難ナン 家難ナン 禍難ナン 厄難ナン
 大難ナン 兵難ナン 盜難ナン 火難ナン

【耀】ヤウ 十二畫 八三一頁の耀を見よ。
 【耀】ヤウ 十四畫 七八八頁の耀を見よ。
 【耀】ヤウ 十五畫 九八一頁の耀を見よ。
 【耀】ヤウ 十七畫 七八九頁の耀を見よ。

雨部

【雨】ウ 漢ウ ①あめ、あ
 雨ふる②ふる(降)ふらす
 【雨下】ウカ ①あめがふる②雨の如く降り
 そゞ。 「陽曆二月十八日頃。
 【雨水】ウスイ ①あまみづ②二十四氣の一
 【雨中】ウチュウ 雨のふる中。
 【雨天】ウテン あめふり、あまぞら。
 【雨衣】ウイ あまぐ、みの、かつば、外套類。
 【雨注】ウチュウ 雨の降ることく注ぎ下る。

【雨季】ウキ あめの多くふる季節。
 【雨具】ウキ あまぐ、雨衣。
 【雨後】ウゴ あまあがり、雨の降りし後。
 【雨師】ウシ あめを降らす神。
 【雨脚】ウキョク あまあし、雨足。
 【雨氣】ウキ あまもやう、雨意。「と雪。
 【雨雪】ウキセツ ①雪をふらす、ふるゆき②雨
 【雨量】ウリヤウ 雨が地面に降り注ぎし分量
 【雨集】ウシツ あめの如く多くあつまる。
 【雨意】ウイ あめのふるけあひ、雨もやう。
 【雨滴】ウテン ①あまだれ、雨點。
 【雨餘】ウヨ 雨後に同じ。
 【雨龍】ウリョウ 龍の類にして角なく形がと
 かげに似たもの、あまよりう。
 【雨聲】ウセイ あめのふりそゞぐひゞき。
 【雨露】ウロ ①あめとつゆ②恩澤、めぐみ
 【雨濕】ウシツ あめふりとしめると。
 【雨降】ウメツ 雨虎ともい
 ふ海中に棲息し腹足類に
 屬する軟體動物で形はな
 めくじの如く鰓を右側に
 有し外套膜で掩ひ體に觸
 れる時は紫色の液を放つ。
 【雨曝】アマザシ あめにさらす、外界に露
 出し置く、放置す。
 【雨籠】アマゴモリ 雨の時家に籠つて居ること



(降雨)

【雨量計】ウリョウケイ 雨
 量をはかる機械で
 亞鉛や銅で製し漏
 斗形の蓋をつけ中
 央の小孔から雨水
 が入るやうにした
 もの。「事を晴天の日まで延ばす。
 【雨天順延】ウテンジュンエン 雨天の場合に催し
 【雨奇晴好】ウキキセウ 晴雨とも景色がよい
 齊雨ウツ 霖雨ウツ 長雨ウツ 時雨ウツ
 甘雨ウツ 苦雨ウツ 淫雨ウツ 梅雨ウツ
 甚雨ウツ 疾雨ウツ 瑞雨ウツ 宿雨ウツ
 白雨ウツ 暮雨ウツ 細雨ウツ 紅雨ウツ
 疎雨ウツ 深雨ウツ 法雨ウツ 猛雨ウツ
 急雨ウツ 雲雨ウツ 積雨ウツ 露雨ウツ
 風雨ウツ 雷雨ウツ 飛雨ウツ 快雨ウツ
 微雨ウツ 春雨ウツ 秋雨ウツ 驟雨ウツ



(計量雨)

【雪花】セツクワ ①雪を花に喩へし語②まつ
 しるなる花。「手燭、ぼんぼり。
 【雪洞】セツトウ ①風爐のおほひ②紙ばりの
 【雪客】セツカク 鷺の異名。
 【雪辱】セツジヨク はち又は汚れをすゞ。
 【雪冤】セツエン 無實の罪を晴らす、青天白
 日の身となる。「はきもの、せきだ。
 【雪駄】セツダ 草履の下に牛の皮を張つた
 【雪案】セツアン 晉の孫
 康が雪を燈火に代
 へて讀書したとい
 ふ故事、雪の机。
 【雪隠】セツイン ベンじ
 よ、かはや。
 【雪線】セツセン 一年中雪のたえぬ高所の限
 【雪月花】セツゲツカワ 雪と月と花。「界線。
 【雪花菜】セツクワナイ 豆腐のから、きらず。
 【雪合戦】セツガクセン 雪を投合ふあそび。
 【雪辱戦】セツジヨクセン 恥をそゞぎ名譽を恢
 復する爲めのたゝかひ。「の似像。
 【雪達磨】セツタルマ 雪にてこしらへし達磨
 【雪駄直】セツタナオシ 雪
 駄の破損をつくる
 ひ直すこと、又其
 業の人。
 【雪中君子】セツチュウジン 梅の異稱。



(直駄雪)

すむ獸の一にして貂に似て居る、雷鳴の時など村里に飛び出るといふ。

【電】 漢 デン ①いなびり、いなづま、②他人に對する敬語、雷の如く明らかにてらす、③電光の如くはやい、④宇宙に存する陰陽二種の勢力、電氣、⑤でんわ(電話)電信、電報

【電光】 デンクワ ①いなびり、②極めて迅速なることの形容、③すもと、なる装置【電池】 デンチ ①電力にて軌道を走らせる車、②非常に早く走る車

【電波】 デンパ 電氣の波動。【命令】 【電命】 デンメイ 電報にて命令を下す、又其【電柱】 デンチウ 電線をさへる柱。【電奏】 デンソウ 電報にて天子に申上げる。【電信】 デンシン 電報に同じ。【電訓】 デンジン 電報にて訓示する、又其訓示【電流】 デンリウ 導線を流動する電氣。

【電機】 デンキ ①いなづまの如く光るほこ。【電機】 デンキ 電力を使用する機械。【電氣】 デンキ 宇宙に存する陰陽二種の勢力にして電氣を生ずる原因。【電扇】 デンセン 電氣うちば、扇風機。【電報】 デンパウ 電信機によつて通ずる報知【電路】 デンロ 電氣仕掛けにて遠距離の人【電話】 デンワ 電氣仕掛けにて遠距離の人【電鈴】 デンレイ 電氣仕掛けにより反覆振動せしめて音を發する鈴。【電解】 デンカイ 電力にて物を分解する。【電線】 デンセン 電氣を導くはりがね。【電燈】 デンチュウ 電流の發熱作用によりて光を發せしめるあかり、電氣燈。【電撃】 デンゲキ いなづまの如く急激にうつ。【電馳】 デンチ 非常に早くかけること。【電壓】 デンアツ 二物體の電位の差、その單位をボルトといふ、普通は地球の電位を零とし帶電體の電位内を「地球と帶電體との間の電壓」といふ。【電覽】 デンラン 人が見ることの敬語。【電流計】 デンリウケイ アンペアメーターの



(計流電)



(計抗電)



(爐暖氣電)

【電載】 デンゲキ いなづまの如く光るほこ。【電機】 デンキ 電力を使用する機械。【電氣】 デンキ 宇宙に存する陰陽二種の勢力にして電氣を生ずる原因。【電扇】 デンセン 電氣うちば、扇風機。【電報】 デンパウ 電信機によつて通ずる報知【電路】 デンロ 電氣仕掛けにて遠距離の人【電話】 デンワ 電氣仕掛けにて遠距離の人【電鈴】 デンレイ 電氣仕掛けにより反覆振動せしめて音を發する鈴。【電解】 デンカイ 電力にて物を分解する。【電線】 デンセン 電氣を導くはりがね。【電燈】 デンチュウ 電流の發熱作用によりて光を發せしめるあかり、電氣燈。【電撃】 デンゲキ いなづまの如く急激にうつ。【電馳】 デンチ 非常に早くかけること。【電壓】 デンアツ 二物體の電位の差、その單位をボルトといふ、普通は地球の電位を零とし帶電體の電位内を「地球と帶電體との間の電壓」といふ。【電覽】 デンラン 人が見ることの敬語。【電流計】 デンリウケイ アンペアメーターの

こと、電流の單位であるアンペアを目盛の單位とした電流計、アンペア計又は略してアンメータともいふ。【電動機】 デンドウキ 電氣の力で運動を起させる機械。【電氣盆】 デンキボン 少量の電氣を蓄ふるに用ゐる輕便な器械。【電抗計】 オームケイ 導線に於ける抵抗のオーム數を直接に計り得る器械。【電光石火】 デンクワセキカウ 物事のうごきの非常にはやい形容。「とに喩へる語。【電光朝露】 デンクワウサキ 人生のはかないこと。【電氣暖爐】 デンキダシロ 電氣を利用して室内を暖める装置の暖爐、電氣ストーブ。【電氣療法】 デンキリョウハツ 電氣を利用して病氣を治療すること。【電氣工業】 デンキコウギヤ 電力を利用する諸【電】 漢 ハク ①いなびり、いなづま、②他人に對する敬語、雷の如く明らかにてらす、③電光の如くはやい、④宇宙に存する陰陽二種の勢力、電氣、⑤でんわ(電話)電信、電報

六畫

【需】 漢 シユ ①ほつすむ(索)②もとめ、要求③いりよう、又必要品④ためらふ(猶豫)⑤まつ(待)易の卦の名

【同訓異義】 もとむ 需・求・索其他の用法は五七九頁の求を見よ。

【需用】 ジユウ もとめ、いりよう、入用、必要、又必要なる品物。【需要】 ジユウ 前に同じ。【需給】 ジユキフ 次に同じ。【需要供給】 ジユウキョウキフ 入用なること、其求めに對してあてがふこと、又需用に應じて供給すること。

七畫

【震】 漢 震 ①ふるふ、おそれる(駭)ふるひおこす、ひびきわたる、雷が落ちる②うごかす、とどろかす、驚かす、おびやかす③いきほひ、勢威④大地のゆれ動く現象、ぢしん(地震)はらむ、たかぶる⑤易の卦の名【同訓異義】 ふるふ 震・衝・振其他の用法は二六六頁の奮を見よ。

八畫

【震悼】 シンタウ 天子のなげき。【震且】 シンゼン 印度にて支那を稱する語。【震死】 シンシ 落雷に撃たれて死す。【震災】 シンサイ 地震にてうけるわざはひ。【震怒】 シンダク 天子の御いかり。【震宮】 シンキウ 皇太子の御殿。【震害】 シンガイ 地震のために被る損害。【震天】 シンテン 天をうごかす、盛んな勢ひ。【震動】 シンドウ ①震ひ動く②震ひうごかす【震域】 シンキキ 地震を感じ得る範圍。【震震】 シンシン ふるふさま、盛んなさま。【震源】 シンゲン 地震の起點。【震搖】 シンエウ 震動の①に同じ。【震慄】 シンリツ 震ひをのこく。【震駭】 シンガイ 大いに恐れおどろく。【震撼】 シンカン 震動の②に同じ。【震蕩】 シンタウ 震動の②に同じ。「いに驚く【震驚】 シンキヤウ ふるひおどろかす、又大【震天動地】 シンテンドウチ 天をふるはせ地を動かす、勢力のさかんなること、又は音響の甚だ大なる形容。

【霽】 漢 霽 ①そら(空)②太陽の周【霽漢】 セウカン あをぞら、天空。【霽壤】 セウジヤウ あめつち、天と地、天地。

【霽】 漢 霽 ①そら(空)②太陽の周【霽漢】 セウカン あをぞら、天空。【霽壤】 セウジヤウ あめつち、天と地、天地。

【霽】 漢 霽 ①そら(空)②太陽の周【霽漢】 セウカン あをぞら、天空。【霽壤】 セウジヤウ あめつち、天と地、天地。

九畫

【霽】 漢 霽 ①刀劍の光りがひ【霽】 漢 霽 ①刀劍の光りがひ【霽】 漢 霽 ①刀劍の光りがひ

【霽】 漢 霽 ①刀劍の光りがひ【霽】 漢 霽 ①刀劍の光りがひ【霽】 漢 霽 ①刀劍の光りがひ

【霽】 漢 霽 ①刀劍の光りがひ【霽】 漢 霽 ①刀劍の光りがひ【霽】 漢 霽 ①刀劍の光りがひ

【霽】 漢 霽 ①刀劍の光りがひ【霽】 漢 霽 ①刀劍の光りがひ【霽】 漢 霽 ①刀劍の光りがひ

ぶ貌(草)の茂る貌(雲)の走り飛ぶさま
電光のきらめき光る貌(物事)の續く
さま(霜)のおくさま

【霽】**霽** 漢 テン しめる、う
【霽】**霽** 漢 トン ぼふ、恩

【霽】**霽** 漢 テン しめる、う
【霽】**霽** 漢 トン ぼふ、恩

【霽】**霽** 漢 テン しめる、う
【霽】**霽** 漢 トン ぼふ、恩

【霽】**霽** 漢 テン しめる、う
【霽】**霽** 漢 トン ぼふ、恩

【霽】**霽** 漢 テン しめる、う
【霽】**霽** 漢 トン ぼふ、恩

【霽】**霽** 漢 テン しめる、う
【霽】**霽** 漢 トン ぼふ、恩

【霽】**霽** 漢 テン しめる、う
【霽】**霽** 漢 トン ぼふ、恩

九畫

【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り
【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り

も(鬢)の白き形容、又其鬢(年)を
ふる、又年數(霜)は草木が枯死せしむ

る故きびしきことの形容に用ふ

【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り
【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り

【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り
【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り

【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り
【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り

【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り
【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り

【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り
【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り

【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り
【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り

【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り
【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り

【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り
【霜】**霜** 漢 吳 露の凍り

九畫

【霞】**霞** 漢 吳 光が空中の雲氣に映りて赤く照るもの
【霞】**霞** 漢 吳 光が空中の雲氣に映りて赤く照るもの

【霞】**霞** 漢 吳 光が空中の雲氣に映りて赤く照るもの
【霞】**霞** 漢 吳 光が空中の雲氣に映りて赤く照るもの

【霞光】**霞光** 漢 吳 朝や夕やけ等の雲氣の光

【霞洞】**霞洞** 漢 吳 仁人の居所(上皇の御所)

【霞衣】**霞衣** 漢 吳 舞衣の明らかなるはしき

【霽】**霽** 漢 吳 エイ雨と雪とまじり降る

【霽】**霽** 漢 吳 エイ雨と雪とまじり降る

【霽】**霽** 漢 吳 エイ雨と雪とまじり降る

【霽】**霽** 漢 吳 エイ雨と雪とまじり降る

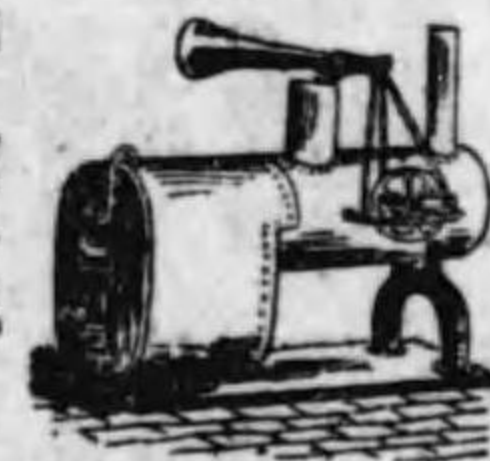
【霽】**霽** 漢 吳 エイ雨と雪とまじり降る

【霽】**霽** 漢 吳 エイ雨と雪とまじり降る

十畫

【霽】**霽** 漢 吳 エイ雨と雪とまじり降る

【霽】**霽** 漢 吳 エイ雨と雪とまじり降る



(霧)

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

十一畫

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【霧】**霧** 漢 吳 地上に

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【露】**露** 漢 吳 露の凍り

【霸道】ハタウ 武力を以て天下を治める道

【霸圖】ハト 覇者のはかりごと

【霸權】ハケン はたがしらの権力。「ん。

【霸王樹】ハツウジュ 熱地産の草の一、さぼて

【霹】漢ヘキ 霹靂ははたき、

【霹靂】ヘキキ 字解に同じ。

【霽】漢セイ 是る、はれる、心が

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽後】セイゴ 雨が上つた後、あまあがり。

【霽月】セイゲツ 雨あがりの月、雨後の月。

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【霽威】セイキ 薩張りときげんをなほす、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【雷】漢レイ ①たましひ、たま、

【靈前】レイゼン 死者のみたまの前、又神靈。

【靈泉】レイゼン ①すぐれたる泉、神泉②温

【靈時】レイジ 祭場、齋庭。「泉の賞詞。

【靈尾】レイビ ①雨の意志が知らず識らず

【靈屋】レイウ 靈廟に同じ。

【靈活】レイクワツ 精神のはたらき。

【靈祠】レイシ ぼこら、やしろ、神祠。

【靈氣】レイキ ①靈妙不思議なる氣②人に

【靈符】レイフ 靈験ある御札。

【靈鳥】レイタウ 不思議な鳥、くしき鳥。

【靈祭】レイサイ 死者の靈を祭ること。

【靈域】レイキキ 靈地に同じ。

【靈場】レイチャウ 靈地に同じ。

【靈腕】レイワン 不思議にして驚くべき手腕

【靈感】レイカン 神變不思議なる感應。

【靈瑞】レイズキ たえにしてめでたい兆候。

【靈殿】レイテン 靈廟に同じ。

【靈臺】レイダイ ①靈のあるうてな、即ち心

【靈魂】レイコン たま、たましひ②こころ、神

【靈魄】レイハク 前に同じ。

【靈夢】レイム 神佛の示したる夢。

【靈境】レイキキ 靈地に同じ。

【青年】セイネン わかもの、二十歳前後の人

【青衣】セイイ ①青色の衣服、古代賤者の

【青青】セイセイ ①草木の茂れるさま②あを

【青衫】セイサン ①青色の著衣②わかもの、

【青衿】セイキン ①學生の異名。

【青帝】セイテイ 春をつかさどる神。

【青春】セイシュン ①はる、春來る②年のわ

【青娥】セイガ 年若き美人。

【青眼】セイガン ①親しき人々に對する目つき。

【青萍】セイヒヤウ ①青きうき草②名劍の名。

【青陽】セイヤウ ①春の異名②天子の東堂。

【青雲】セイウン ①晴天の空、あをぐも②學

【青銅】セイドウ ①銅七分鉛三分の合金、か

【青磁】セイジ 淡綠色又は淡藍色の釉薬を

【青樓】セイロウ ①高位の人の住むたかどの

【青蠅】セイロウ ①遊女屋、妓樓。

【青囊】セイナウ ①あをばへ、悪むべき小人。

【青囊】セイナウ ①あをばへ、悪むべき小人。

【青囊】セイナウ ①あをばへ、悪むべき小人。

【靈】 【火】 【雷】 【需】

【靈】 一 二 一 頁の雷を見よ。

【火】 一 二 一 頁の雷を見よ。

【雷】 一 二 一 頁の雷を見よ。

【需】 一 二 一 頁の雷を見よ。

青部

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

【靄】 漢アイ ①靄は雲が盛んに

雨部 (十六—十七畫)

靄・靄・靄

青部

【青龍】セイリョウ ①四神の一にして東方を司る神。②蝦蛄の異名。「た紺青色」。

【青黛】セイタイ ①青の眉すみ。②眉すみに似る科の常緑喬木で幹は二丈餘に達す、花は雌雄異株で枝端に群り紅色の實を結んで居る。



(木青)

【青服】アラク 労働者のこと、労働者のきてるあざぎ色の仕事着より出たる言葉、菜ツ葉服。



(鶩青)

【青鷺】アヲサキ 鷺の一。種で所々に薄黒い斑點がある。②月毛の青味を帯びた馬の毛色。

【青雲志】セイウンシ 立身出世せんとする願望。

【青海波】セイカイハ 舞樂の曲名、又その時に用ふる装束の染模様。③「せいはい」と讀かは誤り。

【青箱派】セイタフハ ①女流文藝學の新人。②十八世紀の中葉、英國に起れる婦人運動の所謂新人が青色の靴下を用ひしより斯かる一派がブリュー・ストツキンガと呼ばれるに至る。

【青出魚】サシマ 軟鱗類の海魚で體の長さは一尺あまり細長くて丸く背は藍色、腹や横側は銀白色で横面に眞珠色の横條がある。

【青卓子】アヲチヨウ 高等官のテール掛が多く青色なるより高等官を呼ぶ隠語。

【青天白日】セイテンハクジツ ①快晴の時の天色。②明白なることの喩。③冤罪などのほれしこと。④青天白日の身となる。

【青天霹靂】セイテンレイキ ①寢耳に水。②突然に起る事變等をいふ語。

【青田賣買】セイテンバイバイ 稻作をその收穫前に植付のまゝにて賣買すること。



(魚串青)

汗青 善青 丹青 空青 淡青 水青 純青 碧青 田青 翠青 黛青 深青

【靖】セイ 漢 ①やす。②すんず、しづめをさむ。③はかる(謀)。④やすし、静かである。

【靖和】セイワ ①むつみやはらぐ。②【靖綏】セイスイ ①やすし、やすんず。

【靚】セイ 漢 ①よそほふ(装)め。②それ等のこと。③しとやか、化粧をする、の静かなること。④しづか(靜)。

【靚妝】セイサウ 化粧をして美しく飾る。②【靚粧】セイサウ 前に同じ。

【靜】セイ 漢 ①しづか(動)の對)おだやか、しとやか、音聲の無きこと、休止せること。②しづかに、しとやかに、おだやかに。③しづむ、しづまる、しづかにす、又しづかになる。

【靜女】セイジョウ 操正しき女、貞淑なる婦人。

非部

【非】ヒ 漢 ①ひがごと、②正しからざることをいふ。③しと認めること。④うちけし(非)の字、否定の意を示す。⑤しする(非)の字、否定の語、あらず(不)字の下には多く虚字を用ひ非字の下には主に實字を用ひる。⑥反語の意味をあらはす語、あらざる(無)。

【同訓異義】 ①非、誹、謗其他の用法は九六八頁の誹を見よ。

【非人】ヒニン ①癡疾、かたは。②こじき。

【非凡】ヒボン ①つねなみより勝れたること。②彼は非凡なる天才を有す。

【非役】ヒヤク 非職に同じ。

【非行】ヒコウ 不正なる行爲。「業の死」。

【非命】ヒメイ 天命ならざること、横死、非

【靜止】セイシ 止まりて動かぬ。

【靜水】セイスイ ①うごかぬ水、たまり水。②【靜坐】セイザ ①心をおちつけて坐す。②【靜かに坐る】。「實等をいふ」の靜かに坐る。

【靜物】セイブツ 動物の對にて器具・花卉・果

【靜舍】セイシャ 寺院、精舍。

【靜夜】セイヤ ①しづかなる夜。②【靜息】セイソク 静まり休む。

【靜話】セイワ 靜かに話す、又其話。

【靜脈】ジヤウミヤク 舊くなりし血液を心臟に送りかへす血流、又其血管。

【靜寂】セイジヤク しんとして静まり返る貌、ひっそりしてゐること。

【靜肅】セイシュク しづかにつゝしんで居る

【靜境】セイキョウ 靜かな所、閑散なる境地。

【靜養】セイヤウ 心身をおちつけて靜かに養

【靜聴】セイテイ ①しづかにきく。「生する」。

【靜劇】セイゲキ 舞臺に於ける動作よりも情調を主とする劇。

【靜謐】セイヒツ 天下に事なくよく治まる。

【靜謐】セイヒツ 靜謐にしておだやか。「る」。

【靜觀】セイクワン 心を落附けて物事を觀察す

【靜坐法】セイザハフ 身體を安らかにし氣息を調和して心身の健全を計る攝生法。

【靜物畫】セイブツガク 靜物を描きたる繪畫。

閑靜 セイケン 簡靜 セイケン 鎮靜 セイジン

【鞞】 この頁の鞞を見よ。

十一畫

【鞞】 漢 鞞・太鼓等の鞞の形容

十三畫

【鞞】 漢 鞞は今の蒙古地方に住せしえびすの部落

十五畫

【鞞】 漢 鞞はぶらんこ

【鞞】 漢 鞞は竹をいれる筒

【鞞】 漢 鞞は矢をいれる筒

【鞞】 漢 鞞は矢をいれる筒

韋部

【韋】 漢 韋はなめしがは

【韋】 漢 韋はなめしがは

【韋】 漢 韋はなめしがは

【韋】 漢 韋はなめしがは

【韋】 漢 韋はなめしがは

八畫

【韓】 漢 韓は井垣

【韓】 漢 韓は井垣

【韓】 漢 韓は井垣

【韓】 漢 韓は井垣

【韓】 漢 韓は井垣

【韓】 漢 韓は井垣

【韓】 漢 韓は井垣

【韓】 漢 韓は井垣

【韓】 漢 韓は井垣

【韓】 漢 韓は井垣

【韓】 漢 韓は井垣

【韓】 漢 韓は井垣

【韓】 漢 韓は井垣

【韓】 漢 韓は井垣

韭部

【韭】 漢 韭は草の名

【韭】 漢 韭は草の名

【韭】 漢 韭は草の名

【韭】 漢 韭は草の名

【韭】 漢 韭は草の名

【韭】 漢 韭は草の名

【韭】 漢 韭は草の名

【韭】 漢 韭は草の名

【韭】 漢 韭は草の名

【韭】 漢 韭は草の名

【韭】 漢 韭は草の名

【韭】 漢 韭は草の名

【韭】 漢 韭は草の名

【韭】 漢 韭は草の名

小強弱によつて違ふねいろ(音色)

【音波】 漢 音響の發する時周囲の空氣の波状に傳りゆく振動

【音便】 漢 語調の便宜上よりその音を

【音耗】 漢 おとづれ、たより

【音律】 漢 おとづれ、音の調子

【音信】 漢 おとづれ、音問

【音調】 漢 文字の發音と意味

【音容】 漢 文字の發音と意味

【音符】 漢 樂譜の中に用ゐる音の高低長短を示す全音乃至三十二分音の符號

【音問】 漢 たづね、おとづれる

【音階】 漢 二つの樂音の振動数の比

【音階】 漢 原音とオクターブとの間に

【音調】 漢 詩や文章の調子、又音樂のふしはし

【音義】 漢 音訓に同じ

【音樂】 漢 樂器にて音聲を程よく調和せしめ人の心を樂しませるもの

【音頭】 漢 數人集まつて同時に歌ふ時先登になりて發聲し全體の調子を揃へること、又その人

【音聲】 漢 ことおと、こわね

【音韻】 漢 ことおと、こわね

【音韻】 漢 ことおと、こわね

【音韻】 漢 ことおと、こわね

【音韻】 漢 ことおと、こわね

【音韻】 漢 ことおと、こわね

【音韻】 漢 ことおと、こわね

【音韻】 漢 おと、文字の音と韻

【音響】 漢 おと、ひびき

【音物】 漢 おくりもの、進物

【音博士】 漢 王朝時代の大學の教官

【音吐朗暢】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

【音吐朗々】 漢 おとらわちやう、音聲のほがらかなること、音吐朗々

音部

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【音】 漢 音は調子を計る具

【響音】キヤウオン 音響、ひびき。
 【響動】キヤウドウ どよめく、響きわたる。
 【響應】キヤウエイ 聲につれて響の發する如く他人の動作に應じて之を助けること。
 影響キヤウエイ 音響キヤウエイ 震響キヤウエイ 嬌響キヤウエイ
 鼓響キヤウエイ 弓響キヤウエイ 妙響キヤウエイ 樹響キヤウエイ
 管響キヤウエイ 吟響キヤウエイ 美響キヤウエイ 餘響キヤウエイ

頁部

【頁】漢ケツ ①かうべ(頭)かし又其を數へる語、ページ②國訓おぼがひ(漢字畫上の語、大貝)「の」。

【頁岩】ケツガン 粘土が凝固して成る水成岩

【頂】漢テイ ①いた(顛)てつべん、物の最も高き所②いた(戴)上に置く③國訓うける(もらふ、賜はる)

【頂上】チヤウジヤウ ①てつべん、いたゞき、最上
 【頂光】チヤウクワウ 佛の頂から發する圓光
 【頂拜】チヤウハイ 首を垂れて禮拜する。

【頂禮】チヤウレイ 古印度の最敬禮の式、長者の足下にひれふして拜する。
 【頂戴】チヤウタイ ①清朝にて官吏の等級を示す爲に其帽子の頂上につけし珠玉の徽章②受けいたゞく、頭にいたゞく
 もらふこと敬語。
 【頂門一針】チヤウモンイツシン 人の急所をとらへて痛切に戒めを加へる。
 【頃】漢ケイ 吳キヤウ

【頃】漢ケイ ①しばらく(少時)②面積百畝の稱、頃之は「しばらくあつて」或は「しばらくにして」等と訓ず③このころ、ころ、比時④そばだつ、かたむく(傾)⑤かた足

【頃田】ケイテン 四畝の田地。
 【頃歩】ケイホ 一步のはんぶん、かたあし。
 【頃者】ケイシャ ちかごろ、このころ、頃日。
 【頃刻】ケイコク しばらく、わづかの時間。

【頃】漢カウ ①くびす(項)②物事のこわけ、簡條③おほいなり(大)④分數の分子と分母又級數の各數、代數式にては多項式を組成する各單式のこと

【項目】カウモク ①多くの物を分類して之を品別に排列する時の語②事物の條件。
 【項領】カウリヤウ ①くび、大なるくびすち②要害の土地。
 【順】漢シユン ①從ふはぬ、道理にそふ、秩序を保つ、又それ等のこと②おとなし、柔順③よろこぶ、やすんじ樂しむ④ついて、次第

【同訓異義】したがふ
 【徇】は身を順ずして其事につき従ふ
 【從】は逆の反對だがはぬの意。
 【循】は順序よく物に添ひ行くの意。
 【率】は循に同じ。
 【遵】は率・循に同じ。
 【順】は逆の反對で何事にも眞直にゆきてさからはぬ意。
 【隨】はその通りにつき従ふ意。
 【順天】ジユンテン 天道にしたがひ服す。
 【順正】ジユンセイ 道にしたがひて正し。
 【順民】ジユンミン ①法令を守りすなほなる人民②民心に應ずること。
 【順守】ジユンシユ 道理に従ひて取りまもる
 【順次】ジユンジ ①次第、じゆんばん、秩序②じゆんをおふ、逐次。
 【順行】ジユンカウ ①じゆんをおひて進む②

したがひ行ふ③正當なる行動④遊星が西より東に向ふ運動。

【順序】ジユンジュ 順次の①に同じ。
 【順良】ジユンリヤウ 長上の命令にしたがひて柔順なること、すなほ、温順。

【順延】ジユンエン 期日を次第にのばすこと
 【順奉】ジユンポウ したがひ奉ずる。
 【順風】ジユンフウ ①おひて、おひ風②風の向きにしたがふこと。

【順逆】ジユンギャク 道理にしたがひ正道を守ること、邪道に入ること。
 【順路】ジユンロ ①みちじゆん。「氣候に應ず。
 【順氣】ジユンキ ①順當な氣候②氣に順ふ、
 【順當】ジユンタウ あたりまへ、當然。

【順境】ジユンキヤウ 萬事都合よく得意な地位
 【順調】ジユンテウ 物事の順序がよくととのひて狂ひの無きこと。「如くはからふ。
 【順應】ジユンエイ よく外部の事情に適する
 【順禮】ジユンレイ ①禮儀に従ふ②巡禮。
 【順風耳】ジユンフウジ 人に聞かれてはならぬ秘密事によく聞える耳。

歸順キクン 孝順キヤウ 温順ワン 柔順ジユン
 和順ワジュン 逆順ギャク 慈順ジ 六順リク
 恭順キヤウ 獎順キヤウ 奉順ホジュン 承順シヤウ
 將順シヤウ 謙順ケン 忠順チュン 信順シン
 附順フジュン 從順ジユン 婦順フジュン 健順ケン

【須】漢シユ ①ひげ(鬚)②とどまる、ひかへる(控)③必要を感ずること④決定の詞「すべからく何々すべし」と返り讀「しばらく」

【同訓異義】べし、須、可、當其他の用法は一八三頁の可を見よ。
 【同訓異義】まつ、須、俟、待其他の用法は三六九頁の待を見よ。
 【同訓異義】もとむ、須、求、索其他の用法は五七九頁の求を見よ。

【須臾】シユ しばらく、少時。
 【須臾】シユ 必ずなくてはならぬ、又其物。
 【須彌山】シユミセン 妙高山に同じ。
 【須彌壇】シユミダン 佛像を安置する臺。

【頌】漢シヨウ ヨウ ①たゞふめことば、又人の善行等をほめて作りし詩文②詩經の詩の一體にして盛徳をほめ歌ひ神に告げるもの③かたち(容)【同訓異義】ほむ、頌、譽其他の用法は九四〇頁の褒を見よ。

【頌美】シヨウビ ほめる、稱美。
 【頌聲】シヨウセイ ほめことば。

【頌】漢シヨウ ヨウ ①たゞふめことば、又人の善行等をほめて作りし詩文②詩經の詩の一體にして盛徳をほめ歌ひ神に告げるもの③かたち(容)【同訓異義】ほむ、頌、譽其他の用法は九四〇頁の褒を見よ。

【頌德】シヨウタク 人の徳をほめる。
 【頌辭】シヨウジ 功德を賞美する言詞。
 【頌德表】シヨウタクヘウ 人の功德をたゞへたる文章。
 【頌德碑】シヨウタクヒ 人の功德をしたゞめた頌文。
 咏頌エイ 推頌スキ 從頌ジユウ 偈頌キョウ
 善頌シヤウ 詩頌シヨウ 歌頌カ 稱頌シヨウ

【預】漢イ ①あらかじめ(豫)②國訓あづく(金品を一時他に託して保管させること)あづかる(金品を託せられて保管すること、かたじけなうする)

【同訓異義】あづかる、預、與、關其他の用法は一〇九八頁の關を見よ。
 【同訓異義】あらかじめ、預、豫、豫等の用法は九八六頁の豫を見よ。

【預金】ヨキ ①金銭を他へ預ける、又其金銭【預知】ヨチ ①あづかりしる、事にあづかること②あらかじめ知る、豫知。

【預買法】ヨバイフ 宋の王安石の立てた法律、民間に於て賣れぬ物品を政府があらかじめ買ひ上げ置き他日不足の生じた時を見計ひ普通の價にて賣拂ふ法律

頤

漢 グワン ①かたくな、お
吳 ゲン ②ろか、かたいぢ、
いつこく(むさぼる(食))

【頑民】グワンミン 舊俗を慕ひ新政を悦ばぬ
人民、又頑固にして愚かなる民。

【頑固】グワンコ ①かたくなにしておろか
いっこく、かたいぢ、又其者。

【頑陋】グワンロウ 頑固にしていやし。

【頑迷】グワンメイ ①かたくなでは非が分らぬ
かたくなで道理に暗い。

【頑冥】グワンメイ ①かたくなで道理に暗い。
かたくなで道理に暗い。

【頑健】グワンケン 自身の壯健をいふ謙辭。

【頑強】グワンキヤウ ①頑固で剛情(前)に同じ
皮肉病の一、たむし。

【頑癢】グワンセン 皮膚病の一、たむし。

【頑】 漢 フン ハン

【頑】 漢 フン ハン

【頑】 漢 フン ハン

【頑】 漢 フン ハン

【頑】 漢 フン ハン

【頑】 漢 フン ハン

【頑】 漢 フン ハン

漢 トン トツ 吳 ドン トチ
①ぬかづく、おじぎする(止)とじまる(止)
とむ(やぶる(敗))くじける(挫)つ
まづく(そばだつ(時))たむる、やど
り、宿舎(と)のふ(整)とみに、に
はかに(た)び(次)に(ぶ)し(鈍)

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

【頑】 漢 トン トツ 吳 ドン トチ

頤

漢 吳 カウ ①のど、のんど
吳 ガウ とびくたる

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり
慣用音 ギヨク したさま、
きぬけしたさま

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

頤

漢 吳 カウ ①のど、のんど
吳 ガウ とびくたる

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり
慣用音 ギヨク したさま、
きぬけしたさま

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【頤】 漢 キヨク 吳 ゴク ぼんやり

【領事】リヤウジ 本國政府の命令をうけて條
約國に駐在し通商交通の視察及び在留
邦人の保護取締に任ずる官吏。
【領承】リヤウシヨウ ①うけたまはる、承知する。
【領袖】リヤウシヨウ 多人數のかしらだつた人
團體の中心人物。
【領海】リヤウカイ 港灣・内海と共に其國の
主權下と認められる海面にして平時は
干潮の時に測り海岸から六里迄戰時に
於ては國防上必要な區域迄の海面。
【領域】リヤウキキ 領土の範圍内、領分。
【領會】リヤウクワイ ①心を得る。
【領解】リヤウカイ ①唐代にて郷試及第の稱
【前】に同じ。 「用ひし布帛」
【領巾】リヤウキン 上古婦人の頸にかけて飾りに
【領事館】リヤウジヨウカン 領事の事務をとる役所
【領事裁判權】リヤウジヨウバンケン 在留外人が其
駐在國の法律の支配を受けず自國の法
律によつて自國領事の裁判を受けると
首領リヤウボ 簿領リヤウ 要領リヤウ 交領リヤウ
監領リヤウ 總領リヤウ 綱領リヤウ

【頤】 漢 トウ ①からべ
吳 ツ かしら、
あたま、多人數の長(いた)き(頂)④
最もすぐれたる階級(こ)ごち、はじめ
【頤】 漢 トウ ①からべ
吳 ツ かしら、
あたま、多人數の長(いた)き(頂)④
最もすぐれたる階級(こ)ごち、はじめ
【頤】 漢 トウ ①からべ
吳 ツ かしら、
あたま、多人數の長(いた)き(頂)④
最もすぐれたる階級(こ)ごち、はじめ

【頭取】トウヂ かしら、又銀行會社等の代
表者となり業務執行の任に當る取締役
【頭領】トウリヤウ 頭目の(に)同じ。
【頭髮】トウハツ あたまのかみの毛。
【頭巾】トウキン 布帛製
のかぶり物。
【頭陀】トウダ 僧侶が托
鉢すること、又其僧侶。
【頭腦】トウノウ ①なうみそ、腦髓(物事を判
斷する力)物事の主要なる部分(を)をさ
【頭痛】トウツウ 頭がいたむ。「かしら、首腦
【頭金】トウキン 差金、差額。
【頭狀花】トウジヤウカク 多數の花が密着して
人頭の形に咲く花、菊の種類。
【頭陀袋】トウダフクロ 托鉢僧が首にかけてお
る食物を入れる袋、三衣袋。
【頭蓋骨】トウガイコツ 頭の骨ぐみの總稱。
【頭痛鉢巻】トウツウハチマキ 甚しく心配苦勞す
ることをいふ語。
烏頭ツ 白頭ハク
陣頭チン 圓頭エン
竹頭チク 店頭テン
心頭シン 蓬頭ホウ
岳頭ガク 船頭セン
路頭ロウ 筆頭ヒツ
搔頭ソウ 擡頭トウ
點頭テン 津頭チン
低頭テイ 蒼頭ソウ
叩頭コウ 亂頭ラン
樓頭ロウ 枝頭シ



(巾 頭)

風部

風

漢 フウ ① かせ、
 吳 フ かせが吹く、
 風にあたる、かせに吹かれる。② すゝむ、
 又風の如くはやい。③ をしへ(教)④ ⑤
 しきたり、ならはし、習慣。⑥ いきほひ
 (勢)威光。⑦ やうす、容姿。⑧ けしき、風景
 風致。⑨ うた(歌謠)⑩ 病氣の名、中風、か
 ぜ(感冒)きちがひ(狂疾)⑪ はなる(離)
 ⑫ ほのめかす、あてこする(調)又其詞
 【風力】 フウリキョク 風の吹く力の強弱。
 【風土】 フウド 氣候と其土地の有様。
 【風月】 フウゲツ ① 自然界の景色、清風と明
 月。② 風流を樂しむ。
 【風手】 フウバウ ① うるはしき姿。② 彼れの風手
 は豊満で落ちつきがある。
 【風化】 フウカ ① 風教に同じ。② 見習ひて善
 に移り染まる。③ 結晶體が空氣中にて其
 結晶水を失ひて粉末となる現象。④ 岩石
 が空氣中の水分を吸収して次第に崩れ
 る現象。「墓の土地を相する術」
 【風水】 フウスイ 山川水流の状態を察して墳
 【風呂】 フロ ① ふろば、ゆぶね。



(車風)

【風色】 フウシキョク ① 地表をおほふ大氣の顔色
 【風伯】 フウハク 風師に同じ。
 【風光】 フウクワウ ① ながめ、風景。② がら、
 やうす、おもかげ。
 【風車】 フウシャ ① 風力
 にて回轉する車、
 かざぐるま。② たう
 み、唐箕。③ ウイン
 ドミル、建物の上
 に發動機を裝置した風車。
 【風邪】 フウジャ かせひき、感冒。
 【風味】 フウミ ① 上品で美味。② ゆたかな人品
 【風來】 フウライ ① 風の吹き來ること。② 住所
 が定まらぬ。③ きまぐれ。④ 役にたゝぬ。
 【風物】 フウブツ やうす、又景物。
 【風采】 フウサイ ① 人の姿、風貌。② 官吏の非
 行を彈劾する爲め御史に差出す書。
 【風刺】 フウシ 遠廻しにそしる、諷刺。
 【風波】 フウハ ① かせとなみ、なみかせ。②
 あらそひ、もめごと。③ 人世のわづらひ。
 【風尙】 フウシヤウ ① 人々の好み。② やうす、姿
 【風指】 フウシ 遠廻しにさすとす。
 【風紀】 フウキ ① 一般の風儀、ならはし。②
 習俗を取締る規則。「面白味、趣味」
 【風致】 フウチ ① 人のやうす、おもむき。②
 【風流】 フウリウ ① なごり、餘流。② 上品。③ 世俗

より離れて詩文を作り高尙な遊をする
 【風患】 フウケン 風疾の①に同じ。
 【風俗】 フウソク ① 一般に習慣のこと。② 其土
 地にて行はれる詩歌、俗謠。③ みなり、服
 裝、いでたち、民俗、風習。
 【風骨】 フウコウ ① 身體のたち、やうす。
 【風神】 フウシン ① ひとがら、人品。② おもむ
 き、おもしろみ。「き人品」
 【風格】 フウカク ① 人品、ひとがら。② けたか
 【風氣】 フウキ ① 人生に及ぼす自然界の力
 ② 氣候。③ 風俗、民風。④ 風により吉凶を
 占ふ術。⑤ けたかき人がら。⑥ ちゆうき、
 中風。⑦ 風邪、ひきかせ。
 【風師】 フウシ かせの神。
 【風害】 フウガイ 暴風のために受ける損害。
 【風浪】 フウラウ 風と大なみ。
 【風疾】 フウシツ ① 氣のふれる病、精神病、
 氣が狂ふ病。② 風の如くはやい。
 【風教】 フウケウ 民俗に應じて行ふ教育。
 【風袋】 フウタイ ① 量る物の容器の目かたの
 總稱。② 無用なるつひえ。
 【風雪】 フウセツ 風と雪。
 【風船】 フウセン 輕氣球
 のこと、戦争の時
 など敵狀を偵察す
 るに用ひらる。



(船風)

【風通】 フウツウ 浮織にした精巧な絹布の名
 【風眼】 フウガン 目に膜が入つて起る眼病。
 【風鳥】 フウチウ 熱帶産の鳥の一、極樂鳥。
 【風習】 フウシヨウ ならひ、ならはし、しきたり
 【風評】 フウヘイヨウ 風説に同じ。「しろみ」
 【風情】 フウセイヨウ やうす、おもむき、おも
 【風雅】 フウガ ① みやびやかなこと、又詩歌
 をつくるなど高尙なる遊び。
 【風裁】 フウサイ 風采の①に同じ。
 【風琴】 フウキン ① オルガン。② 手風琴。③ 風鈴
 【風景】 フウケイ ① けしき、ながめ、風光。②
 すぐれたる景色。③ 人がら、やうす。
 【風發】 フウハツ 風の如く議論の盛んなる貌
 【風雲】 フウウン ① 風と雲、風や雲。② 物事の
 【風鈴】 フウリン 軒端につるす鈴。「成行き」
 【風蕩】 フウエン ① たこ、いかのぼり、紙蕩。
 【風説】 フウセツ ① うはさき、風聞。
 【風貌】 フウバウ 風采の①に同じ。
 【風塵】 フウジン ① 兵亂、戦亂。② この世、俗
 世界。③ 俗事、わづらはしき務。
 【風聞】 フウブン ① うはさき、うはさきにきく。
 【風儀】 フウギ ① 美しき容貌。② やうす、す
 がた、身のこなし。
 【風趣】 フウシュ ① おもしろみ、おもむき、雅致
 【風潮】 フウチウ ① 風と共に流れるうしほ。②
 世のありさま、時世の傾向。

【風調】 フウテウ ① やうす、おもむき。② 詩歌
 などの調子。③ やりかた、しかた、流儀。
 【風燈】 フウテウ ① 風の中の燈火、人生のはか
 ないこと。② 喩。「をつかさどる役人」
 【風意】 フウイ ① 風紀取締のおきて、又それ
 【風語】 フウゴ ① はやりうた、流行の俗語
 ② 詩經の國風にあらはれたる歌。
 【風聲】 フウセイ ① 土地の風俗に應じて教化
 すること。② 風のたより、音信。③ 風の音
 ④ 風格と名聲。「章の形容」
 【風霜】 フウサウ ① かせとしも。② 森嚴なる文
 【風燭】 フウジュク 風燈に同じ。
 【風鎖】 フウソク 掛物の兩端に懸るおもり。
 【風韻】 フウウン ① 風雅なるおもむき。② 風の
 おと。③ 人のやうす、人がら。
 【風靡】 フウビ ① 風に草のなびく如く皆し
 たがふこと。② 風がそよぐ。
 【風爐】 フウロ ① なりかたち、風爐。
 【風爐】 フウロ ① 茶の湯をわ
 かす鼎形の火器。② ふろ
 【風騷】 フウサウ ① 詩經の國
 風と離騷。② 風流韻事の
 遊。
 【風籟】 フウサイ 風のおと。「あらはす語」
 【風馬牛】 フウバウ ① 無關係なる意味を言ひ
 【風前燈】 フウゼン ① トモシビ 風燈に同じ。



(爐風)

【風媒花】 フウバイカク 風力によりて他花の花
 粉を受けて結實する花。「活動する者」
 【風雲兒】 フウウンニ 乗すべき事變に際して
 【風信子】 フウシネ ① 百
 合科の多年生草本
 で地中海沿岸に原
 産し地下の鱗莖か
 ら披針形の厚い葉
 が叢生しその中か
 ら出た花莖に總狀花が開く。
 【風雲之會】 フウウンノクワイ 龍虎が風雲に乗ず
 る如く英雄が明君に用ゐられて功名富
 貴を得ること。「る、野宿すること」
 【風餐露宿】 フウサンロシュク 風を食ひ露にね
 【風聲鶴唳】 フウセイカクレイ 風の音と鶴の聲、
 恐れて少しの物音にも驚く形容。② 鶴
 涙と書き又ははかふるゑと讀むは誤り。
 【風櫛雨沐】 フウシウウモク 雨や風にさらされ
 ること、櫛風沐雨。
 光風 フウクワウ 國風 フクク
 暴風 フウバウ 迅風 フン
 涼風 フウリヤウ 凱風 フガイ
 曉風 フウキョウ 曙風 フウシヨウ
 大風 フウダイ 猛風 フウマウ
 屏風 フウビヤウ 仁風 フウニ
 背風 フウハイ 冷風 フウレイ
 谷風 フウコウ 穀風 フク
 狂風 フウキヤウ 類風 フルイ
 旋風 フウセン 晨風 フウシン
 旦風 フウタン 溫風 フウオン
 剛風 フウコウ 勁風 フウキョウ
 古風 フウコ 順風 フウジュン
 商風 フウショウ 喧風 フウケン



(子信風)

【首唱】シユシヤウ ①となへはじめ、主唱する。②一座中にて最も早く詩を作りしものこと。【注意】主唱と書くは誤り。

【首魁】シユクワイ かしら、重なる者。

【首領】シユリヤウ ①かうべ、くび。②人を率ゐるもの、かしら、をさ。

【首飾】シユシヨク くびわ、くびかさり。

【首謀】シユボウ 主となりて事を起す、又其人【首丁頭巾】シユチヨウズケン 昔時剃髮者が被つた一種の頭巾でおもに出陣に際して被つたもの。

【首鼠兩端】シユリスウワタン 何れとも決せず豫すること、鼠が穴から首を出して様子を見て居る意、ひよりみ、洞ヶ峠。

【抑首】ヨウシユ 冠首クワンシユ 年首ネンシユ 陣首ジンシユ 翹首セウシユ 敵首テキシユ 頌首ソウシユ 甲首ケウシユ 盟首メイシユ 行首コウシユ 自首ジシユ 元首ユシユ 稽首キシユ 頓首トンシユ 叩首コウシユ 反首ハンシユ 亂首ランシユ 鷄首キシユ 梟首セウシユ



(市頭丁首)

【首陀】シユダ 印度四姓の一、農民階級。

【首府】シユフ 中央政府のあるみやこ。

【首肯】シユケン がてんする、うなづく。

【首相】シユシヤウ 内閣総理大臣の異稱。

【首夏】シユカ 夏のはじめ。

【首座】シユザ ①かみざ、首席。②僧の職名。

【首席】シユシヤク 一番の首席、又其の資格、首席。

【首將】シユシヤウ 大將、主將。「位」。

【首班】シユハン 首席に同じ。

【首級】シユキウ くび、討ち取つた首。

【首途】シユト はじめて旅に出る、かどで。

【首都】シユト 首府に同じ。

【馘】クヅ 漢キキウ ①みち(遠)八達の名。吳ギグ 道。②鍾馘は神の名。

【導】ドウ 七一畫 三一四頁の導を見よ。

【馘】クヅ 八畫 漢クワク キョク 又首をきる。①斬取りたる耳又は首。かほ(顔)おもて(面)。

【馘耳】クヅミミ きる。「免職させる」。

【馘首】クヅシユ くびをうちきる、轉じて

香部

【香】カウ 漢キヨウ ①かほ。ほひ、か。②かんばし、かうばし。③にほふ、かをる、薫ず。④にほひぶくる、又たきもの等の料。

【香水】カウスイ 香料を水にとしたる液。

【香合】カウガフ ①黍の異名。②香料をいれる箱。いろ／＼の香を焚きその香ひをかぎわける遊戯の名、香道。

【香味】カウミ かほりとあぢはひ。

【香油】カウキウ 香のいりたる油。

【香花】カウカワ 佛に捧げる香と花、香華。

【香雪】カウセツ ①白き花の形容。②茶の異名。

【香魚】カウギョ 鮎の異名。

【香盒】カウコウ 香合の①に同じ。

【香篋】カウケン 靈前に捧げる供物、香典。

【香華】カウカ 香花に同じ。

【香煙】カウエン 香火のけむり。

【香道】カウダウ 香合の②に同じ。

【香夢】カウム 春の花時に見る夢。

【香魂】カウコン 花の精又は婦女子の魂魄。

【香草】カウソウ 椎茸の異名。

【香橋】カウキョウ 果樹の一種、くねんぼ。

【香爐】カウロ 香を焚く道具。

【香具師】カウグシ ①香又はほひ袋などを商ふ者。②みせものし、やし。



(爐香)

【香華院】カウカエン 菩提所、だんな寺。

【香爐峯】カウロホウ 江西省九江縣の西南にして廬山の北にある山。「れるさま」。

【香粉塵】カウコウジン 美人にとりかこま

【暗香】アンカウ 麝香セウカウ 檀香タンカウ 幽香ユウカウ

【焚香】タンカウ 燒香セウカウ 芳香ホウカウ 嬌香キョウカウ

【丁香】チウカウ 馨香シンカウ 花香カウカウ 異香イカウ

【奇香】キカウ 清香セイカウ 沈香シンカウ 餘香ヨウカウ

【馥】フク 漢フク ①かんばし、かうばをる、かをり、よきにほひ。

【馥郁】フクイク 香氣の盛んなるさま。

【馥馥】フクフク かうばしきにほひ。

馨

漢ケイ ①かん 吳キヤウ ばし、かうばし、かをる、名聲があがる。②かをりよきにほひ、名譽、ほまれ。③語勢を強めるための助詞。

馬部

【馬】バ 漢バ ①馬。吳メム

【馬】バ 慣用音マ

①家畜の一、うま。②投壺のかずとり。③獨逸の貨幣の單位、馬克の略(我約四十八錢にあたる)。④國訓うま(遊興費を拂はぬ者を取り立てる爲め其客について行くかけとり)大なるもの、形容

【馬力】バリキ ①一分間に三萬三千ポンドの重量を一フートの高さに擧げ得る力

を標準とする工率の單位、即ち一馬力は一一分間に四千三百キログラムの重さを一メートルの高さに擧げる力。②力を出すこと、努力する、性慾の香味より一所懸命に働くこと。

【馬丁】バテイ ①べつたら、馬の口とり。②馬匹。

【馬匹】バヒツ うま。「うまかた、まご」。

【馬矢】バシ 馬のくそ。

【馬市】バシ 唐玄宗の時に始まりしものにて金帛及茶類と蒙古地方の馬とを交易すること。

【馬印】バイン うまじの側、戰陣で大將の側に立て、隊長の居る場所を示す目あてとした武器。

【馬車】バシャ 馬に牽かせる乗用車。

【馬具】バグ うまに使ふ道具。

【馬政】バセイ 馬に關する政務。

【馬商】バシヤウ ばくらふ。

【馬前】バゼン 君主又は貴人のまへ、御前。

【馬食】バシヨク ①四つばひになり口を食器に入れてくふ。②馬の如く多く食ふ。

【馬陸】バリク やすで、形むかでに似て濕地に棲息する臭氣ある蟲。

【馬術】バジユツ うまに乗る技術。

【馬鹿】バカ 愚人、秦始皇帝の時趙高が鹿



(印馬)

【馬場】馬を走らしならす所、又良馬を飼つて横行する山賊。



(馬)

【馬頭】馬の脊の上のうまの頭。はとば、準頭。地獄の獄卒の名。

【馬蹄】馬の蹄の一枚。示す語。草の一、かんあふひの類。

【馬鈴薯】芋の一種、じやがいも。【馬酔木】山野に自生する小木、あしび、あせみ。

【馬革裹屍】バカレカバカツツム 馬のかはに死骸を包む、戰場にて討死する。

【馭】漢ギョ つかふ、馬を使ひなして人を使ひこなす。【馭者】車馬をつかふ人。

【馭】漢ギョ つかふ、馬を使ひなして人を使ひこなす。

【馮】漢ヒヨウ 馮、徒涉。【馮】漢ヒヨウ 馮、徒涉。

馮のはやく走る貌。人の姓。馮河 血氣にはやる無謀な勇氣。馮怒 大に怒る、劇怒。

馮のはやく走る貌。人の姓。馮河 血氣にはやる無謀な勇氣。馮怒 大に怒る、劇怒。

馮のはやく走る貌。人の姓。馮河 血氣にはやる無謀な勇氣。馮怒 大に怒る、劇怒。

馮のはやく走る貌。人の姓。馮河 血氣にはやる無謀な勇氣。馮怒 大に怒る、劇怒。

馮のはやく走る貌。人の姓。馮河 血氣にはやる無謀な勇氣。馮怒 大に怒る、劇怒。

【驚】はあちらこちらと亂れ馳する意。【馳走】はしる。人をもてなす、又其飲食物。【馳逐】馬をはせて追ひかける。【馳騁】馬をはしらす。【馳道】天子又貴人の通行する道筋。【馳驅】はせかける。【馳驅】はせかける。【馳驅】はせかける。



(鹿 馴)

女が野合する。ぐるになること。

馭 漢ハク 馭ホク 馭ぶち、馭ぶち馬の純粋ならざること。馭の議論や意見などを否認す。

馭 漢ハク 馭ホク 馭ぶち、馭ぶち馬の純粋ならざること。馭の議論や意見などを否認す。

馭 漢ハク 馭ホク 馭ぶち、馭ぶち馬の純粋ならざること。馭の議論や意見などを否認す。

馭 漢ハク 馭ホク 馭ぶち、馭ぶち馬の純粋ならざること。馭の議論や意見などを否認す。

馭 漢ハク 馭ホク 馭ぶち、馭ぶち馬の純粋ならざること。馭の議論や意見などを否認す。

馭 漢ハク 馭ホク 馭ぶち、馭ぶち馬の純粋ならざること。馭の議論や意見などを否認す。

馭 漢ハク 馭ホク 馭ぶち、馭ぶち馬の純粋ならざること。馭の議論や意見などを否認す。

馭 漢ハク 馭ホク 馭ぶち、馭ぶち馬の純粋ならざること。馭の議論や意見などを否認す。

馭 漢ハク 馭ホク 馭ぶち、馭ぶち馬の純粋ならざること。馭の議論や意見などを否認す。

馭 漢ハク 馭ホク 馭ぶち、馭ぶち馬の純粋ならざること。馭の議論や意見などを否認す。

【駕丁】ガタイ かごかき、輿丁。
 【駕六】ガロク 天子の車。「人を使ふこと。
 【駕御】ガキョ 馬をつかひならす、轉じて
 【駕説】ガセツ あげる、あぐ。
 【駕取】カギョ 前に同じ。
 【駕籠】カゴ 人をのせてかきゆく乗物。
 【駕籠訴】カゴソ 徳川時代將軍大名などの通行の途中にて直訴せしこと。



(訴籠駕)

【駑】ド 漢ドのろき馬、にぶき馬。吳×ロ才能がにぶくて愚役にたゝぬにぶき馬。
 【駑質】ドレツ 能のぶきこと。
 【駑鈍】ドレン 才能のぶきこと。
 【駑駘】ドタイ 駑馬に同じ。

【駞】漢タイ ①にぶし(鈍)にぶき馬、又にぶき者②ぬぐ(脱)馬のくつわがはづれる、くつわをぬがす③ひろびろとしたる貌、又春の長閑なるさま④姿のみにくきさま
 【駞落】タイクワ 長閑なる貌、廣々とした貌。

【駢】漢ソ そへうま、副車の馬
 【駢馬】フバ 駢馬都尉といふ官名の略
 天子又は王の女嬀の義に用ふ。
 【駢疾】漢吳 ①はす(馳)疾走②とし(疾)はやし
 【駢駝】漢タ ①駞駝は獸の一口せむ鳥は野鳥の一
 【駢車】漢吳 ①四頭の馬(古代の馬の左右を駞又駢といひ中の左右を服といふ)②四頭立の疾馬車「るもの。
 【駢馬】シバ 四頭だての馬車にて貴人の乗

【駞】漢ソ 一六〇頁の駞を見よ。
 【駞】漢ソ 八二二頁の駞を見よ。

【駞】漢ソ 八二二頁の駞を見よ。
 【駞】漢ソ 八二二頁の駞を見よ。

【駞】漢ソ 八二二頁の駞を見よ。
 【駞】漢ソ 八二二頁の駞を見よ。



(駞駞)

【駞】八二二頁の駞を見よ。

【駞】漢吳 ①すぐれ
 ②すぐれる(俊)又其者③すみやか、はやし④おほいなり(大)⑤たかし(高)けはし(峻)きびしい
 【駞足】シユンソク 駞馬に同じ。
 【駞良】シユンリヤウ すぐれてよし、又その者。
 【駞莊】シユンソウ すぐれてよきかんなり。
 【駞馬】シユンバ すぐれてよきうま。
 【駞骨】シユンコツ 駞馬のほね。
 【駞逸】シユンイツ ①優れて疾し又勢ひさかんなり②人材の優れたること、俊逸。逸駞シユン 良駞シユン 神駞シユン 龍駞シユン 精駞シユン 勁駞シユン 奔駞シユン 駞駞シユン

【駞】漢吳 ①馬の走る貌②物事の進行のはやくき貌
 【駞事】シユン ①馬のはやく行くさま
 【駞勢】シユンシヨ ①物事の勢ひよく進むさま。
 【駞馬】カンバ あばれ馬。「ともいふ
 【駞】漢ソ 誤り、赤黄色の馬

【駞】漢ソ 誤り、赤黄色の馬
 【駞】漢ソ 誤り、赤黄色の馬

【駞】漢ソ 八二二頁の駞を見よ。

【駞】漢ソ 八二二頁の駞を見よ。

【駞】漢ソ 八二二頁の駞を見よ。

【駞】漢ソ 八二二頁の駞を見よ。

【驚惶】キヤウワウ おどろきおそれる。
 【驚逸】キヤウイッ おどろきて逃げる。
 【驚愕】キヤウガク 驚駭に同じ。
 【驚慌】キヤウワウ 驚きて恐る。「ほめるさま」
 【驚嘆】キヤウタレ ①おどろきなげく②甚だ
 【驚魂】キヤウコン 神氣をおどろかすこと。
 【驚駭】キヤウガイ おどろく、驚愕。
 【驚濤】キヤウタウ さかまく波。
 【驚潰】キヤウクワイ 驚きて逃げ散る。「れる」。
 【驚壓】キヤウエツ 夢におそはれる、うなざ
 【驚擾】キヤウゼウ おどろき騒ぐ。
 【驚懼】キヤウク 驚きおそれる。
 【驚鴻】キヤウコウ 驚いて飛たつ白鳥、美人の
 輕くしなやかなる容姿を轉じて美人。
 【驚瀾】キヤウラン 驚濤に同じ。「ろかすこと」。
 【驚天動地】キヤウテンドウチ 甚しく世間をおど
 一驚キヤウ 吃驚キヤウ 震驚キヤウ 喫驚キヤウ
 【驛夫】キヤウフ 停車場の人夫。
 【驛使】キヤウシ ひきやく、飛脚。

【驛舍】キヤウシャ はたごや、驛戸。
 【驛長】キヤウチャウ ①宿場の頭②停車場の長
 【驛券】キヤウケン しゆくばにて人馬を徵發す
 するために用いた符。
 【驛亭】キヤウテイ うまつぎば、しゆくば。
 【驛馬】キヤウバ 驛傳に使用する馬。
 【驛站】キヤウタン 前に同じ。
 【驛程】キヤウテイ 驛路の里程、旅路。
 【驛路】キヤウロ たびぢ、驛程。
 【驛鈴】キヤウレイ 昔官人が
 諸國へ赴く時朝廷か
 ら賜つた鈴で驛路の
 人馬を徵發する章と
 して振つたもの、五
 きろのすい。
 【驛遞】キヤウテイ ①うまつぎ、しゆくつぎ②
 次から次へと送り届ける。「昔の官署」。
 【驛遞局】キヤウテイキョク 郵便事務を取扱ひし
 【驛傳競走】キヤウデンキョウソウ 長距離競走の時
 各組の選手が或一定の地點にて次の選
 手と代つて競走すると、リレーレース。
 傳驛キヤウ 飛驒キヤウ 路驛キヤウ 馬驛キヤウ
 【贏】一一六〇頁の驛を見よ。
 十四畫



(鈴 驛)

【驟】漢シウ ①はす(驢)疾く走る
 吳ジュ
 ②すみやか、には
 か、突然のしほし
 ば(數)たびく
 【驟雨】シウウ ゆふだ
 ち、にはかあめ。
 十六畫
 【驢】漢リョウ うさぎう
 吳ロ マ、ろば
 【驢馬】ロバ うさぎうま。
 十七畫
 【驥】漢ウ ①一日に千里走る程の
 名馬②才能の優れた者
 【驥足】キツク 駿馬の足、轉じてすぐれた
 る才能。
 【驥尾】キビ 駿馬の尻、轉じてすぐれたる
 十八畫
 【驪】漢ウ ①馬の
 爾さま②よるこぶ(獸)
 【驪迎】クワンゲイ よるこびむかへる。
 十九畫
 【驪】漢ウリ ①純黒色の
 漢レイ 吳ライ 馬、くろう



(雨 驟)

骨部

【骨】漢コツ ①ほね、物事を組みたて、支持するもの
 ②剛直にして容易に人に屈せぬ氣象
 ③新羅の族制の稱④國訓ほね(くみた
 ての心となるもの、手數、勞力)こつ(火
 葬の後に残る骨、はずみ、調子)
 【骨力】コワリョク 書畫などの筆づかひ。
 【骨子】コツレ かなめ、しん、要點。
 【骨立】コワリツ 身體の甚しくやせたる貌。
 【骨法】コワハフ ①骨力に同じ②骨格に同じ
 【骨肉】コワニク 血を分けたる親族、父子兄
 弟の如き間柄の者。「運命・氣象・人相」
 【骨相】コワサウ 顔貌にあらはれたる其人の
 【骨炭】コワタン 獸骨を蒸焼にした炭。
 【骨格】コツカク ほねぐみ、骨格。
 【骨肥】コツヒ 動物の骨を粉にした肥料。
 【骨堂】コツドウ 死者の骨を納める堂。
 骨部 (三一—七畫)

【骨梗】コツカウ すちばりてこはし。
 【骨牌】コツパイ ①骨製のふだ②かるた。
 【骨董】コツトウ 古き書畫・刀劍其他の道具類
 【骨幹】コツカン 骨格に同じ。
 【骨節】コツセツ 骨のつがひ、骨關節。
 【骨膜】コツマク 骨の表面をおほふ強靱にし
 て薄き絹の如き光澤ある膜。
 【骨盤】コツパン 脊柱の下端と腰部の骨とか
 らなる大きな骨、軀幹の下部にある。
 【骨條】コツカウ 骨格に同じ。
 【骨鯁】コツカウ 憚らずして君主の缺點を直
 陳すること、又其人。「かなめ、眼目」
 【骨髓】コツズキ ①骨と其心②衷心、心底③
 【骨董飯】コツトウハン ごもく飯。「ころの節」
 【骨關節】コツクワンセツ 骨と骨と相接すると
 【骨肉相食】コワニクアヒム 父子兄弟の間に於
 て互に相争ひ殺しあふこと。
 骸骨コツ 筋骨コツ 病骨コツ 英骨コツ
 白骨コツ 枯骨コツ 風骨コツ 仙骨コツ
 朽骨コツ 腐骨コツ 奇骨コツ 俠骨コツ
 尸骨コツ 異骨コツ 凡骨コツ 弱骨コツ
 氣骨コツ 玉骨コツ 肌骨コツ 佛骨コツ
 三畫
 【骨】漢ウ カン すね、はぎ
 吳ゲン

【骸】漢カイ ①ほね
 ②死骸をうめる所。「トクス」
 【骸所】ガイシヨ 死骸をうめる所。「トクス」
 【骸炭】ガイタン 瓦斯を取りし後の石炭、コ
 【骸骨】ガイコツ ①ほね、人の骨がら②から
 だ、身體③骸骨を
 乞ふは仕官の身を
 退くこと。
 衰骸ガイ 羸骸ガイ 形骸ガイ 窮骸ガイ
 【骸】漢カク ①骨、さればね、
 吳キヤウ 死人の骨、禽獸の
 骨、枯骨②又牲の後の脛骨
 七畫
 【骸】一一七五頁の骸を見よ。
 一一六三



(骨 骸)

【高原】カワケン 山脈にとりかこはれた高地
 【高恩】カウオン 高大なるめぐみ、洪恩。
 【高座】カウザ ①他よりも一段たかく設けたる座席。②寄席などの演壇をいふ。
 【高峻】カウシユン ①山の高くけはしきこと。②底知れぬ見識。「ら受ける教の敬語」。
 【高訓】カウケン ①たつときをしへ。②他人か
 【高教】カウケウ たつときをしへ。
 【高唱】カウシヤウ 聲を大にしてとなへる。
 【高情】カウジヤウ ①けだかきこゝろ、高尚なるおもむき。②他人より受けし志をいふ敬語。
 【高堂】カウダウ ①高きざしき。②他家の敬語
 【高貴】カウキ ①身分たつときこと、又その人。②價のたかきこと。
 【高評】カウヒヤウ ①よきひやうばん。②自分に對して下す人の批評の敬稱。
 【高第】カウダイ 官吏の登用試験に於て成績のすぐれたるもの、高科。
 【高勁】カウケイ 氣高くつよい。
 【高展】カウケン 高い木履、たかあーだ。
 【高浪】カウロウ 高いなみ。
 【高翔】カウシヤウ 空中を高くとぶ、高飛。
 【高詠】カウエイ ①こわだかに歌ふ。②他人の作つた詩歌の敬稱。
 【高傑】カウケツ 氣高くすぐれる、又其人。

【高逸】カウイツ 高くすぐれる。
 【高意】カウイ 高くすぐれたこゝろ。
 【高跳】カウテウ 高くをどりあがる。「稱」
 【高話】カウワ ①高尚な話。②他人の話の敬
 【高等】カウトウ ①品柄のたかきこと。②すぐれたる等級。
 【高雅】カウガ ①けだかくして正し。②上品
 【高祿】カウロク 多くの扶持。
 【高會】カウクワイ 盛んなるよりあひ。
 【高梁】カウリヤウ 穀類の一、もちあは。
 【高義】カウイ ①優れたる行爲、又其の心がけ。②他人に對する義理だて。
 【高慢】カウマン たかぶりおごる。
 【高歌】カウカ たかき聲にてうたふ。
 【高閣】カウカク 二階・三階の家、たかどの。
 【高廈】カウカ 高大なる家屋。
 【高遠】カウエン ①高くしてとほし。②けだかくして奥ぶかし。③志のけだかきこと。
 【高説】カウセツ ①高尚なる説、又すぐれたる解説。②他人の説の敬稱。
 【高僧】カウソウ 徳望高き僧侶。
 【高誼】カウイ ①けだかきみさを。②すぐれたるみち。③他人の厚意の敬稱、おなまけ、あつきよしみ。
 【高德】カウトク すぐれたる徳、又其徳ある人
 【高遷】カウセン 位が上る、身分がよくなる。

【高調】カウテウ ①高き調子。②物事の最も盛んになりたる時期。③主義や意義などを力づく主張すること。
 【高潔】カウケツ ①正しくいさぎよくして利慾に迷はぬこと。②けだかくして清し。
 【高價】カウカ ①ねだんの高きこと、たかね。②よき評判。③價值ある人物。
 【高潮】カウテウ ①満潮の極點に達したる時。②時勢・感情等が最も盛になりし時期。
 【高趣】カウシュ 高尚にして世俗を離れたるけだかきおもむき。「話の敬稱」。
 【高談】カウタン ①思ふ存分に話す。②他人のこと。③たかとび、遠方へ去る。
 【高節】カウセツ 高風の。①に同じ。「の敬稱」
 【高論】カウロン ①高遠な議論。②他人の議論
 【高興】カウキヤウ 大なるおもしろみ。
 【高賢】カウケン 徳高くすぐれる、又其人。
 【高臺】カウダイ 小高くして上の平らな地面
 【高聲】カウセイ 大どろ、大音。
 【高蹤】カウシヨウ 氣高いぎやうせき。
 【高類】カウライ 高いひたい、隆額。
 【高齋】カウサイ 高くあがる。
 【高齡】カウレイ 高年に同じ。
 【高議】カウギ 高いけんしき。
 【高顯】カウケン 高くあらはれる。

【高覽】カウラン 他人の見ることの敬稱。
 【高壓】カウアツ ①空氣の壓力強きこと、又その壓力。②強く押しつける。
 【高邁】カウマイ たかくすぐれる。「へ行く」。
 【高擧】カウキョ ①勇退して隠居する。②遠方
 【高燥】カウサウ 土地が高く空氣が清澄。
 【高爵】カウシヤク たかき身分。
 【高懷】カウクワイ 高尚なるこゝろ。
 【高議】カウギ ①けだかき議論。②思ふ存分に議論すること。③他人の議論の敬稱。
 【高譽】カウヨ 高名に同じ。「を業とする人
 【高利貸】カウリカシ 高利の金を貸す、又それ
 【高祖父】カウソフ 祖父の祖父。
 【高祖母】カウソボ 祖母の祖母。
 【高等官】カウトウカン 官吏等級の一、親任官以外に一等より九等迄ありその三等迄を奏任官、二等以上を勅任官といふ。
 【高踏的】カウタフテキ 世俗を超越し専ら形式を主とする貴族的思想をもつこと。
 【高踏派】カウタフハ 思想上の貴族主義にて十九世紀の中葉佛國詩壇に起りしもの
 【高温度】カウワンド 高い温度、高い熱度。
 【高御座】カウミクワ ①
 朝廷の大儀に於ける天皇の御座。②天子の御位。



(座御高)

【高瀬船】カウセフネ 細長くて底の平らな船
 【高材疾足】カウサイシツク 才智がすぐれたるばやい。
 【高空心理】カウクウシンリ 飛行家が高空にて
 【高架鐵道】カウカウテウ 地上高くかけし橋梁の上に架設する鐵道。
 【高等内侍】カウトウナイシ 淫賣婦の上品なる者をしやれていふ語。
 【高級貧民】カウキョフミン 物價騰貴の爲め相當の月給を取り乍ら貧乏する者。
 【高等幫間】カウトウハワカン 紳士でありながらむやみに相手の機嫌を取ることに憂身をやつす者を卑めていふ語。
 【高等遊民】カウトウユウミン 高等の教育を受けし者にして職業なく遊び居るもの。
 【高麗寶塔】カウライホウトウ 庭園に据ゑる三重又は五重の石燈籠
 【高調音樂器】カウテウガクキ 洋樂の木製管樂器で最も高い調子のもの。
 澄高カウヨウ 貞高カウテイ 特高カウトク 清高カウセイ
 隆高カウロウ 卑高カウヒ 尊高カウソン 崇高カウシュウ



(樂音調高)



(塔寶麗高)

【髻】カウゲツ 四六六頁の髻を見よ。
 【敲】カウカウ 五五五頁の敲を見よ。
 【敲】カウカウ 五五五頁の敲を見よ。
 【敲】カウカウ 五五五頁の敲を見よ。
 【藥】カウヤク 五四〇頁の藥を見よ。
 【藥】カウヤク 七五八頁の藥を見よ。
 髻部
 【髻】カウゲツ 漢吳ヘウ ①髮の長く國訓かみかんむり、かみがしら(漢字畫上の語)
 【髻】カウゲツ 漢コツ 吳コチ ①そる、髮を剃る。②古代刑罰の一、髮を剃り落すもの。
 漢 テイ セキ そへがみ、
 吳 タイ シヤク かもじ

